

# 特記仕様書

工事名称	明神会館耐震改修工事（建築主体工事）
工事場所	三原市明神一丁目
工事内容	明神会館の耐震改修工事等をする。  【工事概要】（昭和53年建築，平成5年一部改修） <ul style="list-style-type: none"><li>・耐震改修工事</li><li>・内装改修工事</li></ul>
準 則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)(令和4年版)，公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)(令和4年版)，建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）(国土交通省官房官庁営繕部監修)に基づき施工する。
別途工事	<ul style="list-style-type: none"><li>・明神会館耐震改修工事（電気設備工事）</li><li>・明神会館耐震改修工事（機械設備工事）</li></ul>
関係法令等	本工事については，次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>・建築基準法，同施行令，同施行規則</li><li>・消防法，同施行令</li><li>・廃棄物の処理及び清掃に関する法律，同法施行令，同法施行規則</li><li>・労働安全衛生法，同法施行令，同法施行規則</li><li>・建設業法，同施行令，同施行規則</li><li>・建設工事公衆災害防止対策要綱</li><li>・石綿障害予防規則</li><li>・大気汚染防止法，振動規制法及び土壌汚染対策法</li><li>・建設工事に係る再資源化等に関する法律，同法施行令</li><li>・その他関係法令</li></ul>
疑義変更	本設計図書は，設計の概要を示すものであり，詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 着手前，施工中は本設計図書との整合を確認すること。 別途工事の設計図書について，取り合いなどの整合を確認すること。 施工に際して疑義が生じた場合，または軽微な変更を必要とする場合には，速やかに監理者と協議後，監督員の指示により施工すること。ただし，これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。 本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は，その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し，かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	施工に先立ち，工事工程表，仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し，監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については，当該商品又は同等品を使用するものとし，同等品を使用する場合は，監督員の承諾を受けること。 設計図書に定める品質及び性能を有することについて，証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工 期	本工事は請負契約締結の後，令和6年2月29日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・入札に先立ち，現地調査を十分にを行い，質疑がある場合は入札前に確認すること。</li><li>・図面に明示されていない事項であっても，工事上必要とされる事は工事範囲とする。</li><li>・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし，あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は，この限りではない。</li><li>・本工事は居ながら工事を基本とし，必要に応じて施設使用者の通行制限を行うこととする。工事の詳細について</li></ul>

は、事前に施設管理者等への説明を行って承諾を得ること。

- ・1階和室研修室を放課後児童クラブとして使用する。使用時間は、小学校の長期休暇中（7月21日～8月31日、12月24日～1月6日）は終日、それ以外の平日は14時以降、土曜は終日使用する。
- ・著しい騒音・振動等の発生が予想される作業については、放課後児童クラブとしての使用時間を避けるなど配慮して作業を計画すること。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・工事関係者等の作業に関わる全員については、周辺住民への心遣いとして挨拶を徹底すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・騒音については、騒音規制法(特定建設作業)により、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。
- ・振動については、振動規制法(特定建設作業)により、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。
- ・コンクリート解体などの著しい騒音が予測される工事については、開口部に防音シートを設置するなどの対策をして、近隣住民等に配慮すること。
- ・「低騒音型、低振動型建設機械」として指定を受けた機械を使用すること。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡してすること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、原状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・敷地境界付近には仮囲い（高さ1.8m以上）を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所にも交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、場内を5km/h以下で徐行すること。
- ・工事区域内にある残置する設備配管等については、事前に位置を十分確認してから作業を行うこと。
- ・記念碑等の移設が必要な場合は、事前に関係者と移設場所・方法・時期等を協議の上で実施すること。
- ・仮設照明等を適切に設置すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・枠組足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合させて施工すること。
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、わくその他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日翌日から10年間責任を負うこと。
- ・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
- ・石綿含有建材の調査について、工事着手前までに書面及び目視調査を、一般建築物石綿含有建材調査者、特定建築物石綿含有建材調査者、建築物石綿含有建材調査者、日本アスベスト調査診断協会の登録者が行うこと。

- ・石綿含有建材の事前調査結果を工事着手前までに発注者に対し説明を行い、労働基準監督署及び所轄官庁へ報告すること。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
- ・アスベスト分析調査は試料採取と分析調査費を含む。分析は定性及び定量（JIS A 1481-1及びJIS A 1481-3による。含有の場合は、含有する層の判定も行う。）を見込んでいる。
- ・石綿含有塗材除去作業に当たっては、原則として事前に試験施工を行い、除去後の検体を採取することによって、石綿が除去されることを確認すること。
- ・家電リサイクル法又はフロン排出抑制法に関する機器等の処分については、当該法律に基づき適正に行うこと。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
- ・工程計画、取り合い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
- ・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途工事業者も使用できるものとする。（維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。）
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・工事完了後、完成図として製本図面（二つ折り・A3判縮小）を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。（縮小率約70.7%）

# 明神会館耐震改修工事(建築主体工事)

図番	図面名称	図番	図面名称
[意匠図]		[構造図]	
A-00	表紙・図面リスト	S-01	建築改修工事特記仕様書(9)(構造関係)
A-01	建築改修工事特記仕様書(1)	S-02	建築改修工事特記仕様書(10)(構造関係)
A-02	建築改修工事特記仕様書(2)	S-03	既存建築物耐震改修工事仕様書(1)
A-03	建築改修工事特記仕様書(3)	S-04	ディスクシアキー工法特記仕様書1
A-04	建築改修工事特記仕様書(4)	S-05	ディスクシアキー工法特記仕様書2
A-05	建築改修工事特記仕様書(5)	S-06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図
A-06	建築改修工事特記仕様書(6)	S-07	鉄骨構造標準図(1)
A-07	建築改修工事特記仕様書(7)	S-08	鉄骨構造標準図(2)
A-08	建築改修工事特記仕様書(8)	S-09	改修前後 基礎伏図
A-09	工事区分表	S-10	改修前後 1階柱壁2階床梁伏図
A-10	配置図・付近見取図・設計概要	S-11	改修前後 2階柱壁R階床梁伏図
A-11	仕上表(1)	S-12	改修前後 軸組図(1)
A-12	仕上表(2)	S-13	改修前後 軸組図(2)
A-13	改修前 各階平面図	S-14	改修前後 軸組図(3)
A-14	改修後 各階平面図	S-15	増設壁補強詳細図
A-15	改修前 立面図	S-16	片持梁補強詳細図
A-16	改修後 立面図	S-17	片持スラブ補強詳細図
A-17	改修前後 断面詳細図(1)		
A-18	改修前後 断面詳細図(2)		
A-19	改修前後 1階平面詳細図		
A-20	改修前後 2階平面詳細図		
A-21	改修前 1階展開図		
A-22	改修後 1階展開図		
A-23	改修前 2階展開図		
A-24	改修後 2階展開図		
A-25	階段詳細図		
A-26	改修前 各階天井伏図		
A-27	改修後 各階天井伏図		
A-28	改修前後 屋根伏図		
A-29	改修前 建具表		
A-30	改修後 建具表(1)		
A-31	改修後 建具表(2)		
A-32	部分詳細図(1)		
A-33	部分詳細図(2)		
A-34	仮設計画図		





10	アルミニウム製壁木	[3.9.2、3]	<p>とい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付間隔</p> <p>※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの</p> <p>多量地域 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>防露材のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※ 規制対象外</p> <p>既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示</p> <p>鋼管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による</p> <p>たてとい受金物の取付け ※ 図示</p>	<p>(外)のり付法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で温養生を行い、これを試験体とする。</p> <p>(試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さをエポキシ樹脂で行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm2以上を確保していること)</p> <p>また、試験後の部材断面位置の表示を下記の中から選び明記する。</p> <p>T: タイルの母材切断 TM: 既着合モルタルとタイルの界面切断 M: 既着合モルタルの母材切断 MG: 既着合モルタルと下地板の界面切断 G: 下地板の母材切断</p> <p>ロ) 適用タイルが「[小]タイル・[二]掛タイル」の場合 (試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンダーペーパーを用いて軽く研磨した後、水濡しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「[小]タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で温養生を行い、これを試験体とする。 (試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。</p> <p>(5) 接着強さ(温冷繰返し後の)試験方法 (試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「[小]タイル・[二]掛タイル」とも、各々(4)接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。 (温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「[小]タイル・[二]掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。 (温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「[小]タイル・[二]掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること)</p> <p>(6) 長さ変化率の試験方法 JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスペンダーマシン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。</p> <p>(7) 曲げ強さの試験方法 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11曲げ強さ試験に準ずる。 試験室の状態: 試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。</p>	<p>アンカーピン(材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの)</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm</p> <p>・ モルタルを撤去して改修 モルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既着合材料 ・ 充填材 ※ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替え工法 既着合モルタル ・ 使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	<p>4-5 外壁改修工事(塗仕上げ外壁)</p> <p>1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整</p> <p>2 下地調整材</p> <p>3 仕上塗材仕上げ</p>	<p>[4.6.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> <th>下地面の補修</th> </tr> <tr> <td>・ サンダー工法</td> <td>※既存仕上げ面全体</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 高圧水洗工法</td> <td>※既存仕上げ面全体</td> <td>・ 図示</td> </tr> </table> <p>4-2 外壁改修工事 (コンクリート打直し仕上げ外壁)</p> <p>4-3 外壁改修工事 (モルタル塗替え仕上げ外壁)</p> <p>・ 塗膜はく離工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 図示 ・ 水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>石綿含有仕上げ塗材の除去は、9章環境配慮改修工事による</p> <p>[4.6.3]</p> <p>※ 下地調整塗材 ・ ポリマーセメントモルタル</p> <p>[4.1.4] [4.2.2] [4.6.5] [表4.2.4]</p> <p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※ 規制対象外</p> <p>仕上塗材の種類</p> <p>・ 薄付け仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>吸水性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>※ 外装薄塗材E</td> <td>砂壁状</td> <td>吹付</td> <td>・ 適用する</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 適用する</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>・ 厚付け仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>吸水性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>※ 複層塗材E</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 適用する</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 適用する</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>・ 複層仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>上塗り材の種類</th> <th>耐候性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>※ 複層塗材E</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>溶媒 ※ 水系</td> <td>※ 耐候形3種</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>樹脂 ※ アクリル系</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>外観 ※ つやあり</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>軽量骨材仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>4 マスチック塗材塗り</p> <p>[4.1.5] [4.7.2] [表4.7.1]</p> <p>5 外壁用塗膜防水材塗り</p> <p>[4.1.5] [4.2.2] [4.8.2] [表4.2.6]</p> <p>仕上げの形状 工法</p> <p>外壁用仕上塗材の耐候性 ※ JIS A 6909の耐候形1種の品質基準に適合するもの</p> <p>下地準拠樹脂材 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>検体材の種類</p> <p>外壁用仕上塗材の種類</p> <p>(所要量 ※ 改修標準仕様書表4.2.6による) ・ k<sub>g</sub>/m<sup>2</sup></p> <p>(所要量 ※ 改修標準仕様書表4.2.6による) ・ k<sub>g</sub>/m<sup>2</sup></p>	工法	処理範囲	下地面の補修	・ サンダー工法	※既存仕上げ面全体	・ 図示	・ 高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体	・ 図示	呼び名	仕上げの形状	工法	吸水性	防火材料	※ 外装薄塗材E	砂壁状	吹付	・ 適用する	・	・	・	・	・ 適用する	・	呼び名	仕上げの形状	工法	吸水性	防火材料	※ 複層塗材E	・	・	・ 適用する	・	・	・	・	・ 適用する	・	呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料	※ 複層塗材E	・	・	溶媒 ※ 水系	※ 耐候形3種	・	・	・	・	樹脂 ※ アクリル系	・	・	・	・	・	外観 ※ つやあり	・	・	呼び名	防火材料	・	・	・	・
			工法	処理範囲	下地面の補修																																																																							
・ サンダー工法	※既存仕上げ面全体	・ 図示																																																																										
・ 高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体	・ 図示																																																																										
呼び名	仕上げの形状	工法	吸水性	防火材料																																																																								
※ 外装薄塗材E	砂壁状	吹付	・ 適用する	・																																																																								
・	・	・	・ 適用する	・																																																																								
呼び名	仕上げの形状	工法	吸水性	防火材料																																																																								
※ 複層塗材E	・	・	・ 適用する	・																																																																								
・	・	・	・ 適用する	・																																																																								
呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料																																																																							
※ 複層塗材E	・	・	溶媒 ※ 水系	※ 耐候形3種	・																																																																							
・	・	・	樹脂 ※ アクリル系	・	・																																																																							
・	・	・	外観 ※ つやあり	・	・																																																																							
呼び名	防火材料																																																																											
・	・																																																																											
・	・																																																																											
4-1	外壁改修工事(共通事項)	4-2	外壁改修工事(コンクリート打直し仕上げ外壁)	4-3	外壁改修工事(モルタル塗仕上げ外壁)	4-4	外壁改修工事(アンカーピン付モルタル塗仕上げ外壁)																																																																					

事業年度	4年度	設計	令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	NS	(A3版-71%縮小)	図番	A-03
工事完成	5年度	設計	令和5年2月	三原市都市部建築課						建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 建築改修工事特記仕様書(3)				





Main table containing various sections such as 18 ガラス (Glass), 19 ガラスブロック積み (Glass Block Stacking), 20 ガラス用フィルム (Glass Film), and construction specifications for repair work.

18	合成樹脂塗床	[6.10.2.3]				・ 化粧パーティクルボード ・ ハードボード (素地) ・ ハードボード (化粧) ・ インシュレーションボード ※ 平滑仕上げ ※ つや消し仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 防汚仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 防汚仕上げ ※ 平滑仕上げ ※ 防汚仕上げ	・ 単板オーバーレイ DV ・ プラスチックオーバーレイ DO ・ 塗膜 DC ・ 10 (腫瘍) ・ 12 (腫瘍) ・ 無研磨板 ( ・ スタンダード ・ テンパード RN) ・ 研磨板 ( ・ スタンダード ・ テンパード RS) ・ 内装用 D1 ・ 外装用 DE ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ A級 ( ・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18	せっこうボード等の下地は示すによる。 軽量鉄骨下地ボード通壁に用いる遮音シーリング材 ※ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド 合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 合板類の張り付け ※ B種 ・ A種 せっこうボードの目地工法 ・ 仕上表による	・ 単板オーバーレイ DV ・ プラスチックオーバーレイ DO ・ 塗膜 DC ・ 10 (腫瘍) ・ 12 (腫瘍) ・ 無研磨板 ( ・ スタンダード ・ テンパード RN) ・ 研磨板 ( ・ スタンダード ・ テンパード RS) ・ 内装用 D1 ・ 外装用 DE ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ A級 ( ・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18				
		19	防じん用塗床	[6.11.2~6]						ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 [6.1.4.2.3]	壁紙の種類 防火性能 備考		
				20	フローリング張り							[6.11.2~6]	
		21	畳敷き							[6.1.2.2]			
22	せっこうボードその他ボード及び合板張り			[6.1.3.2.3]				壁紙の種類 防火性能 備考					

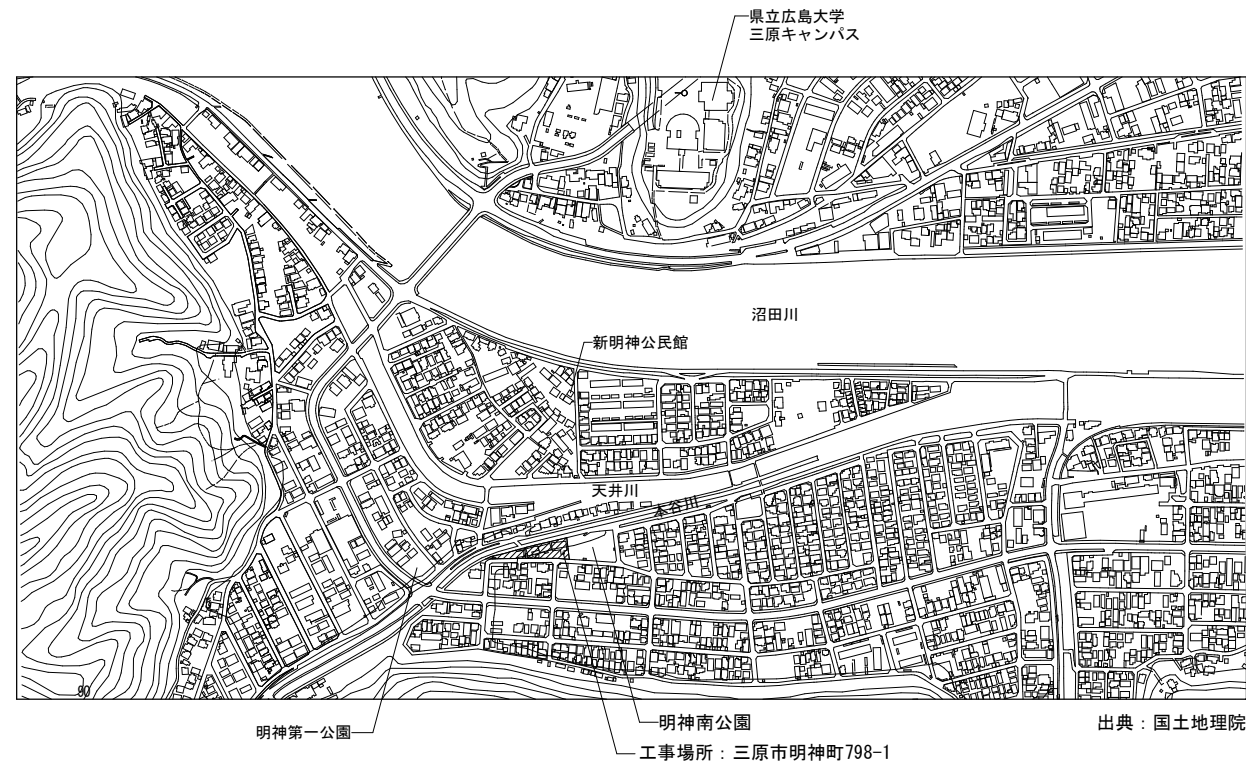
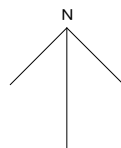
事業年度 4年度	設計 令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 NS (A3版・71%縮小)	図番 A-07
測定方法 ・自動測定器による測定 測定名称 ・測定4 ・測定5 ・測定 ( ) 測定方法 粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定 ・ JIS K 3850-1に基づいた測定 測定名称 メンブレンフィルタ直径 (mm) 試料の吸引流量 (l/min) 試料の吸引時間 (min) ・測定4 ・測定5 ・測定 ( ) ・測定 ( ) ・測定 ( ) ・測定 ( ) 石綿含有建材の処理 ・石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去方法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2) (7)による 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) ○石綿含有保温材等の除去 除去対象範囲 ※ 図示(機械設備図による) 除去方法 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化 除去した石綿含有保温材等の処分 ○埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) ○石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外)の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去した石綿含有成形板の処分 ・石綿含有石膏ボード ※ 埋立処分(管理型最終処分場) ○石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板 ○埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) ・石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種)の除去 除去対象範囲 ※ 図示 養生方法 ・ 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) ・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去 下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による 除去方法 ※ 石綿障害予防規則(平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号)第6条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる方法 ・ 集じん装置併用手工具ケレン工法 ・ 集じん装置付き高圧水洗工法(15MPa以下、30~50MPa程度) ・ 集じん装置付き超高圧水洗工法(100MPa以上) ・ 超音波ケレン工法(HEPAフィルター付き掃除機併用) ・ 剥離剤併用手工具ケレン工法 ・ 剥離剤併用高圧水洗工法(30~50MPa程度) ・ 剥離剤併用超高圧水洗工法(100MPa以上) ・ 剥離剤併用超音波ケレン工法 ・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法 除去対象範囲 ※ 図示 作業場の隔離 ※ 行わない ・ 行う 試験施工 ※ 行わない ・ 行う 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) 除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分 ※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による 確認及び後片付け ※ 改修標準仕様書9.1.3(4)の(7)、(i)及び(ウ)による 石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示 3章防水改修工事による [9.2.2~3] 2 断熱アスファルト防水改修工事 3 外断熱改修工事 断熱材の種類 ( )、断熱材の厚さ ( mm) [9.3.2~4] 施工箇所 ・ 図示 ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 外装材 種類 防火性能 備考 既存外壁の処置 既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし 下地の清掃 ・ 行う ・ 行わない 欠損部がある場合の改修工法 ※ 4章外壁改修工事による 工法 1章 17 適用区分による風圧力 ( ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 不陸等の下地調整 ・ 図示 通気層の有無 ・ あり ( mm) ・ なし 断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け ※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による 4 ガラス改修工事 複層ガラス [9.4.2] 5 断熱・防露改修工事 フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 [9.5.2~4] ※ 規制対象外 ・断熱材打込み工法 種類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ※ 2種 b A ※ 25 ※ 外壁 ※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ※ 3種 b A ※ 25 ※ スラブ ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ 25 ・ ・ フェノールフォーム断熱材 ・ 25 ・ 施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※ A種 1 ・ A種 1 H 吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレインの床下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・ 図示 現場発泡断熱材 (品質・性能) 項目 品質・性能 難燃性 下記のいずれかによっていること (1) JIS A 132「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリ試験)に適合していること。 発熱性 準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分以下であること (1) ~ (3)に適合していること。 (1) 総発熱量が8MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 (2) 防火上有害な表面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m <sup>2</sup> を超えないこと。 (試験方法) (1) 原液試験(原液粘度試験) JIS K 7117-1「プラスチック-液状、乳濁液又は分散体の樹脂-ブロックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。 (2) 発泡品試験 1) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。 2) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。 3) 試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。 4) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。 5) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。 6) 接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。 7) 透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。 (3) 難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。 1) 難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。 2) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。 断熱材後張り工法 断熱材の種類 ( ) 断熱材の厚さ ( mm) 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル (材質 厚さ mm) 6 屋上緑化改修工事 植栽基盤及び材料 [9.6.2、3] 屋上緑化軽量システム ・ 適用する ・ 適用しない 芝及び地被類の種類等 ※ 図示 見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等 ※ 図示 (品質・性能等) 項目 品質・性能 透気・排水層等構成材の主要材質 合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 透水層 (排水層を有する場合は、保水層) 透水性 目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。 排水層 植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。 排水層の鉛直方向の排水性能 240L/m <sup>2</sup> ・h以上 耐荷重性能 一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 (排水層の許容圧縮強度) 3×10 <sup>6</sup> N/m <sup>2</sup> 以上の荷重で破壊・有害な変形がないこと。 耐根腐 重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎根長力の強い植物に対して3年以上の耐根腐性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 耐根腐保護層 材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根腐を保護するものであること。ただし、耐根腐を保護コンクリート(絶縁シートも含む)の下に設ける場合は省略することができるものとする。 (試験方法) (1) 排水基盤の耐荷重性能 (イ) 3×10 <sup>6</sup> N/m <sup>2</sup> の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根腐等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み (%) を測定する。(保水層を有する場合は保水層も対象とする。) (ロ) 試験体は耐根腐から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。 新植した芝及び地被類の枯補償の期間 ※ 引き渡しの日から1年 7 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.2~5、9] 下記以外は、10章その他による 既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示												

9	床点検口	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ※ 600×600</td> <td>・ 一般形 ○ 密閉形 ○ 屋内外用 ○ 屋内用</td> <td>○ 鍵付き</td> </tr> <tr> <td colspan="4">密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)</td> </tr> <tr> <th>部材名</th> <th>材質</th> <th>屋内外用</th> <th>屋内用</th> </tr> <tr> <td>受枠材 蓋枠材</td> <td>アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材 ステンレス製</td> <td>JIS H 4100のM6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15 JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度</td> <td>JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度</td> </tr> <tr> <td>二重蓋の中蓋</td> <td>鋼鉄</td> <td>JIS G 5501のFC150、FC200</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>その他</td> <td>塩化ビニル樹脂等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>床板材コーナーステンレス補強材</td> <td>ステンレス鋼板</td> <td>JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304</td> <td>JIS G 4305のSUS430</td> </tr> <tr> <td>パッキン材</td> <td></td> <td>塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパパー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材</td> <td></td> <td>鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取手</td> <td></td> <td>黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鍵</td> <td></td> <td>黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋の耐荷重性能</td> <td></td> <td>蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPの2倍以上であること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">           受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下            蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下            受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内            (試験方法)            耐荷重試験            試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。            試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。            本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。            本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後に、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。            測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。         </td> </tr> </table>	材種	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ○ 密閉形 ○ 屋内外用 ○ 屋内用	○ 鍵付き	密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)				部材名	材質	屋内外用	屋内用	受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材 ステンレス製	JIS H 4100のM6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15 JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度	二重蓋の中蓋	鋼鉄	JIS G 5501のFC150、FC200		目地材	その他	塩化ビニル樹脂等		床板材コーナーステンレス補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430	パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパパー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの		アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの		取手		黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等		鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする		蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPの2倍以上であること。		受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下 蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下 受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 耐荷重試験 試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後に、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。				10	手すり	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径 (mm)</th> <th>取付箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 集成材</td> <td>・ クリアラッカー</td> <td>・ 35 ・ 45</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ステンレスパイプ</td> <td>・ HL程度 ○ 樹脂被覆</td> <td></td> <td>○ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 鋼製パイプ</td> <td>・ SOP</td> <td>・ EP-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ビニル製ハンドレール</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35 ・ 45		○ ステンレスパイプ	・ HL程度 ○ 樹脂被覆		○ 図示	・ 鋼製パイプ	・ SOP	・ EP-		・ ビニル製ハンドレール				11	天井見切り縁等	壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質 ※ アルミニウム既製品 ○ ビニル既製品 ○ 木製	12	視覚障害者用床 タイル (視覚障害者誘導 用ブロック)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">屋内</td> <td>・ 塩化ビニル製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・ 7.0</td> </tr> <tr> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ レジンコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">屋外</td> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ レジンコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0	・ セラミックタイル	※ 300×300	・	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・	・ コンクリート製			屋外	・ セラミックタイル	※ 300×300	・	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・	・ コンクリート製			13	鉄筋	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)	14	溶接金網	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)	15	鉄筋の継手及び定着	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)
		材種	寸法 (mm)	形式	備考																																																																																																																						
		・ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ○ 密閉形 ○ 屋内外用 ○ 屋内用	○ 鍵付き																																																																																																																						
		密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)																																																																																																																									
		部材名	材質	屋内外用	屋内用																																																																																																																						
		受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材 ステンレス製	JIS H 4100のM6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15 JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B 仕上げ程度																																																																																																																						
		二重蓋の中蓋	鋼鉄	JIS G 5501のFC150、FC200																																																																																																																							
		目地材	その他	塩化ビニル樹脂等																																																																																																																							
		床板材コーナーステンレス補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430JIL、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430																																																																																																																						
		パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジパパー、エチレンプロピレン等種の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの																																																																																																																							
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの																																																																																																																									
取手		黄銅鋼鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋼製、ステンレス鋼製品、ステンレス製等																																																																																																																									
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする																																																																																																																									
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPの2倍以上であること。																																																																																																																									
受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下 蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下 受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 耐荷重試験 試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四角を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後に、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。																																																																																																																											
材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所																																																																																																																								
・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35 ・ 45																																																																																																																									
○ ステンレスパイプ	・ HL程度 ○ 樹脂被覆		○ 図示																																																																																																																								
・ 鋼製パイプ	・ SOP	・ EP-																																																																																																																									
・ ビニル製ハンドレール																																																																																																																											
施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)																																																																																																																								
屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0																																																																																																																								
	・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																								
	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																								
	・ コンクリート製																																																																																																																										
屋外	・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																								
	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																								
	・ コンクリート製																																																																																																																										
<table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び名</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ SD295A</td> <td>※ D16以下</td> <td>D10</td> </tr> <tr> <td>※ SD345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </table>	種類の記号	呼び名	備考	※ SD295A	※ D16以下	D10	※ SD345	※ D19以上		<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>網目寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ 溶接金網</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考	※ 溶接金網			・ 鉄筋格子			鉄筋の重ね継手の長さ ※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継手の長さのうち大きい値とする																																																																																																							
種類の記号	呼び名	備考																																																																																																																									
※ SD295A	※ D16以下	D10																																																																																																																									
※ SD345	※ D19以上																																																																																																																										
種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考																																																																																																																									
※ 溶接金網																																																																																																																											
・ 鉄筋格子																																																																																																																											
鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付ける梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による																																																																																																																											

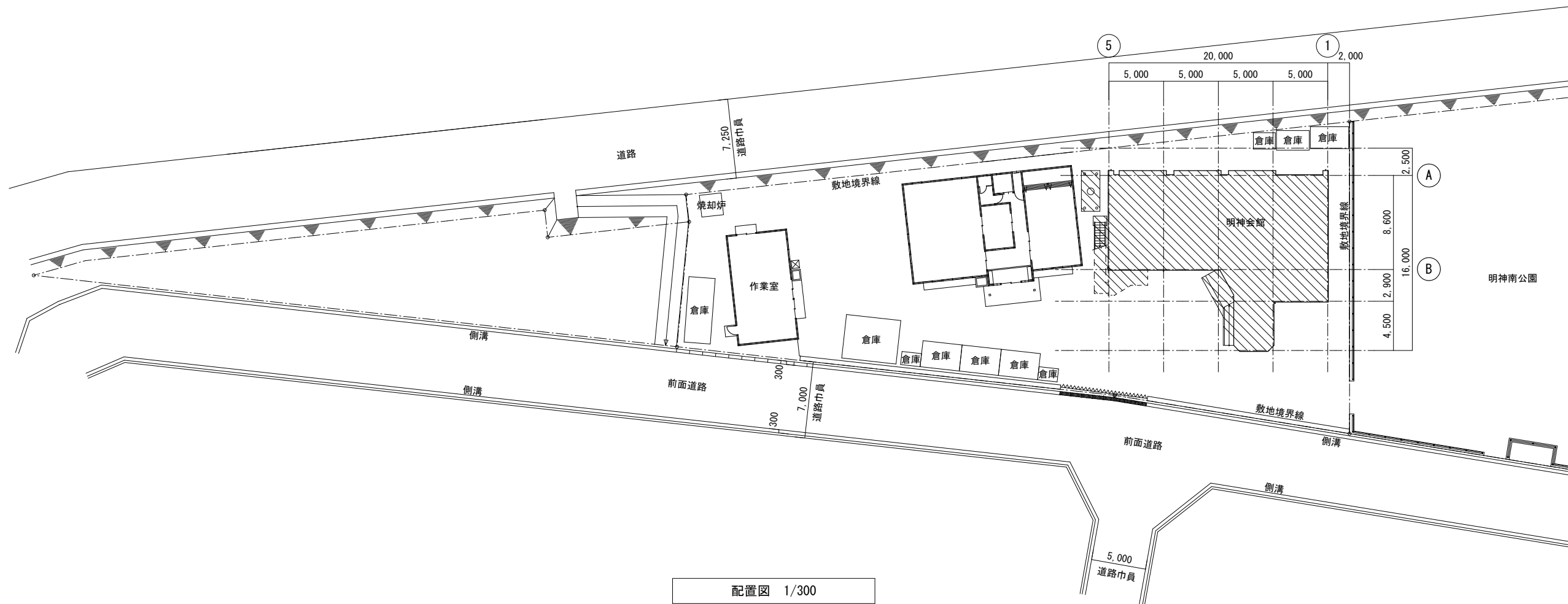
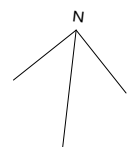


■ 設計概要

1. 工事名称 : 明神会館耐震改修工事 (建築主体工事)
2. 工事場所 : 広島県三原市明神一丁目
3. 敷地面積 : 約1,579.97 m<sup>2</sup>
4. 工事種別 : 建築改修工事(建築), 建築改修工事(構造)  
※別途工事 : 電気設備改修工事, 機械設備改修工事
5. 用途地域及び地区の指定 : 市街化区域  
第一種住居地域(建蔽率60%, 容積率200%)
6. 建物用途 : 集会所
7. 構造規模 : 鉄筋コンクリート造 2階建
8. 延べ面積 : 406.3 m<sup>2</sup>
9. 軒高 : 8.8 m
10. 最高高さ : 9.8 m



付近見取図 1/7,500



配置図 1/300

事業年度	4年度	設計	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 S=1/300・1/7,500 (A3版-71%縮小)	図番
工事完成	5年度			令和5年2月					建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)			

改修前・後 外部仕上表・内部仕上表(1)

凡 例		*特記事項 巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。			
符 号	名 称	符 号	名 称	符 号	名 称
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-D	化粧石膏ボード
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-F	強化石膏ボード
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルジョンペイント	GB-P	吸音石膏ボード
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	GB-R	石膏ボード
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルジョンペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード
LW-1	遮音壁 LGS65壁下地 GB-S t=12.5 + 9.5 (両面) ロックウール t=50充てん			GB-S	防水石膏ボード
				DR	ロックウール化粧吸音板

外部仕上表				改修後				
改修前	名称	下地	仕上	備考	名称	下地	仕上	備考
基礎	コンクリート打放し	(既設のまま)	モルタル金こて押え	(既設のまま)	基礎	コンクリート打放し	モルタル金こて押え	(既設のまま)
外壁	コンクリート打放し	(一部撤去)	モルタル刷毛引きアクリル吹付け 1. B通り部分	(一部撤去)	外壁	コンクリート打放し	AW-3	(新設) 1. B通り部分
パナペット	コンクリート打放し	(既設のまま)	モルタル刷毛引きウールローター(研出し)	(既設のまま)	パナペット	コンクリート打放し	モルタル刷毛引きウールローター(研出し)	(既設のまま)
屋根	均しモルタル金こて押えt=30	(既設のまま)	シート防水張りt=2.0 シルバー仕上げ	(既設のまま)	屋根	均しモルタル金こて押えt=30	シート防水張りt=2.0 シルバー仕上げ	(既設のまま)
庇裏	コンクリート打放し	(既設のまま)	アクリル吹付け	(既存のまま)	庇裏	コンクリート打放し	下地調整材塗の上、外装薄塗材吹付け	(一部塗替) 小口共
ボーチ	コンクリート打放し	(既設のまま)	100角シリカ系タイル張り	(撤去)	ボーチ	コンクリート打放し	100角磁器質タイル張り	(新設)
スロップ	コンクリート打放し	(既設のまま)	100角シリカ系タイル張り	(一部撤去)	スロップ	コンクリート打放し	100角磁器質タイル張り	(一部新設)
犬走り	コンクリート打放し	(既設のまま)	モルタル金こて押え	(既設のまま)	犬走り	コンクリート打放し	モルタル金こて押え	(既設のまま)
ペラング	コンクリート打放し	(既設のまま)	防水モルタル金こて押え	(既設のまま)	ペラング	下地処理(清掃)+下地調整(ボリマセメントペースト)	ケレンゴム系高伸長形塗膜防水工法(X-2)	(新設) 巾木共
屋外階段	鉄骨造	(既設のまま)	錆止め塗1回+OP塗2回	(既設のまま)	屋外階段	下地調整R種工程B種(鉄鋼面)	DP塗(3級)	(塗替) 錆止め塗装A種工程C種共
スラブ補強材					スラブ補強材	素地ごしらえB種(鉄鋼面)	DP塗(3級)	(新設) 錆止め塗装A種工程A種共
重油タンク	タンク	(既設のまま)	鋼製蓋φ640 1か所、鋼製蓋φ200 4か所	(一時撤去)	重油タンク	タンク	鋼製蓋φ640 1か所、鋼製蓋φ200 4か所	(復旧の上、溶接)
縦樋			VP75φ	(一部撤去)	縦樋		VP75φ	(一部新設)
換気扇		(設備工事)		(撤去)	換気扇開口塞ぎ	PL-3 400×400, PL-3 450×450	周囲シーリングMS-2 10×10	(新設) 一部穴あけ加工100φ, 200φ
換気孔			7M製φ150(内外共)1か所	(撤去)	換気孔		7M製φ150(内外共)1か所	(新設)

内部仕上表(1) ※床レベルは、1階はホール・廊下、2階は集会室とする。

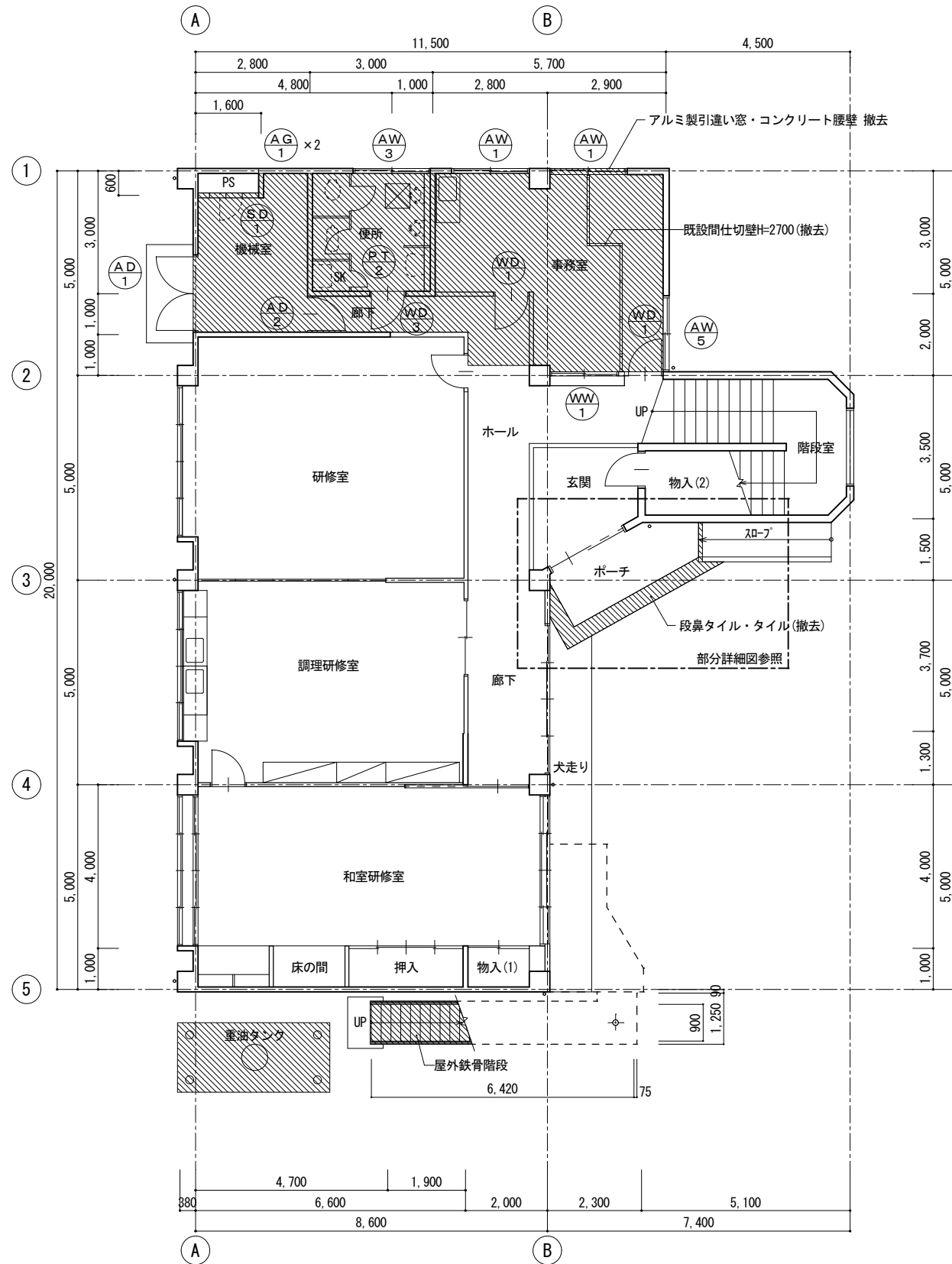
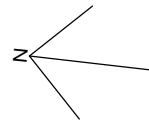
階	室名	床			巾木			腰壁・壁			天井				備考	
		下地	仕上	床レベル	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	廻り縁		天井高(CH)
1	事務室	改修前	M (撤去)	ビニル床シート張りt=2.0(撤去)	±0	M (一部撤去) W (一部撤去)	ビニル巾木H=100(撤去)	RC W (一部撤去)	モルタル金こて押え(撤去) GB-R張りt=12(一部撤去)	ガコ吹付け(撤去)	LGS (撤去)	GB-D張りt=9.0(シブト) (撤去)		塩ビ製(撤去)	2,700	流し台L=1,200(撤去) 木製棚W550*H600*D300(撤去) 天井点検口600×600(撤去)、換気扇(撤去)(設備工事) 木製カーテンボックス1か所、カーテンレール2か所(撤去) 木製カーテンボックス2か所、カーテンレール1か所(既設のまま)
	新設多機能トイレ	改修後	M (新設)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)	LGS (新設)	(A,B面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、(C,D面)LW-1(新設)の上、H=2100まで化粧けい酸カルシウム板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、ビニル床シート張り 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,700	木製カーテンボックス1か所、カーテンレール1か所(既設のまま)
	事務室	改修後	M (新設)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	M (既設のまま)	ビニル巾木H=100(新設)	RC (新設)	(A,B面)コンクリート(既設のまま)の上、(C面)GB-R張りt=12.5(既設のまま)の上、(D面)GB-R張りt=12.5(新設)の上、素地ごしらえB種(新設)の上、ビニル床シート張り(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,700	天井点検口600×600(新設)、換気扇開口塞ぎ(新設) ロールスクリーン=900(2か所)、ロールスクリーン=1800(1か所)(新設) 木製カーテンボックス1か所(既設のまま)
	便所	改修前		シート防水(撤去) 25角モザイクタイル張り(無釉)(撤去)	-100	M CBt=100(撤去)	100角半磁器質タイル(撤去)	RC (一部撤去)	モルタル金こて押え(撤去) 100角半磁器質タイル(撤去)	AEP塗(撤去)	W (撤去)	石綿大平板張りt=5.0(撤去) (7M)スト含有建材 成形版レール3	AEP塗(撤去)	塩ビ製(撤去)	2,535	SUS製2重化粧蓋床下点検口600×600(撤去) 天井点検口600×600(撤去)、床下配管ピット(既設のまま) 換気扇(撤去)(設備工事)、陶器質隔て板(撤去)(設備工事) ガラス製隔て板(金属製枠)(撤去) 面台・テラゴブローック(撤去) 手摺(撤去)
	男子トイレ	改修後	M RCT=150 溶接金網 9φ@200(新設)	ビニル床シート張りt=2.0(新設) 小便器前:ビニル床シート張りt=2.0(新設) (色違い張り分け)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)	LGS (新設)	(A面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、(B,C,D面)LW-1(新設)の上、H=2100まで化粧けい酸カルシウム板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、ビニル床シート張り 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,435	7M製2重化粧蓋床下点検口600×600(新設) 天井点検口600×600(新設)、床下配管ピット(既設のまま) 換気扇開口塞ぎ(新設) 面台・ストフォーム(新設) 樹脂被覆SUS製L型、手洗器、小便器手摺(新設)
	機械室	改修前	RC (一部撤去)	モルタル金こて押え(撤去)	-100	RC (一部撤去) CBt=100(撤去)	モルタル金こて押え(撤去)	RC (一部撤去) CBt=100(撤去)	モルタル金こて押え(撤去)		W (撤去)	石綿大平板張りt=5.0(撤去) (7M)スト含有建材 成形版レール3	AEP塗(撤去)		3,200	脂溜300×300×300(既設のまま) 天井点検口600×600(撤去) 換気扇(撤去)(設備工事)
女子トイレ	改修後	M RCT=120,150 溶接金網 9φ@200 砕石t=100(一部新設)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)	LGS (新設)	(A,C,D面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、(B面)LW-1(新設)の上、H=2100まで化粧けい酸カルシウム板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、ビニル床シート張り 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,600	天井点検口600×600(新設) 換気扇開口塞ぎ(新設) 面台・ストフォーム(新設) 樹脂被覆SUS製L型、手洗器手摺(新設)	

事業年度	4年度	設計	令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	建築	工事名	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	事務所名・建築士登録番号・氏名	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺	NS (A3版-71%縮小)	図番	A-11
------	-----	----	--------	-----------	---	---	---	----	----	----	----	-----	--------------------	-----------------	------------------------------------	---------	----------------	----	------

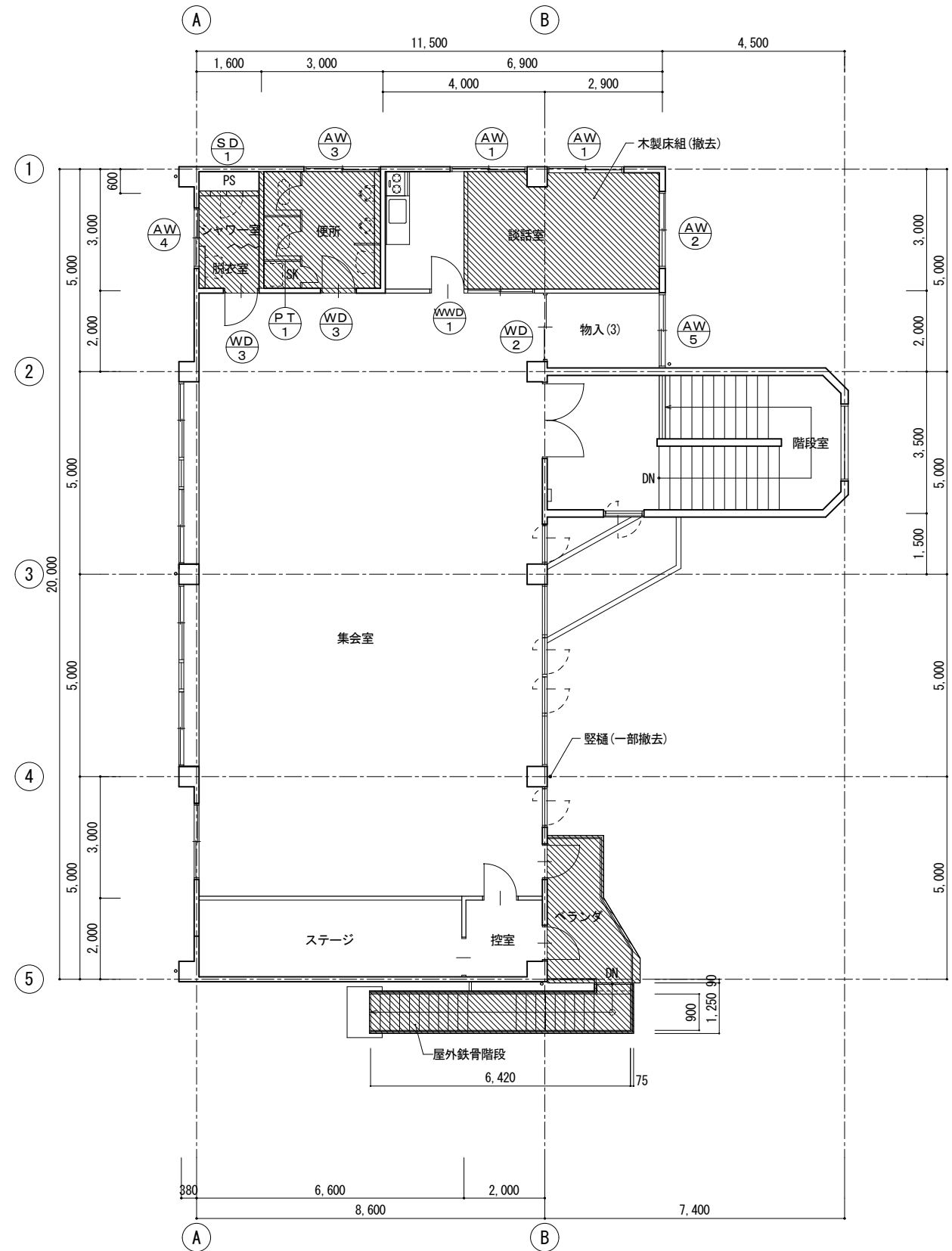
改修前・後内部仕上表 (2)

内部仕上表 (2)		※床レベルは、1階はホール・廊下、2階は集会室とする。															
階	室名	床			巾木			腰壁・壁			天井					備考	
		下地	仕上	床レベル	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	下地	仕上	塗装	廻り縁	天井高(CH)		梁型
1	ホール廊下	改修前	M (一部撤去)	長尺クッションフロア張りt=2.7(一部撤去)	±0	M GB-Rt=12 (一部撤去)	ビニル巾木H=100(一部撤去)		RC W (一部撤去)	モルタル金こて押え(一部撤去) GB-R張りt=12(一部撤去)	グラウト吹付け(一部撤去)	LGS (一部撤去)	GB-D張りt=9.0(ジブトン)(一部撤去)		塩ビ製(一部撤去)	2,700	
		改修後	M (一部新設)	ビニル床シート張りt=2.0(一部新設)	±0	M GB-Rt=12.5 (一部新設)	ビニル巾木H=100(一部新設)		RC LGS (一部新設)	(A,D面)LW-1(新設)の上、 (B面)GB-R張りt=12.5(一部新設)の上、 (C面)コンクリート(既設のまま)の上、 素地ごしらえB種(新設)の上、 ビニルクロス張り(新設)		LGS (一部新設)	GB-D張りt=9.5(一部新設)		塩ビ製(一部新設)	2,700	
	P S	改修前	砕石t=100(撤去)	コンクリート打放し(撤去)	±0		コンクリート打放し(撤去)			コンクリート打放し(撤去) CBt=150(撤去)			コンクリート打放し(既設のまま)				
		改修後	砕石t=100(新設)	溶接金網φ200(新設) 土間コンクリートt=120(新設)	±0		LGS素地(新設)			LGS素地(新設)			コンクリート打放し(既設のまま)				
2	談話室	改修前	M (既設のまま)	ビニルクロス張りt=2.0(撤去) 木製床組みH=100(撤去)	±0 +100	M GB-Rt=12 (既設のまま)	ビニル巾木H=100(撤去)		RC W (既設のまま)	モルタル金こて押え(既設のまま) GB-R張りt=12(既設のまま)	グラウト吹付け(既設のまま)	LGS (一部撤去)	GB-D張りt=9.0(ジブトン)(一部撤去)		木製(一部撤去)	2,700	木製カテナボックス1か所、カテナボ3か所(撤去) 木製カテナボボックス2か所(既設のまま) 天井点検口600×600(既設のまま)
		改修後	M (既設のまま)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	M GB-Rt=12.5 (既設のまま)	ビニル巾木H=100(新設)		RC W (既設のまま)	モルタル金こて押え(既設のまま) GB-R張りt=12(既設のまま)	グラウト吹付け(既設のまま)	LGS (一部新設)	GB-D張りt=9.5(一部新設)		木製(一部新設)	2,700	木製カテナボボックス1か所(新設) ロータリー=1800(3か所)(新設) 木製カテナボボックス2か所(既設のまま) 天井点検口600×600(既設のまま) 天井点検口600×600(新設)
	便所	改修前	シート防水(撤去)	モルタル金こて押え(撤去) 25角モザイクタイル張り(無軸)(撤去)	-100	M CBt=100 (撤去)	100角半磁器質タイル(撤去)		RC (一部撤去)	モルタル金こて押え(撤去) 100角半磁器質タイル(撤去)	AEP塗(撤去)	W (撤去)	石綿大平板張りt=5.0(撤去) (7スベト含有建材 成形版レベール)	AEP塗(撤去)	塩ビ製(撤去)	2,535	天井点検口600×600(撤去) 換気扇(撤去)(設備工事) 陶器質隔て板(撤去)(設備工事) ガラス製隔て板(金属製枠)(撤去) 面台・ラジアルロック(撤去)
		改修後	鋼製床組H=150(新設) (下地二重張り共)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	(A,B,C面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、 (D面)LW-1(新設)の上、 H=2100まで化粧けい酸がれ板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、 ビニルクロス張り見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,435	天井点検口600×600(新設) 換気扇開口塞ぎ(新設)(設備工事) 面台・ボストフォーム(新設) 樹脂被覆SUS製型、手洗器手摺(新設)
	シャワー室 脱衣室	改修前	シート防水(撤去)	モルタル金こて押え(撤去) 25角モザイクタイル張り(無軸)(撤去)	-100	M CBt=100 (撤去)	100角半磁器質タイル(撤去)		RC (一部撤去)	モルタル金こて押え(撤去) 100角半磁器質タイル(撤去)	AEP塗(撤去)	W (撤去)	石綿大平板張りt=5.0(撤去) (7スベト含有建材 成形版レベール)	AEP塗(撤去)	塩ビ製(撤去)	2,535	天井点検口600×600(撤去)
		改修後	鋼製床組H=150(新設) (下地二重張り共)	ビニル床シート張りt=2.0(新設) 小便器前:ビニル床シート張りt=2.0(新設) (色違い張り分け)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	(A,C,D面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、 (B面)LW-1(新設)の上、 H=2100まで化粧けい酸がれ板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、 ビニルクロス張り見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,435	天井点検口600×600(新設) 面台・ボストフォーム(新設) 樹脂被覆SUS製型、手洗器、小便器手摺(新設)
	P S	改修前		コンクリート打放し(既設のまま)	±0		コンクリート打放し(撤去)			コンクリート打放し(撤去) CBt=150(撤去)			コンクリート打放し(既設のまま)				
		改修後	鋼製床組H=150(新設) (下地二重張り共)	ビニル床シート張りt=2.0(新設)	±0	LGS (新設)	ビニル床シート立上げt=2.0 見切り金物共(新設)		LGS (新設)	(A,D面)GB-S張りt=12.5(新設)の上、 (B面)LW-1(新設)の上、 H=2100まで化粧けい酸がれ板張りt=6.0(新設) H=2100以上素地ごしらえB種(新設)の上、 ビニルクロス張り見切り金物共(新設)		LGS (新設)	GB-P張りt=9.5(新設)		塩ビ製(新設)	2,435	





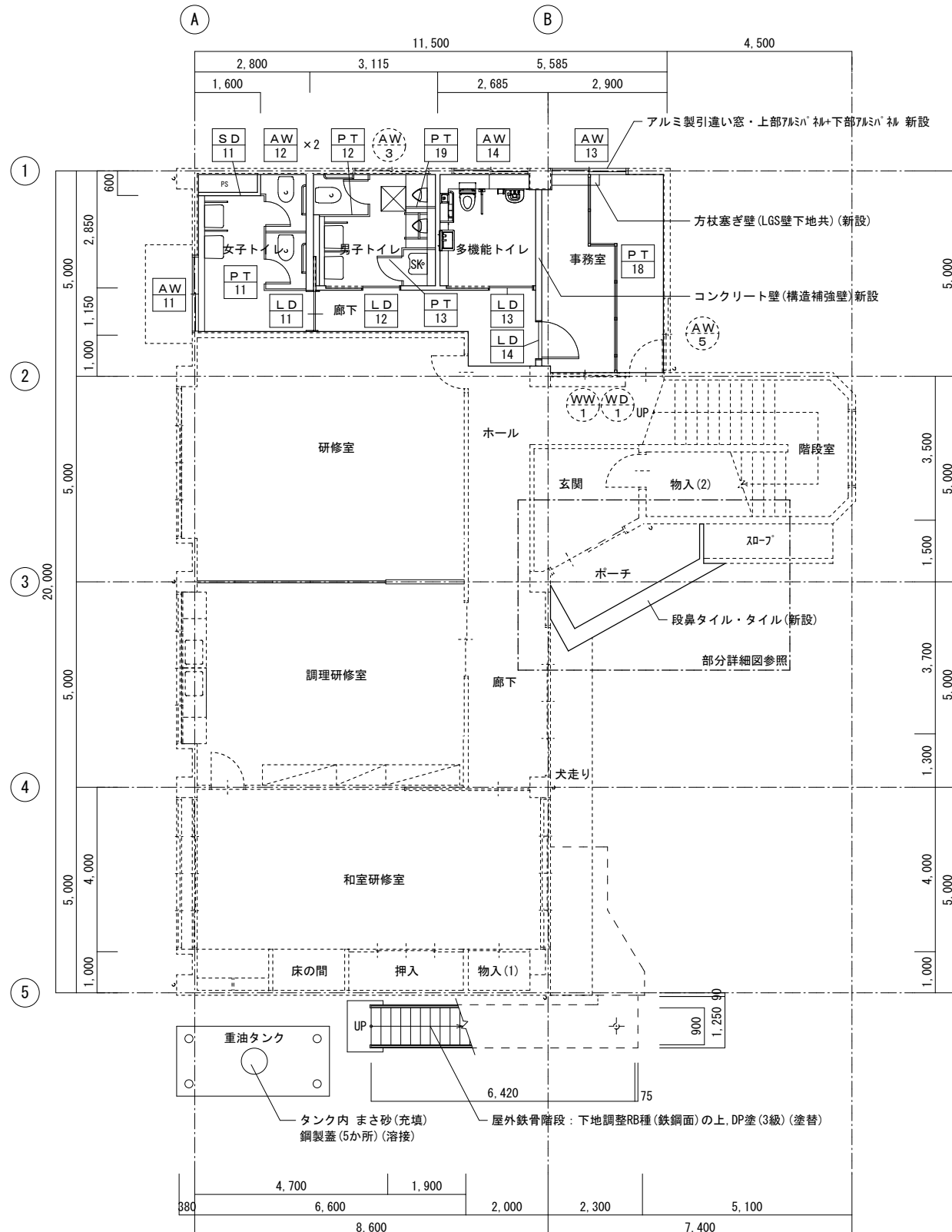
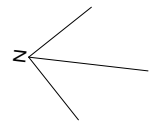
1階平面図 1/100



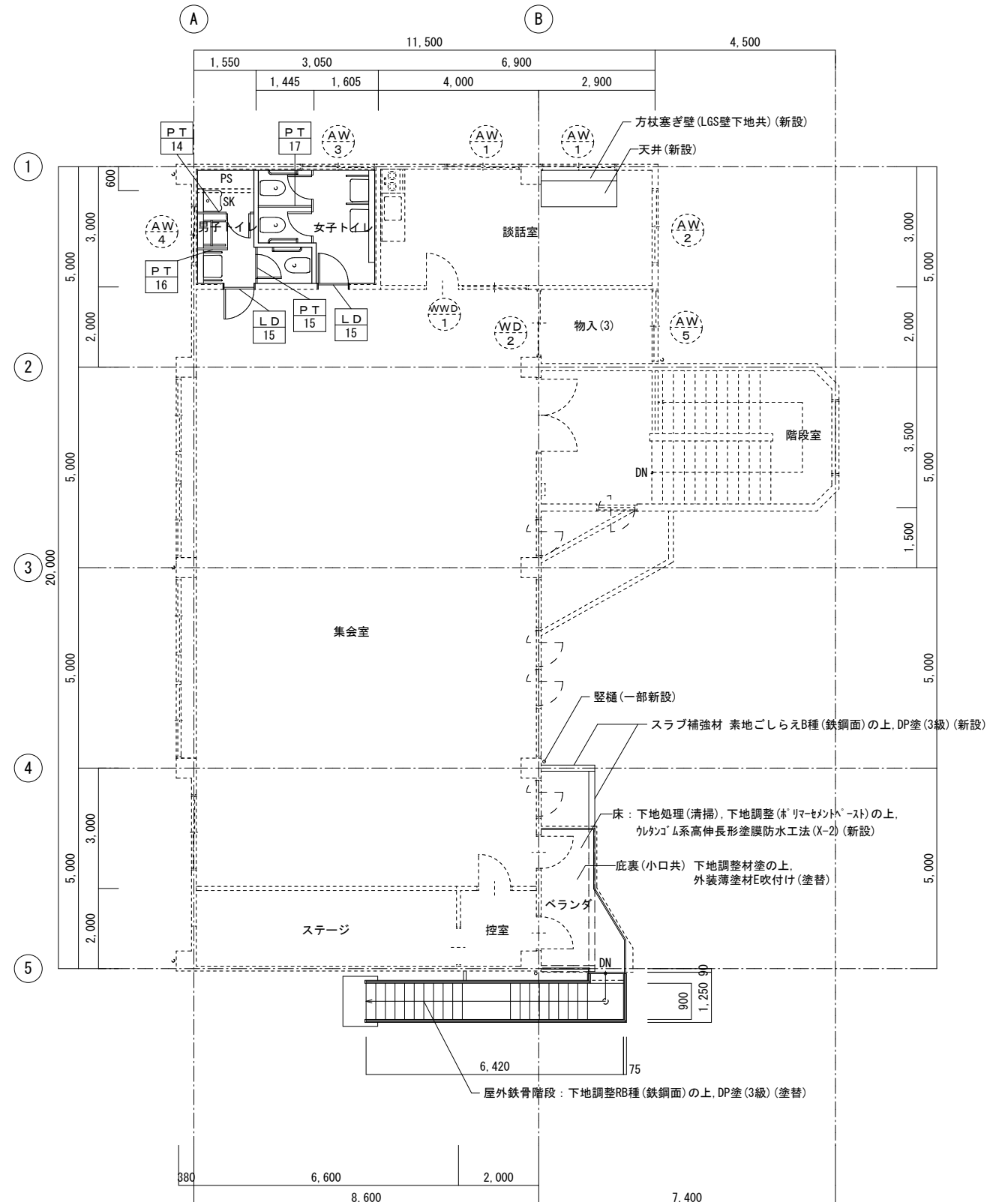
2階平面図 1/100

凡例

	改修範囲を示す。
	既存建具を示す。



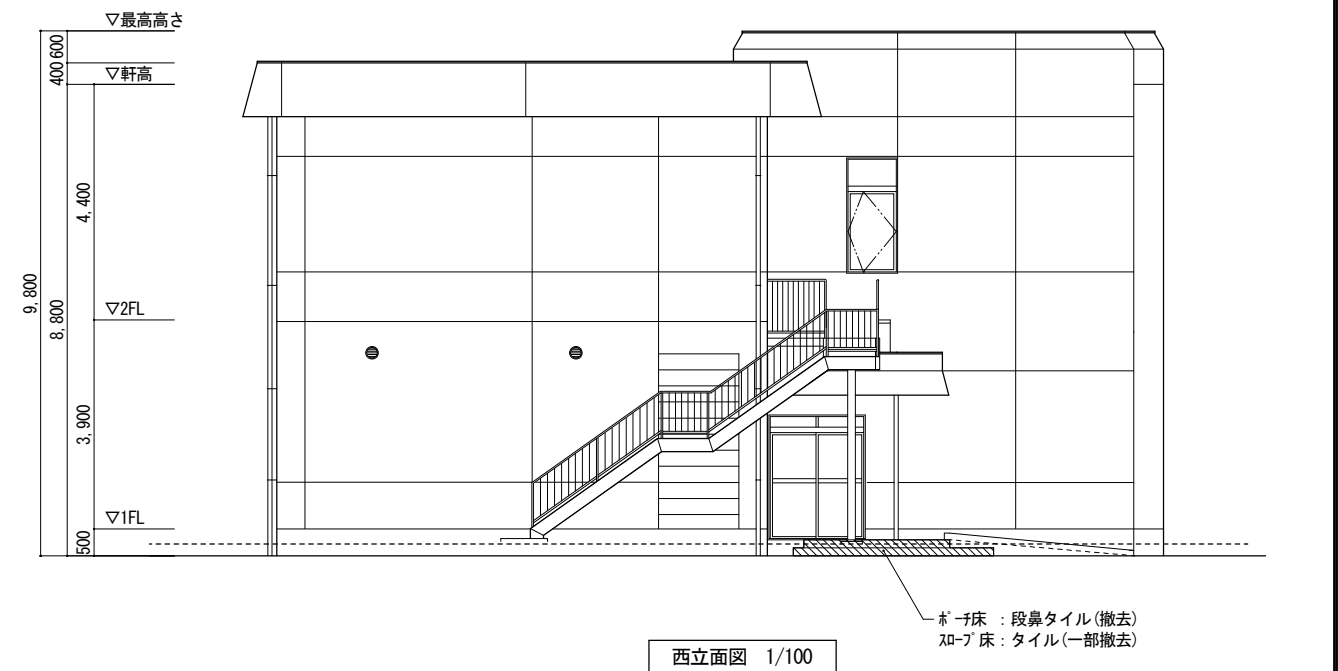
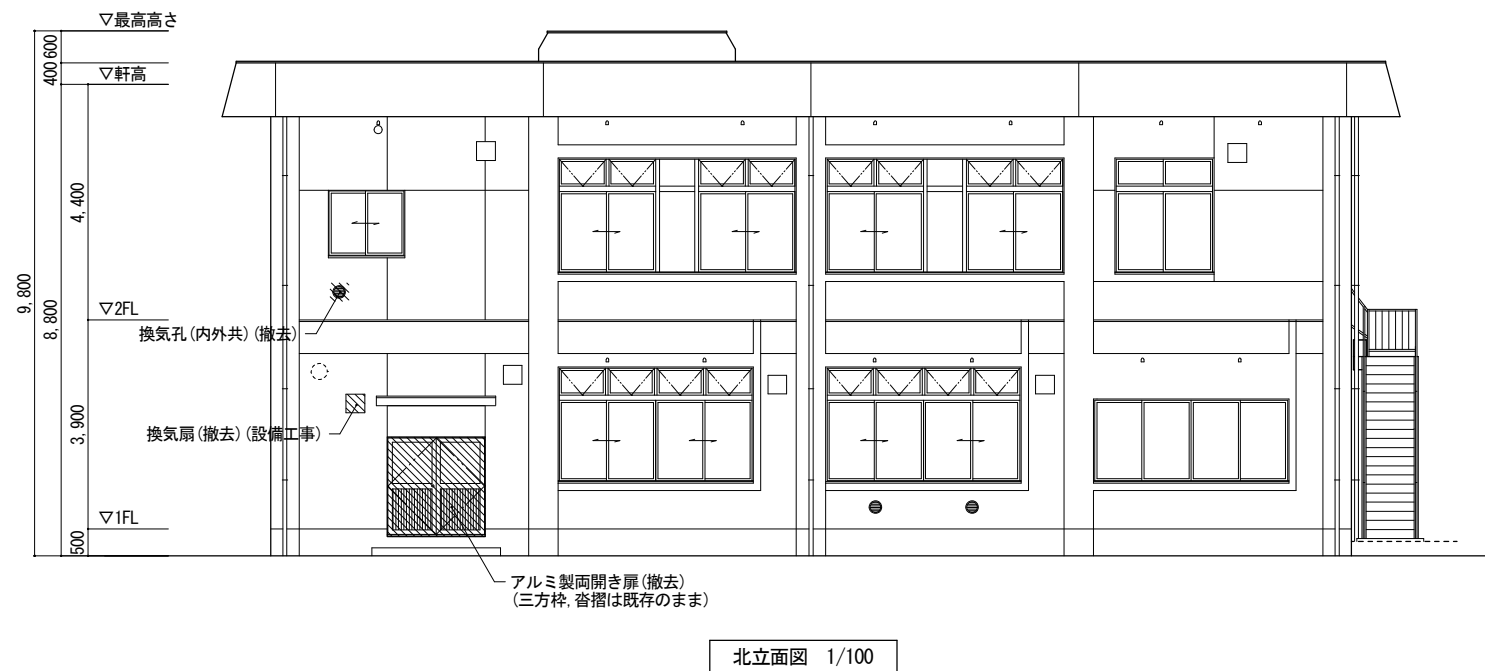
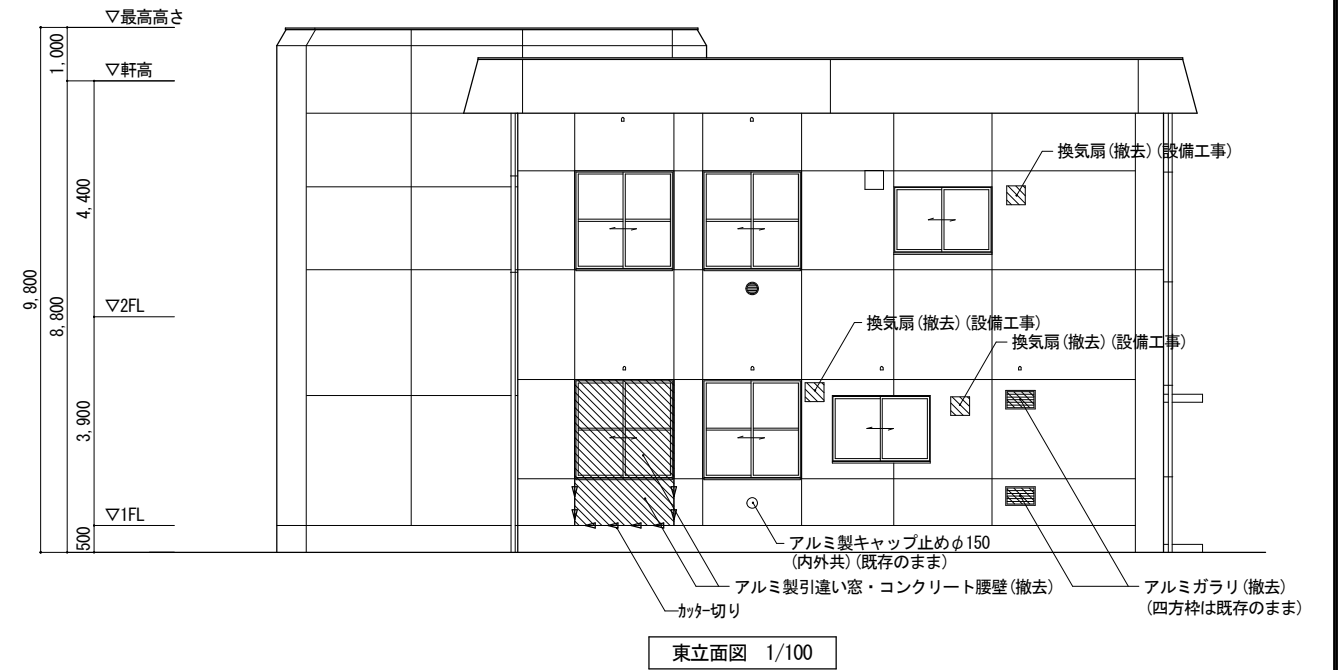
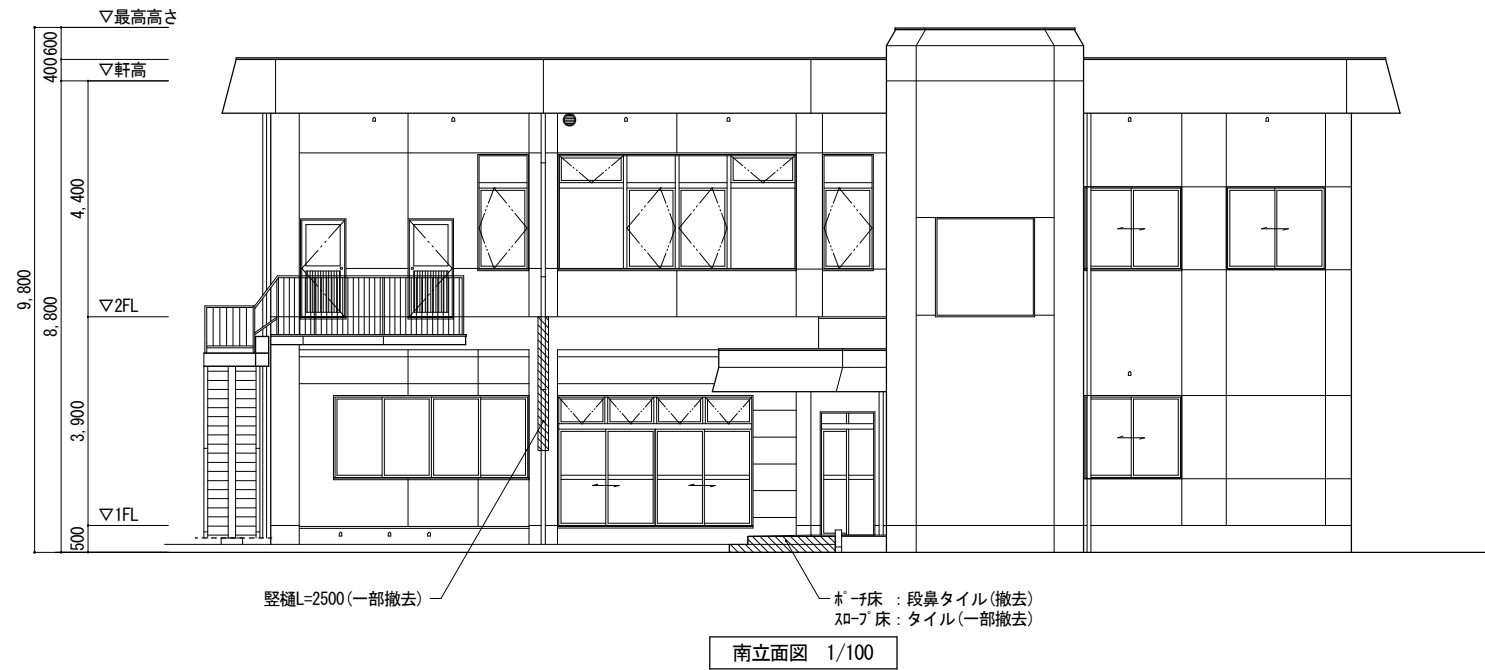
1階平面図 1/100



2階平面図 1/100

凡例

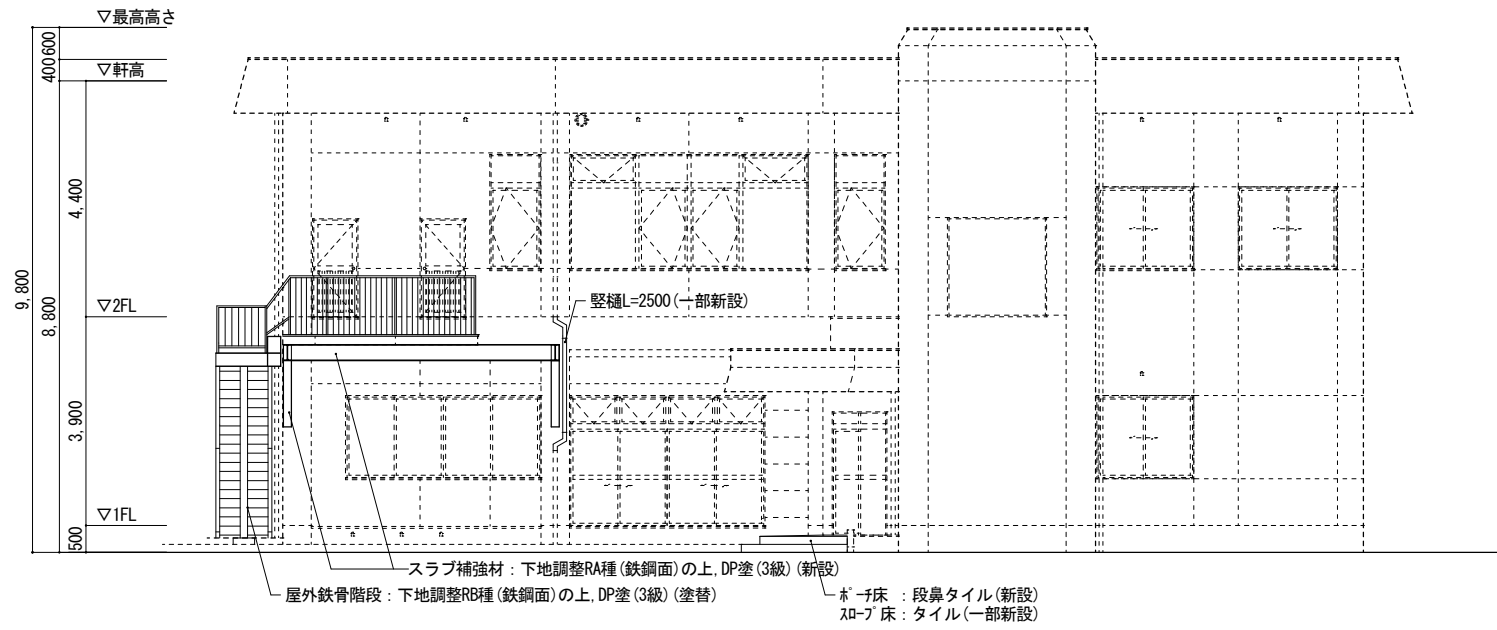
	既存を示す。
	新設建具を示す。
	既存建具を示す。



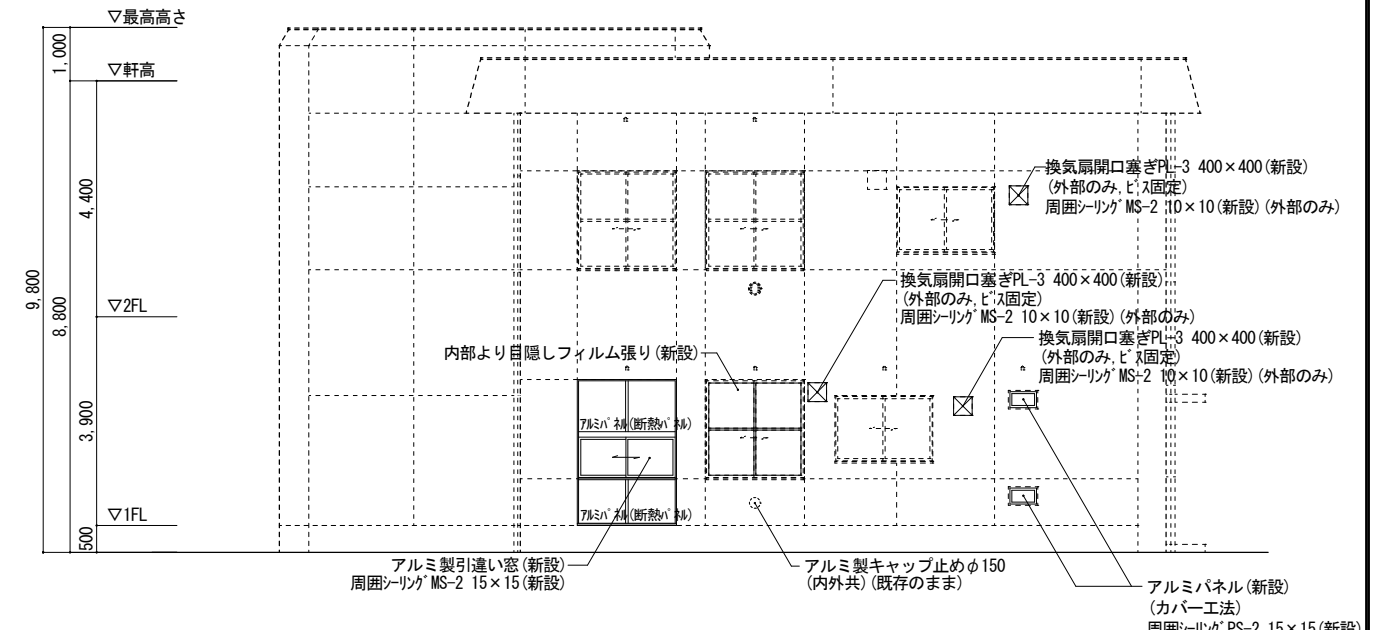
凡例

	改修範囲を示す。

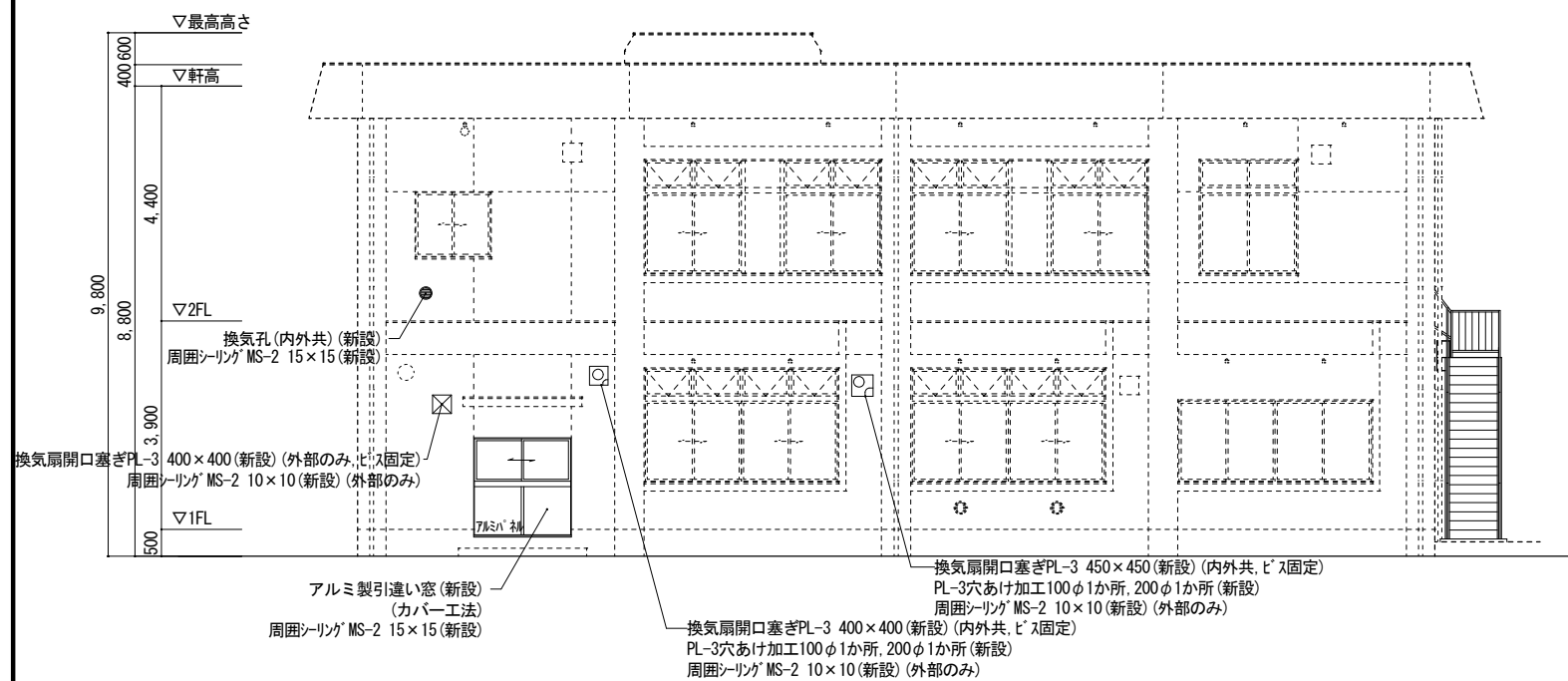
事業年度 4年度	設計 令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 S=1/100 明神会館 改修前 立面図	(A3版-71%縮小)	図番 A-15
----------	-----------	-----------	---	---	---	----	----	-------	------------------------	---	------------------------------------	-------------	---------



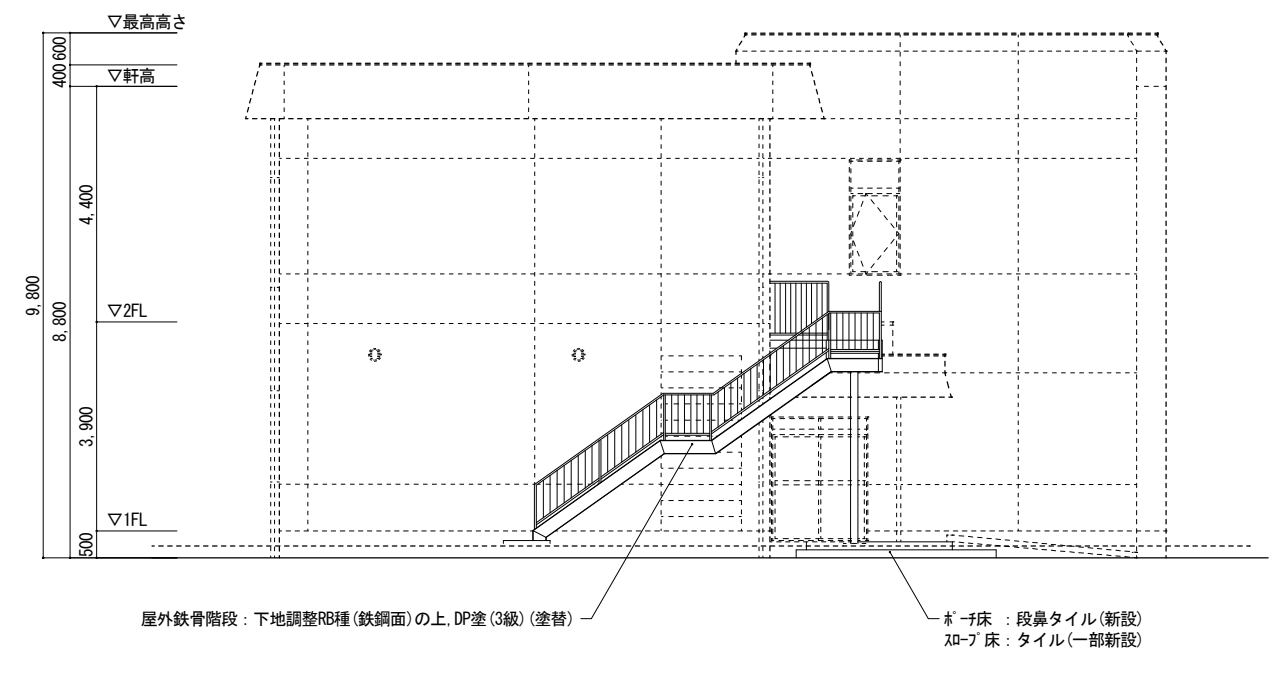
南立面図 1/100



東立面図 1/100



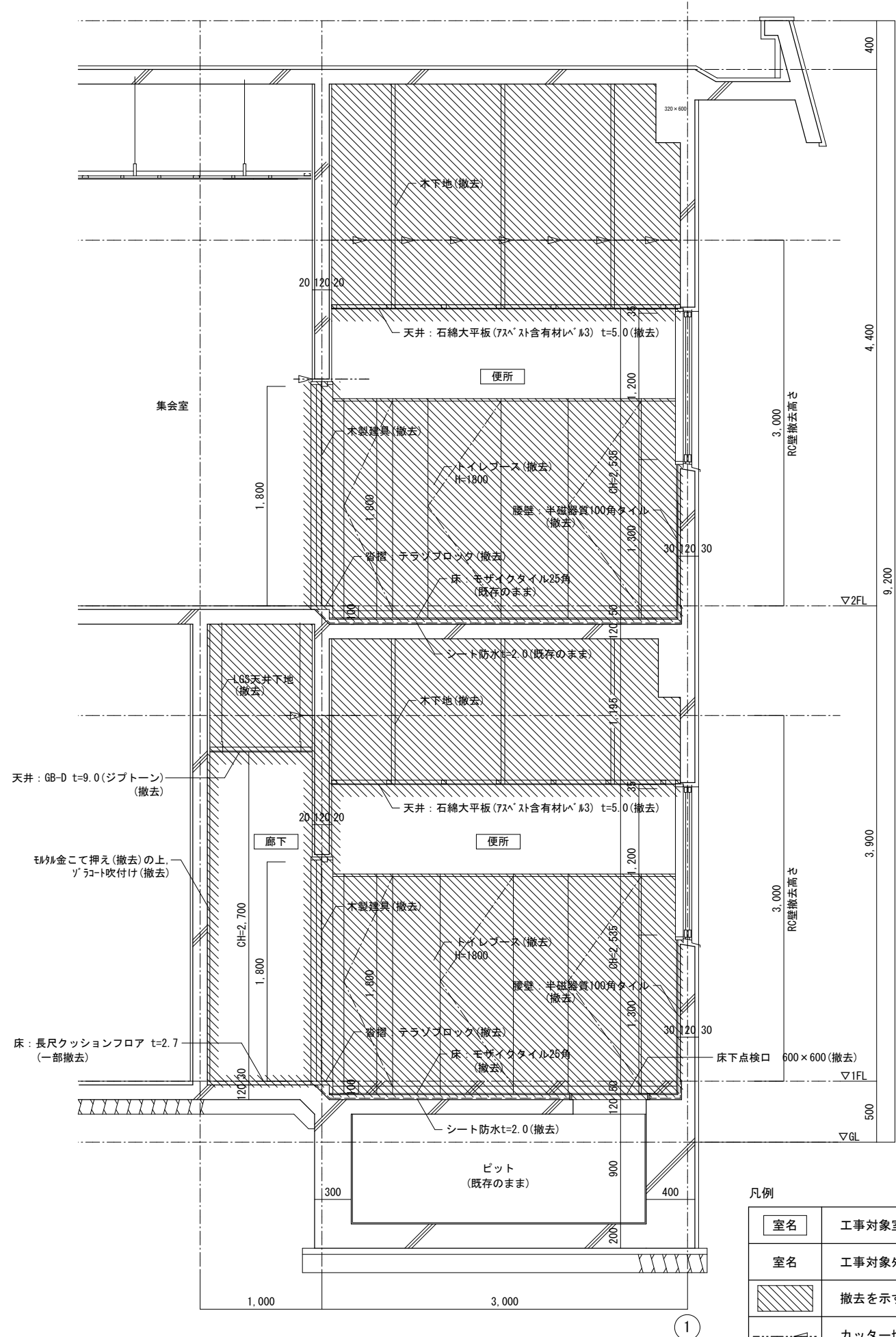
北立面図 1/100



西立面図 1/100

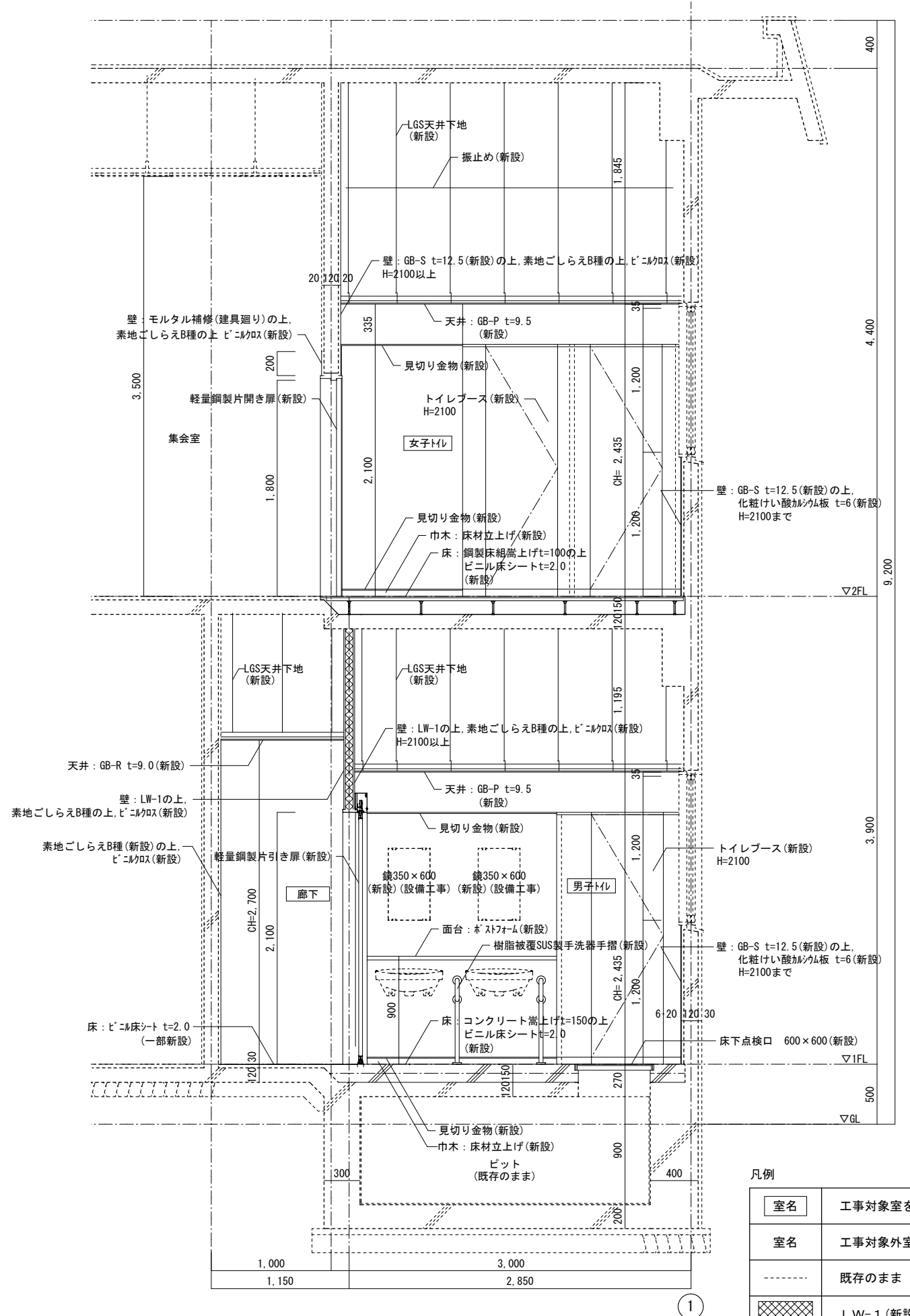
凡例

-----	既存を示す。



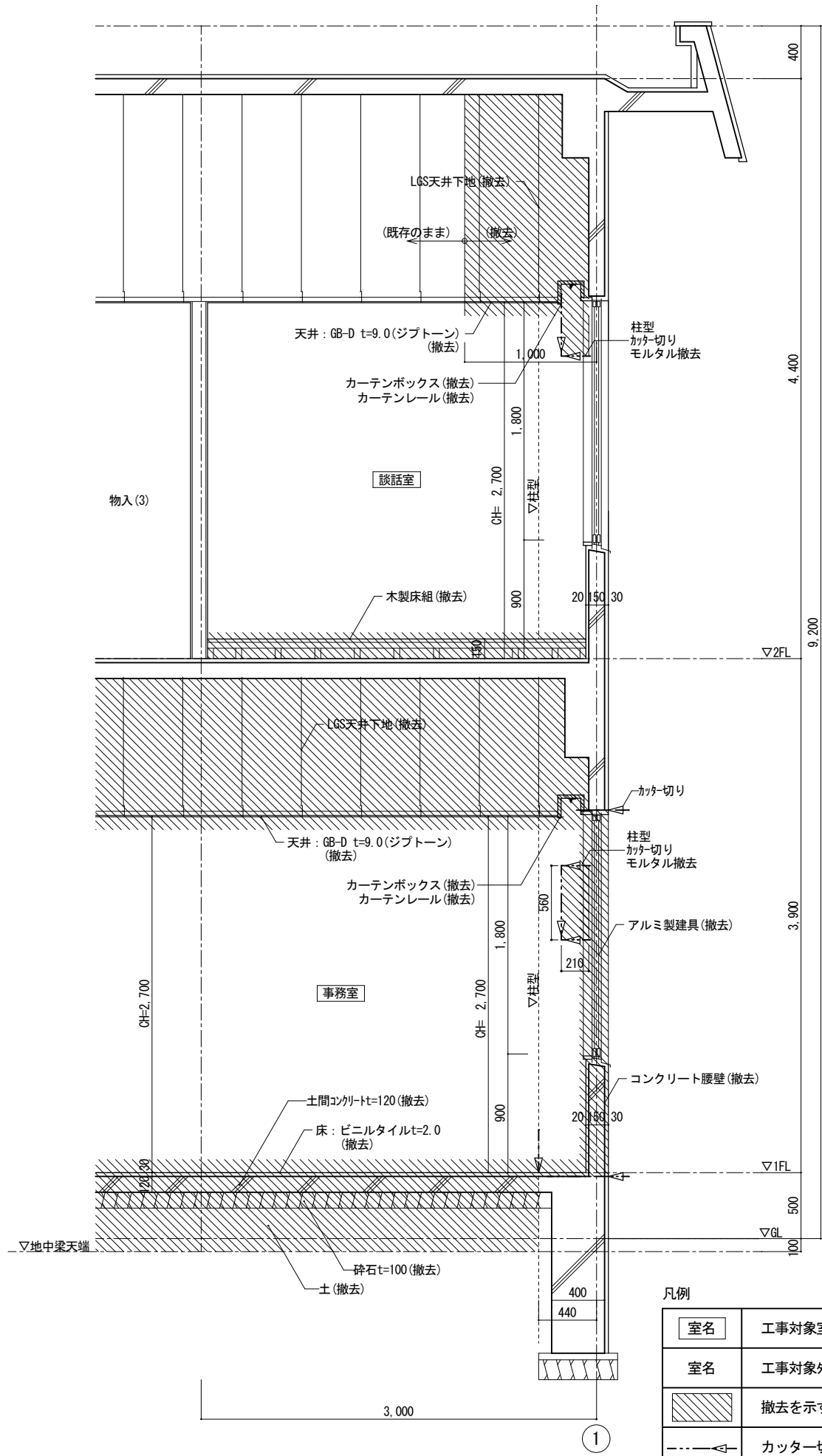
凡例

室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
	撤去を示す。
	カッター一切を示す。



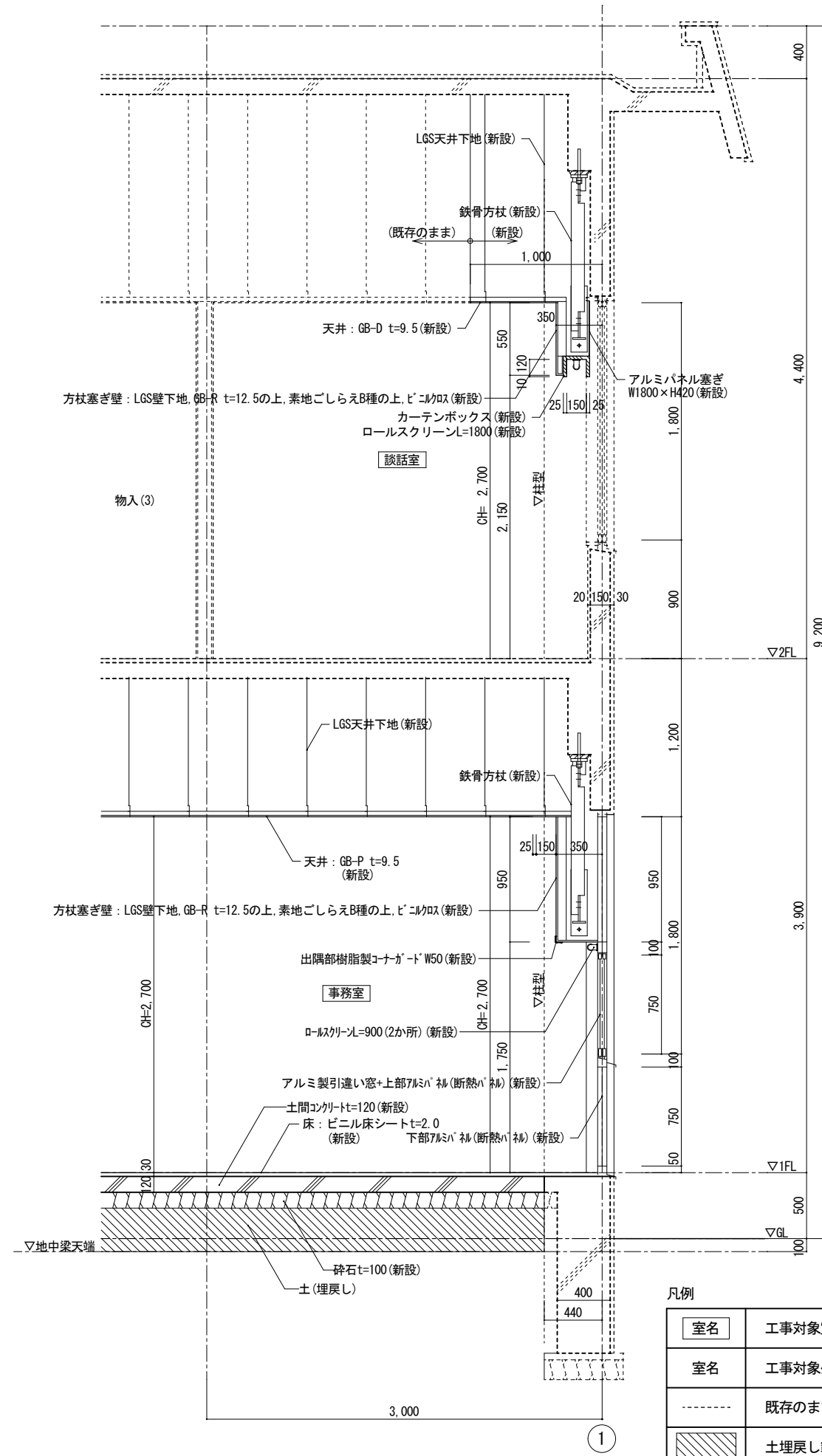
凡例

室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
-----	既存のまま
	LW-1 (新設)を示す。



凡例

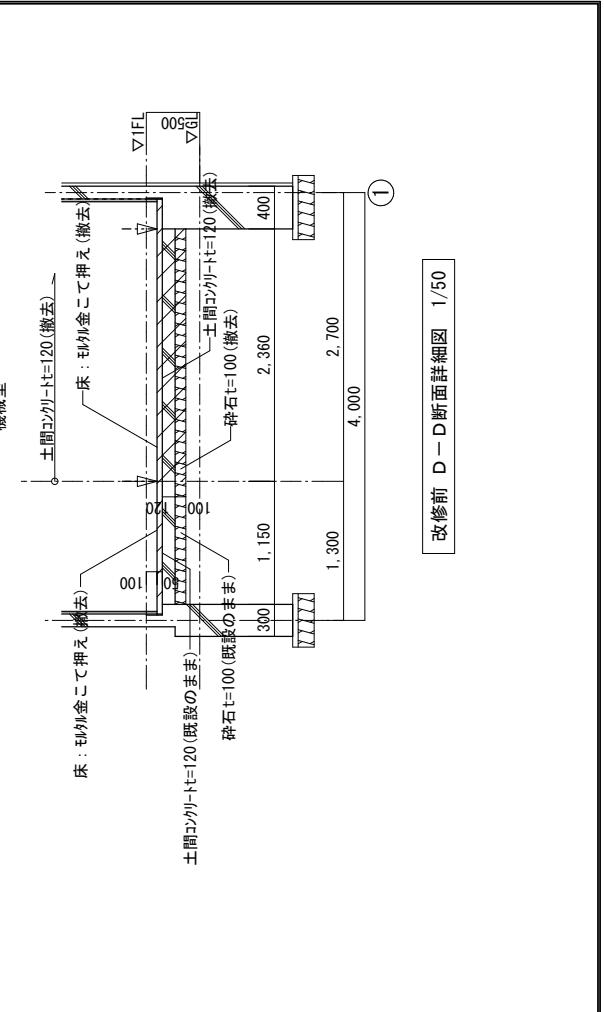
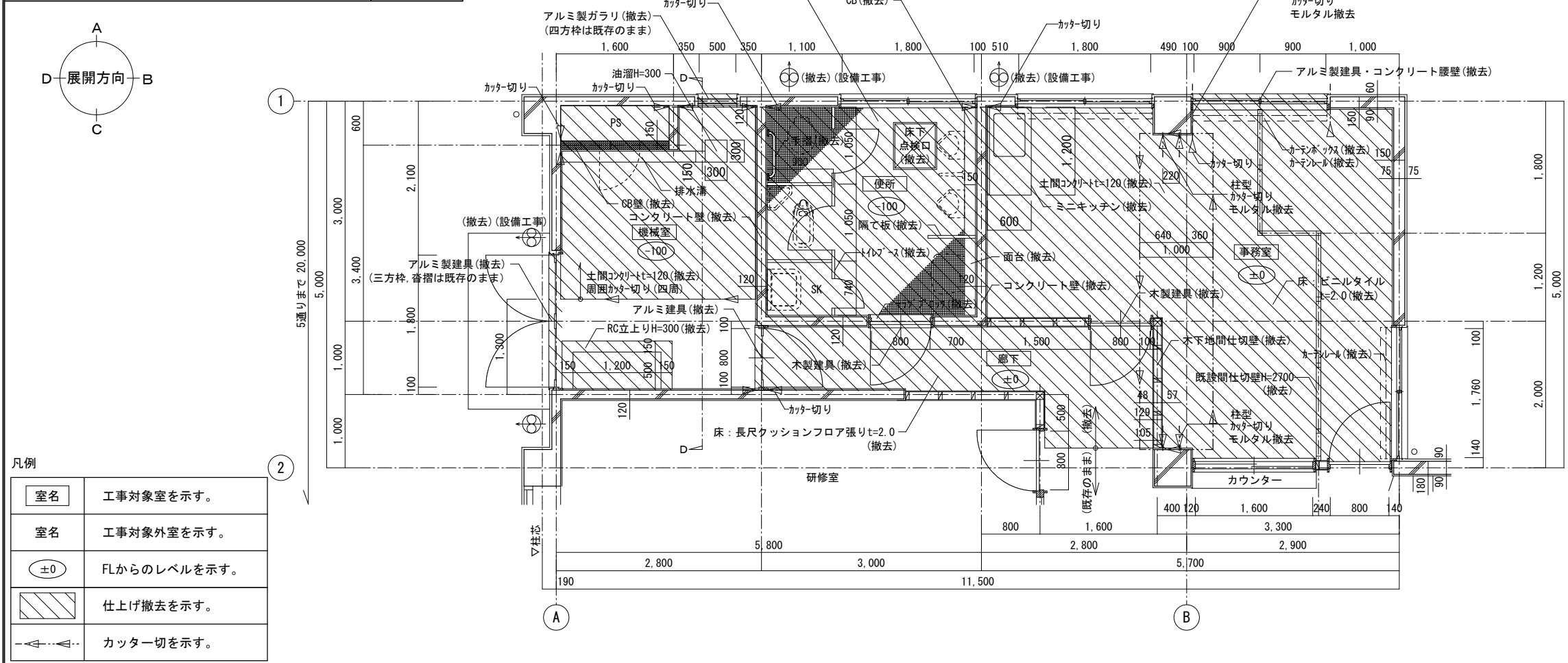
室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
	撤去を示す。
	カッター一切を示す。



凡例

室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
	既存のまま
	土埋戻し範囲を示す。

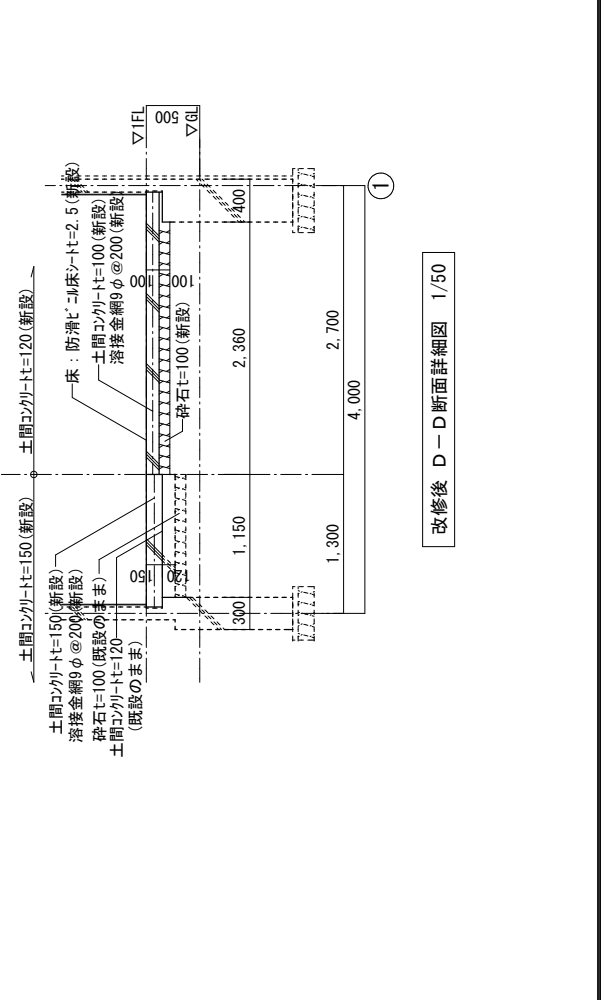
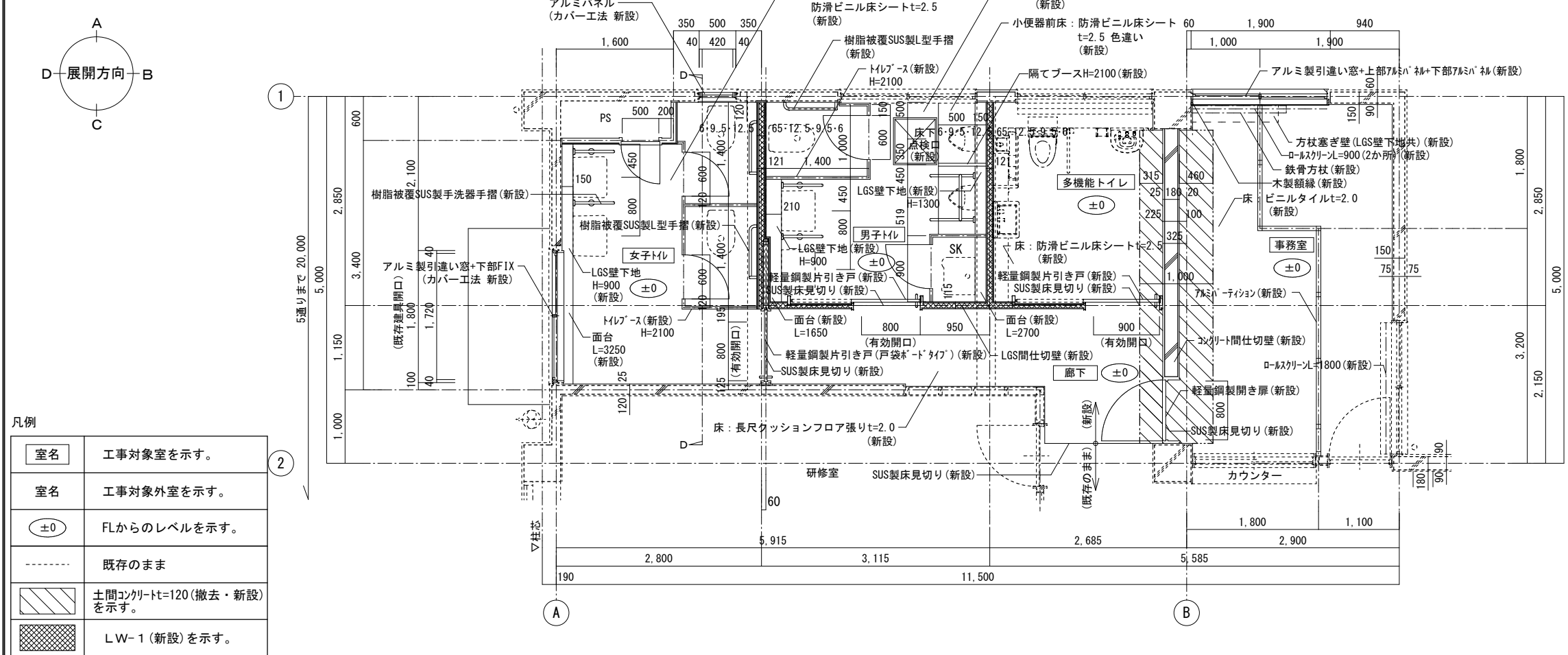
改修前 1階平面詳細図 1/50



凡例

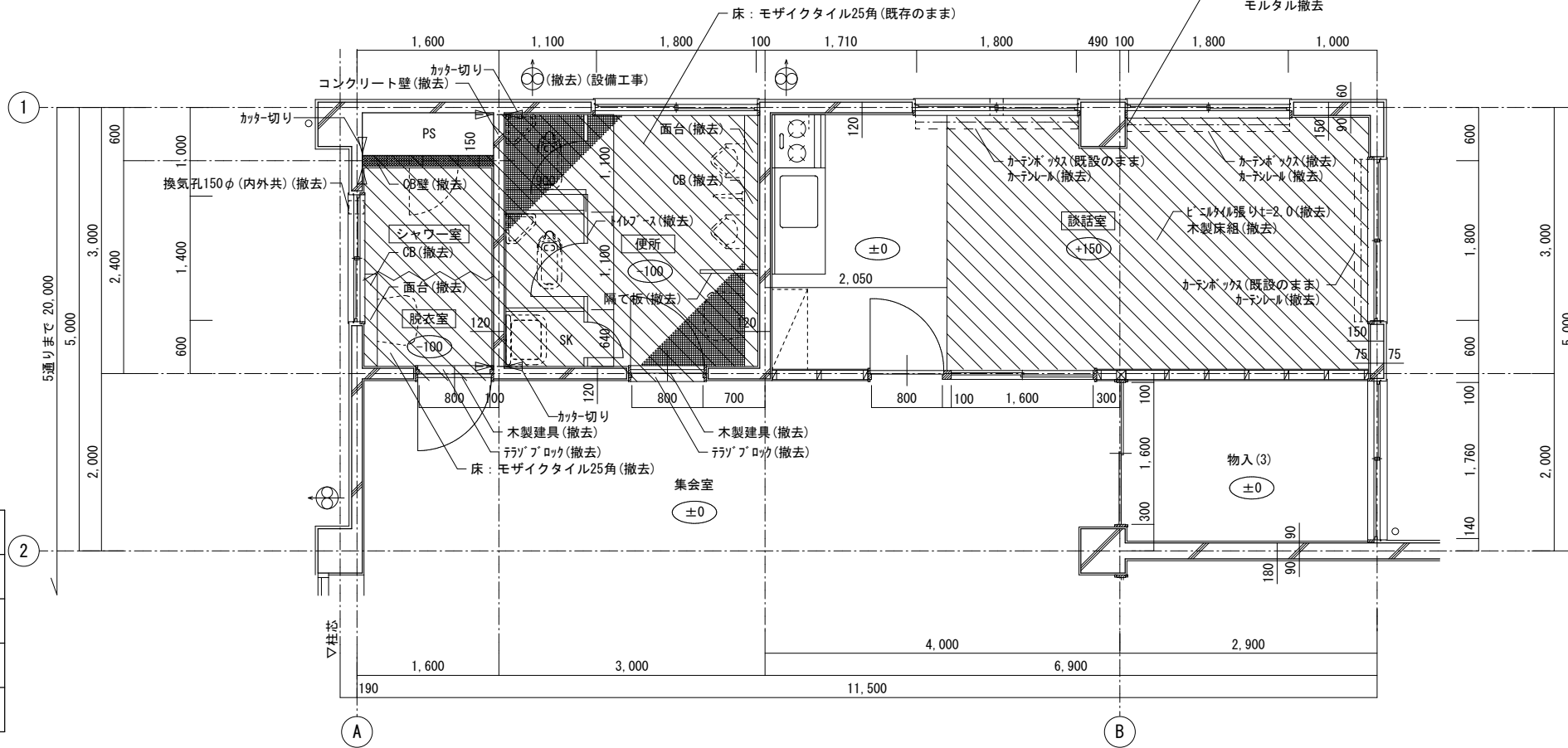
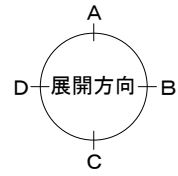
室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	仕上げ撤去を示す。
	カッター切を示す。

改修後 1階平面詳細図 1/50



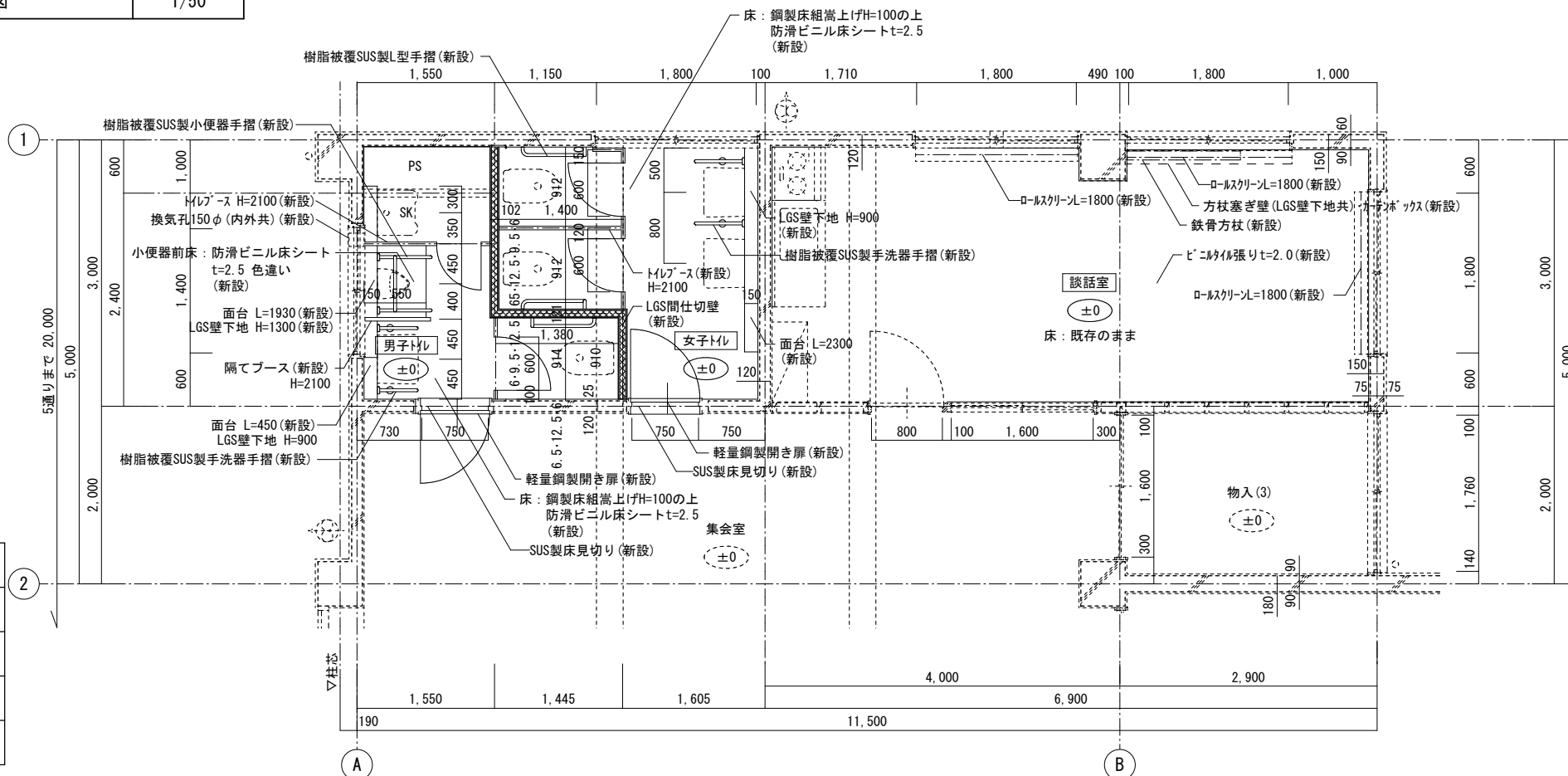
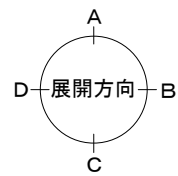
凡例

室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
---	既存のまま
	土間コンクリートt=120(撤去・新設)を示す。
	LW-1(新設)を示す。



凡例

室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	撤去を示す。
	カッター切を示す。

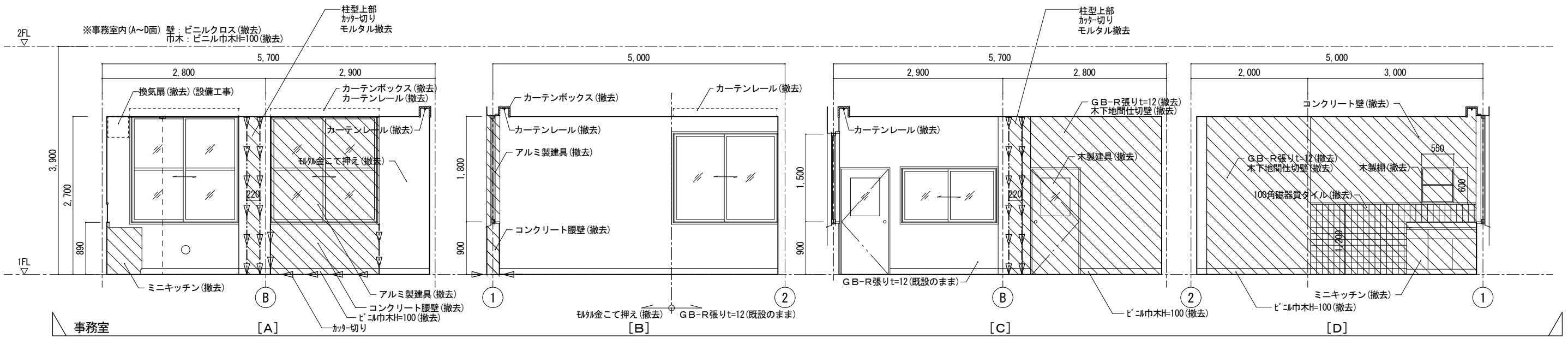
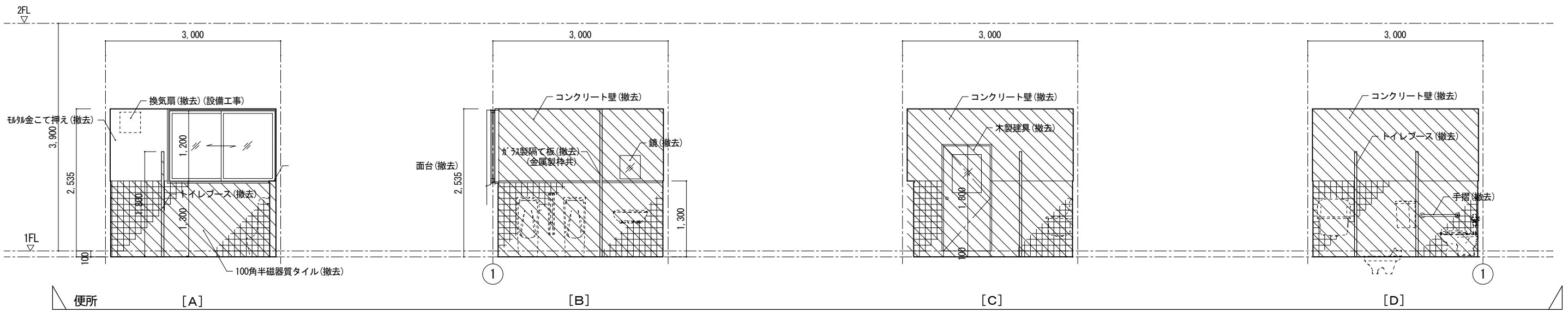
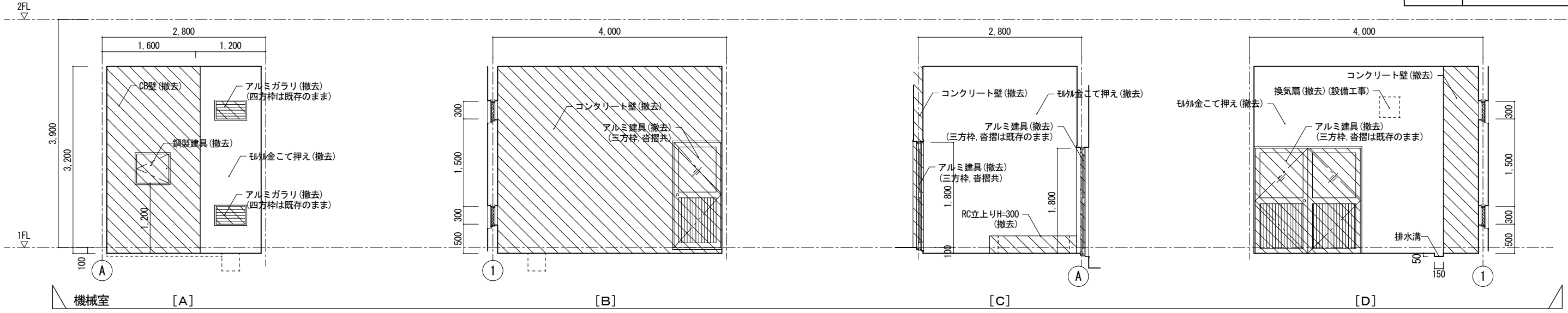


凡例

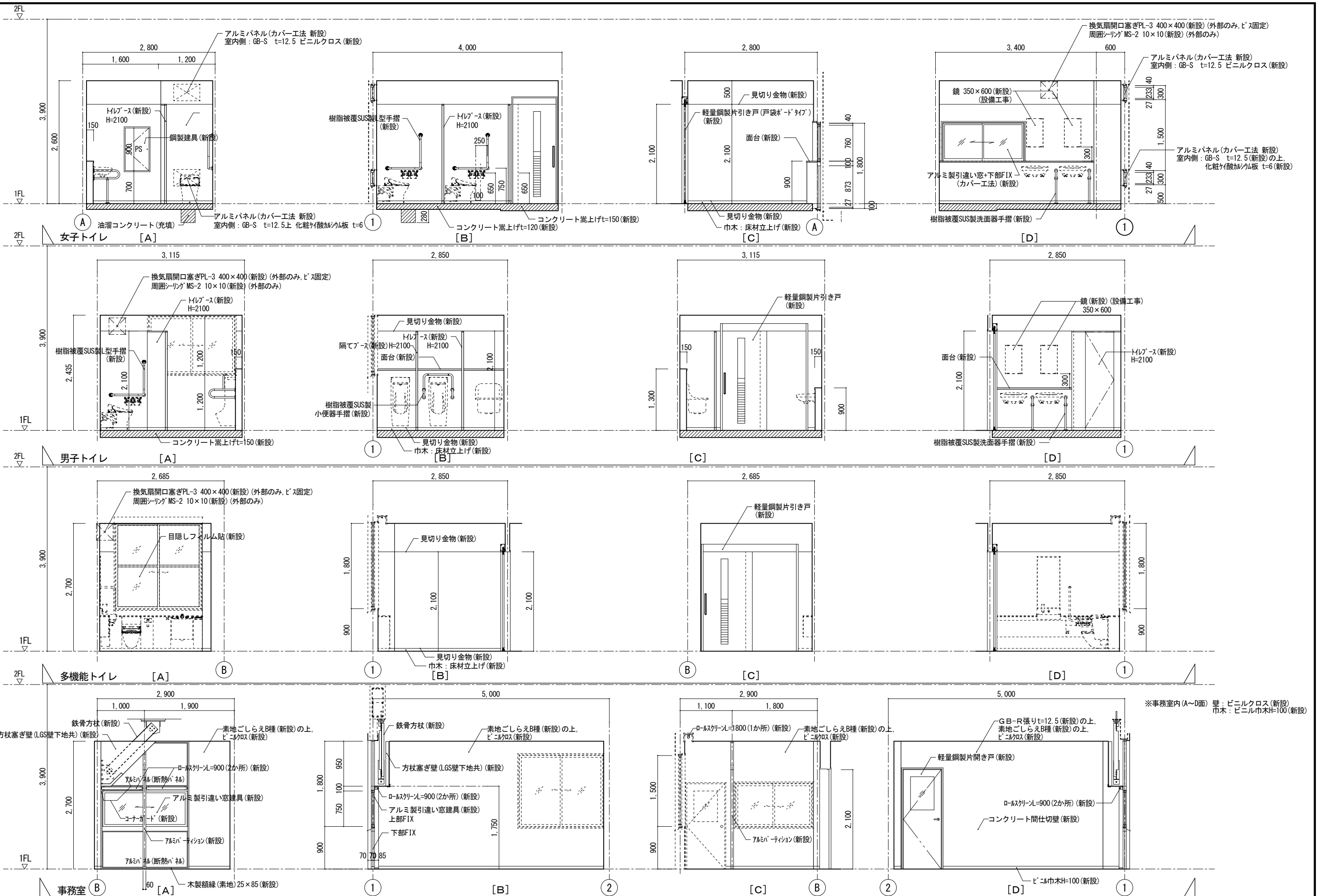
室名	工事対象室を示す。
室名	工事対象外室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
- - - - -	既存のまま
	LW-1(新設)を示す。



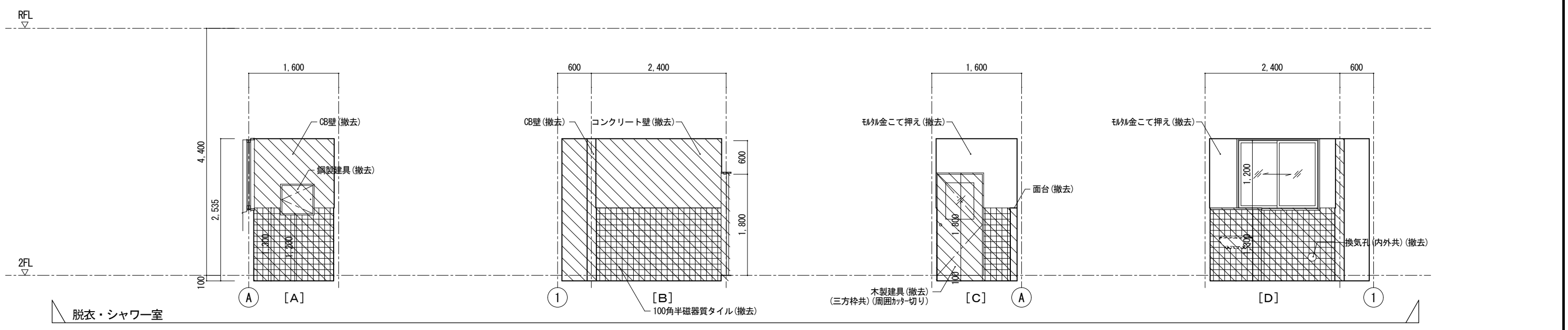
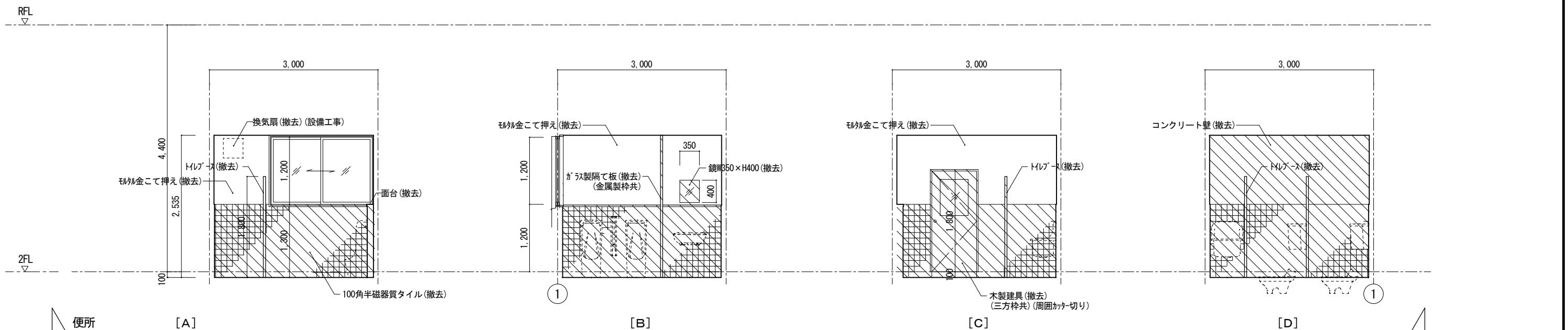
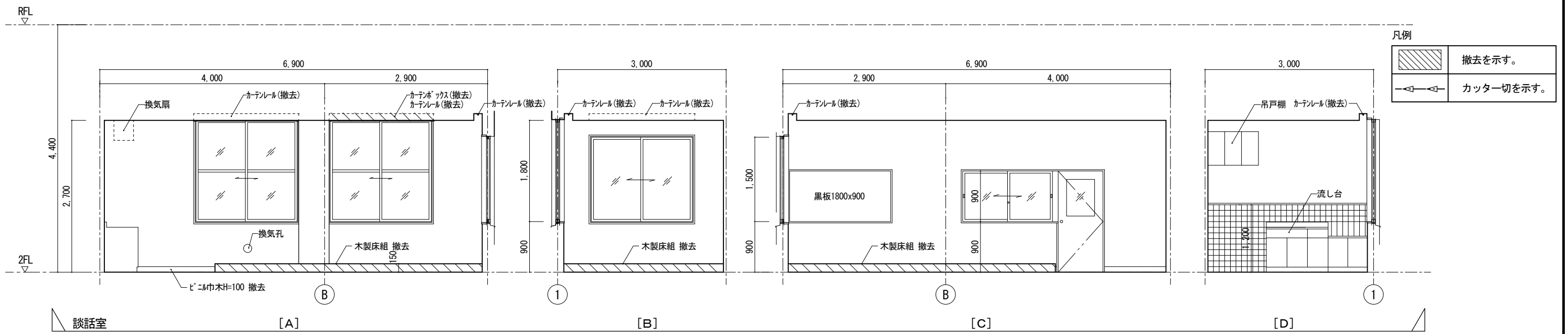
	撤去を示す。
	カッター切を示す。



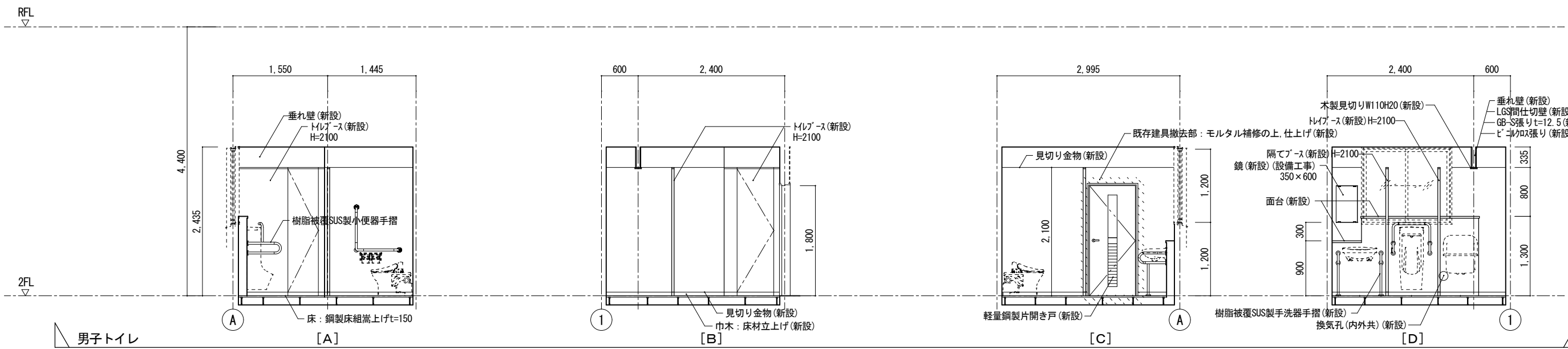
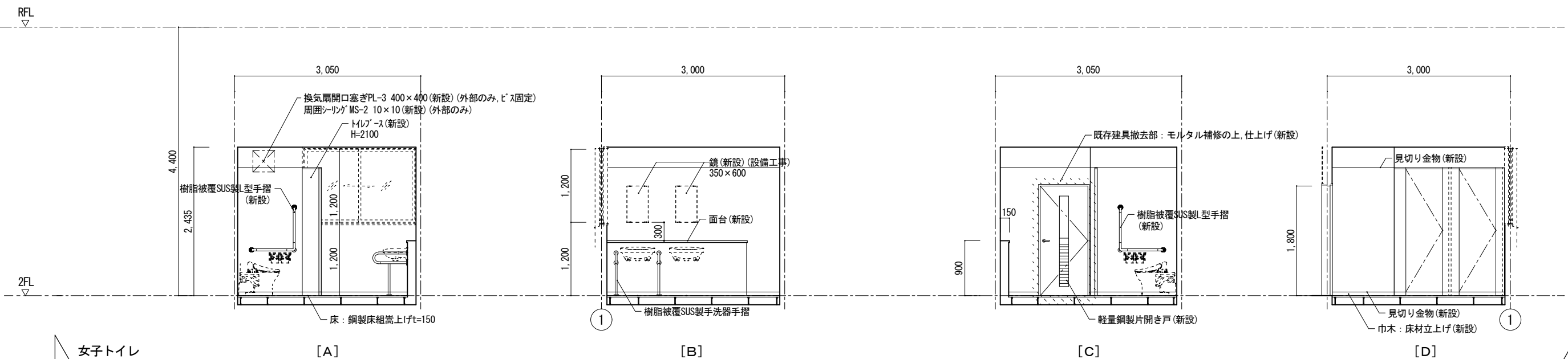
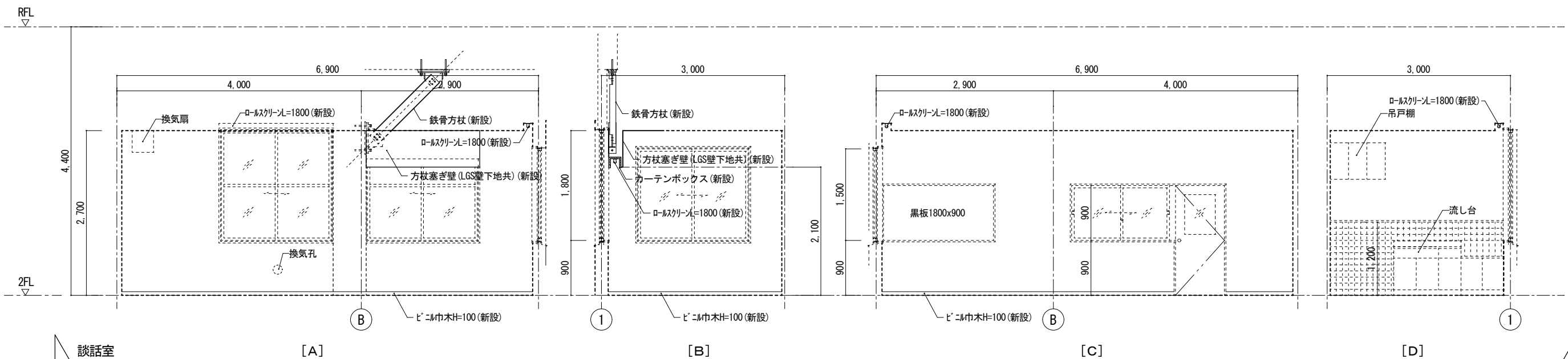
事業年度	4年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50	(A3版・71%縮小)	図番
工事完成	5年度	令和5年2月						建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 改修前 1階展開図			A-21



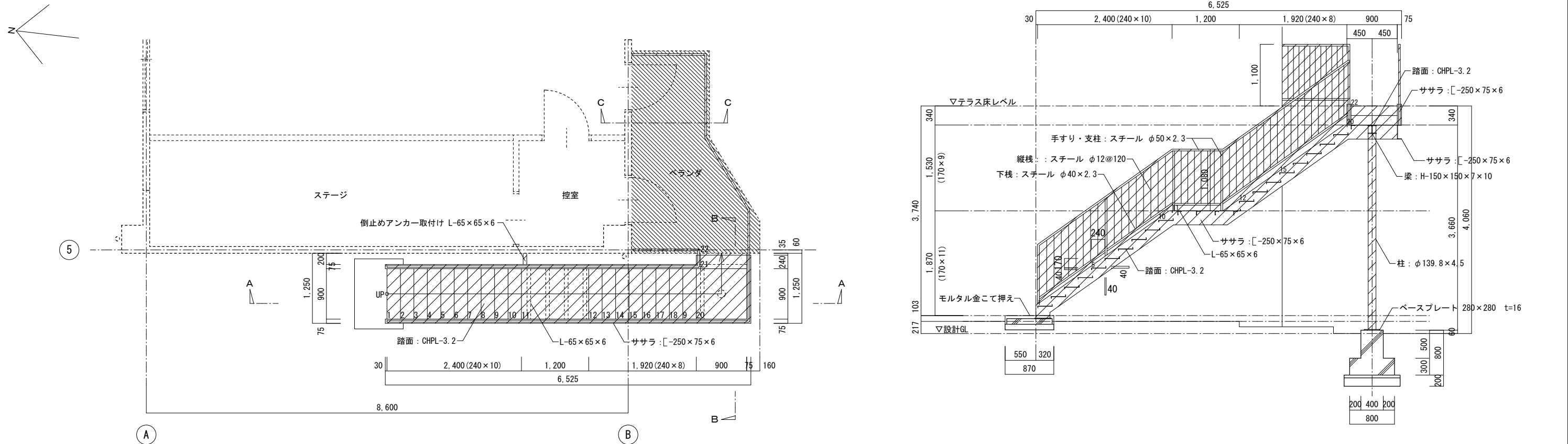
事業年度	4年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50	(A3版・71%縮小)	図番
工事完成	5年度	令和5年2月	三原市都市部建築課					建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 改修後 1階展開図			A-22



事業年度 4年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/50	(A3版-71%縮小)	図番
工事完成 5年度	令和5年2月						建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 改修前 2階展開図		A-23



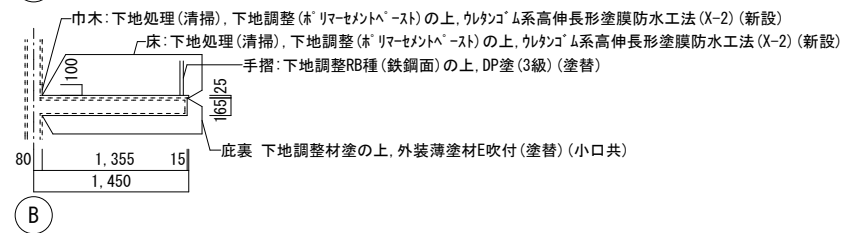
事業年度	4年度	設計		大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50	(A3版-71%縮小)	図番
工事完成	5年度	令和5年2月	三原市都市部建築課						建築	明神会館耐震改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 改修後 2階展開図			A-24



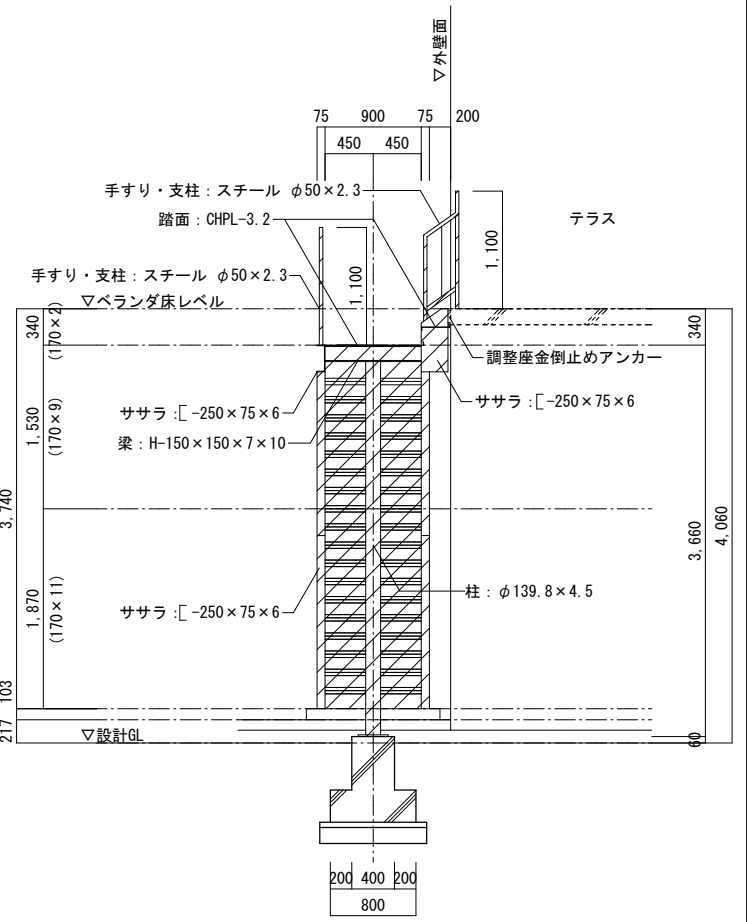
屋外階段平面詳細図 1/50

A-A断面詳細図 1/50

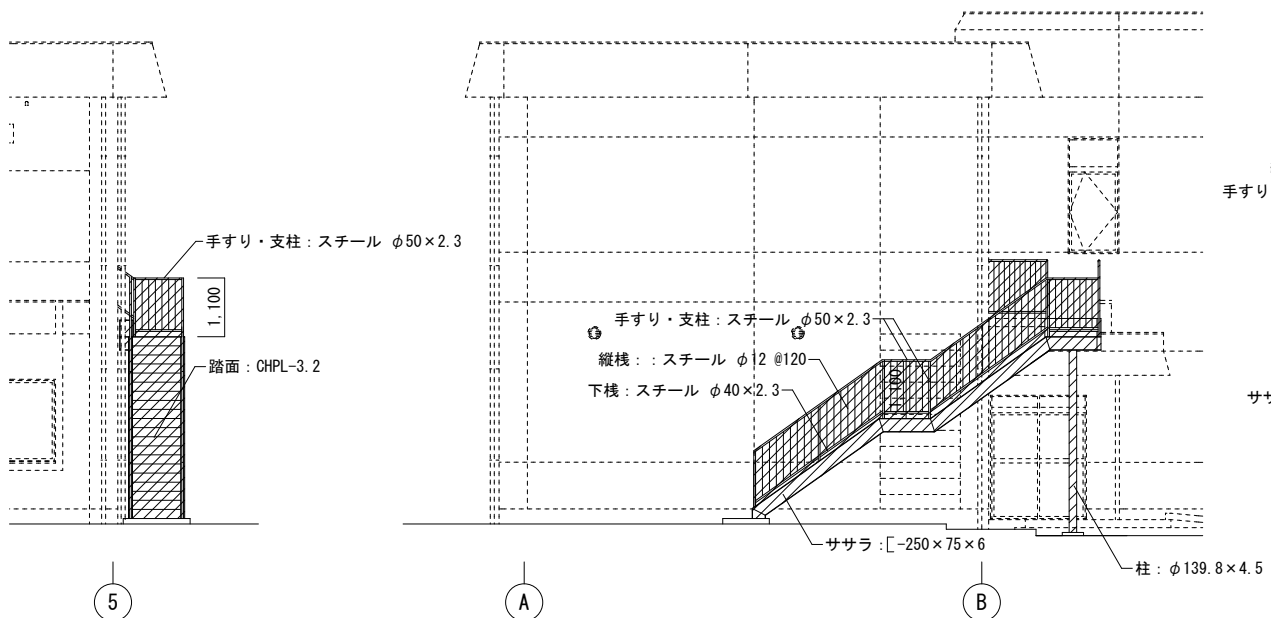
- 下地調整R8種(鉄鋼面)の上, DP塗(3級)(塗替)範囲を示す
- 下地処理(清掃), 下地調整(ホリマゼメントベスト)の上, ウレタン系高伸長形塗膜防水工法(X-2)(新設)範囲を示す



C-C断面詳細図 1/50



B-B断面詳細図 1/50



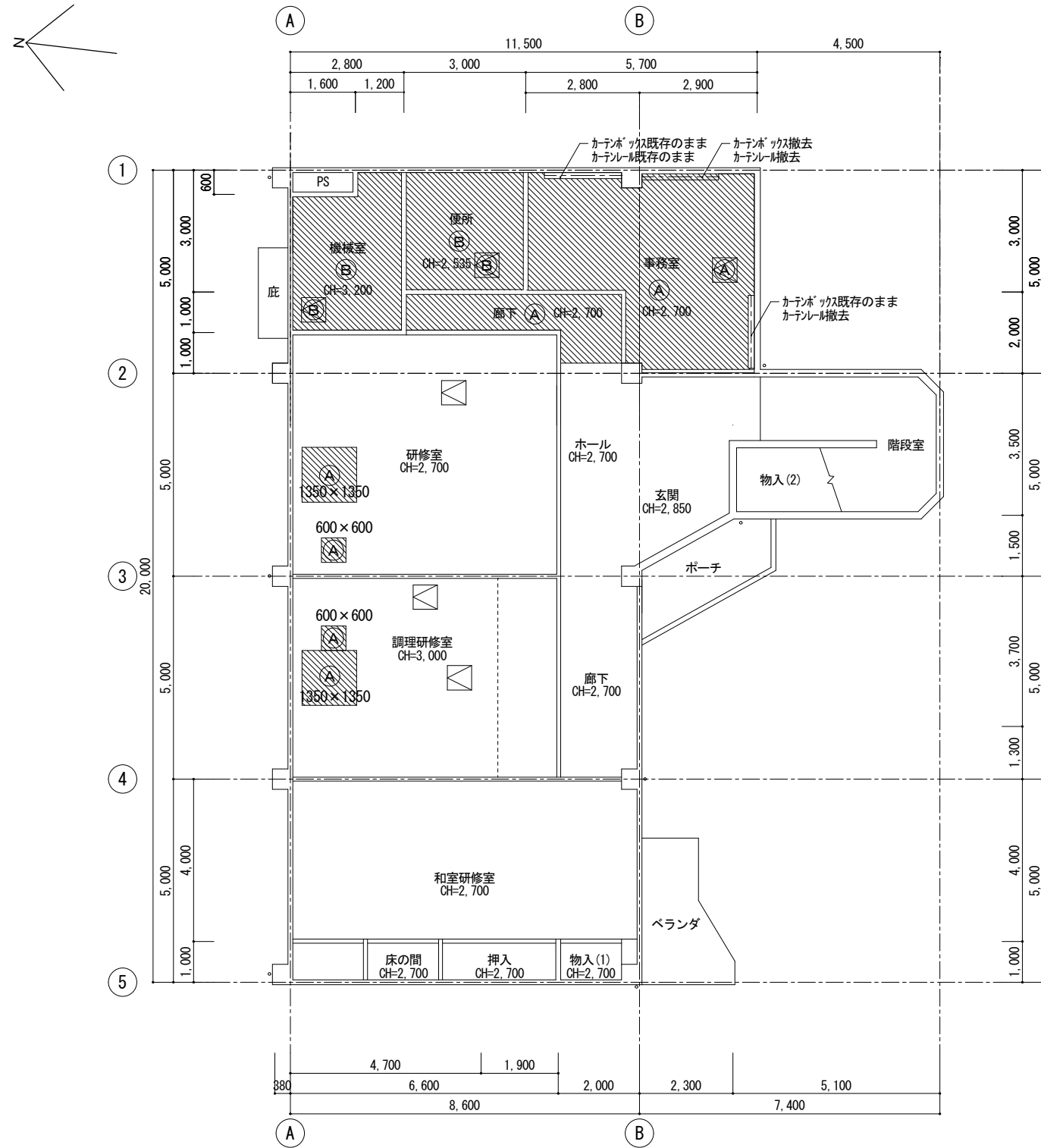
北立面図 1/100

西立面図 1/100

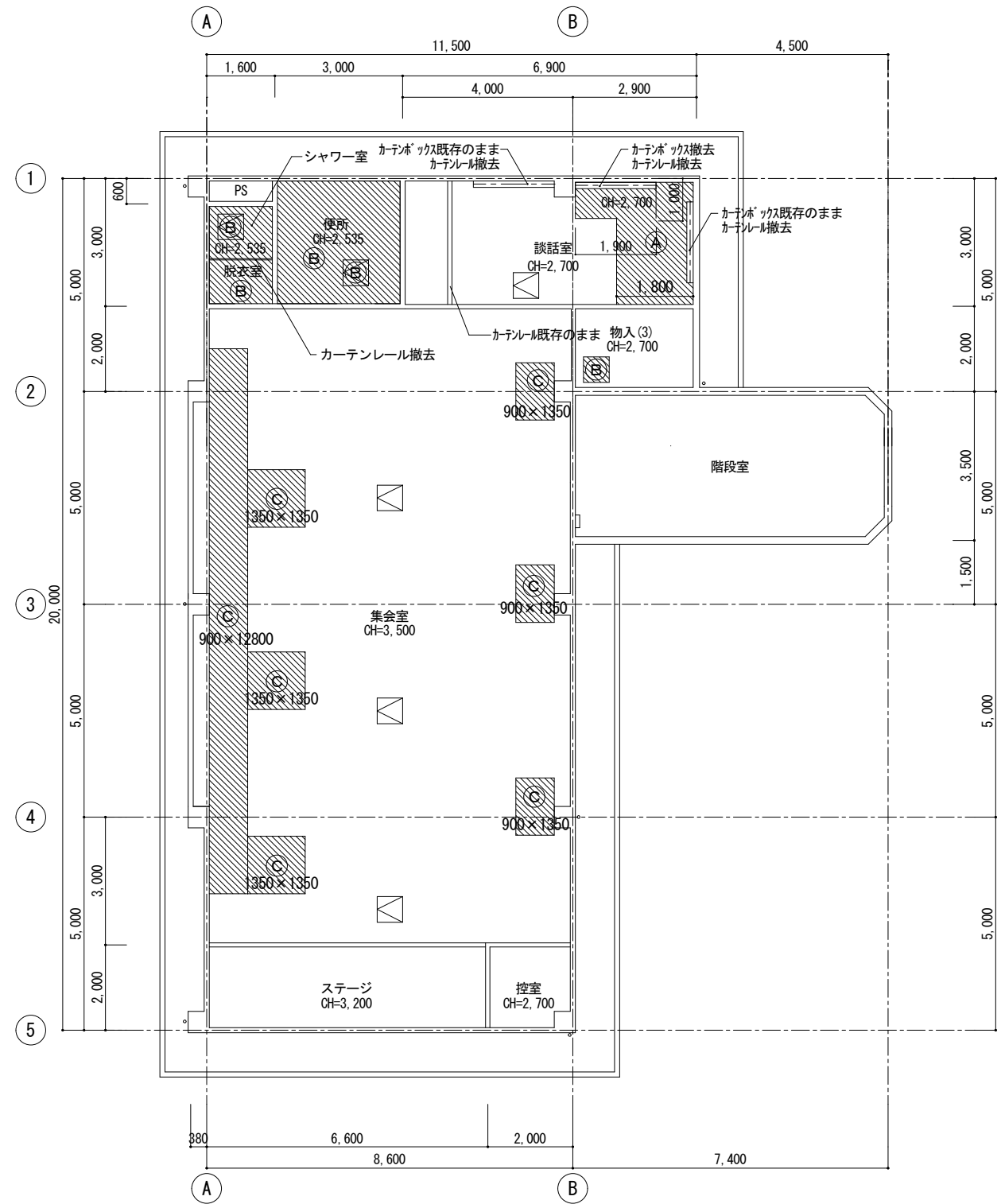
南立面図 1/100

- 下地調整R8種(鉄鋼面)の上, DP塗(3級)(塗替)範囲を示す
- 素地ごしらえB種(鉄鋼面)の上, DP塗(3級)(新設)範囲を示す
- 下地処理(清掃), 下地調整(ホリマゼメントベスト)の上, ウレタン系高伸長形塗膜防水工法(X-2)(新設)範囲を示す

事業年度	4年度	設計	令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/50, S=1/100 (A3版-71%縮小)	図番
工事完成	5年度									建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 階段詳細図		A-25



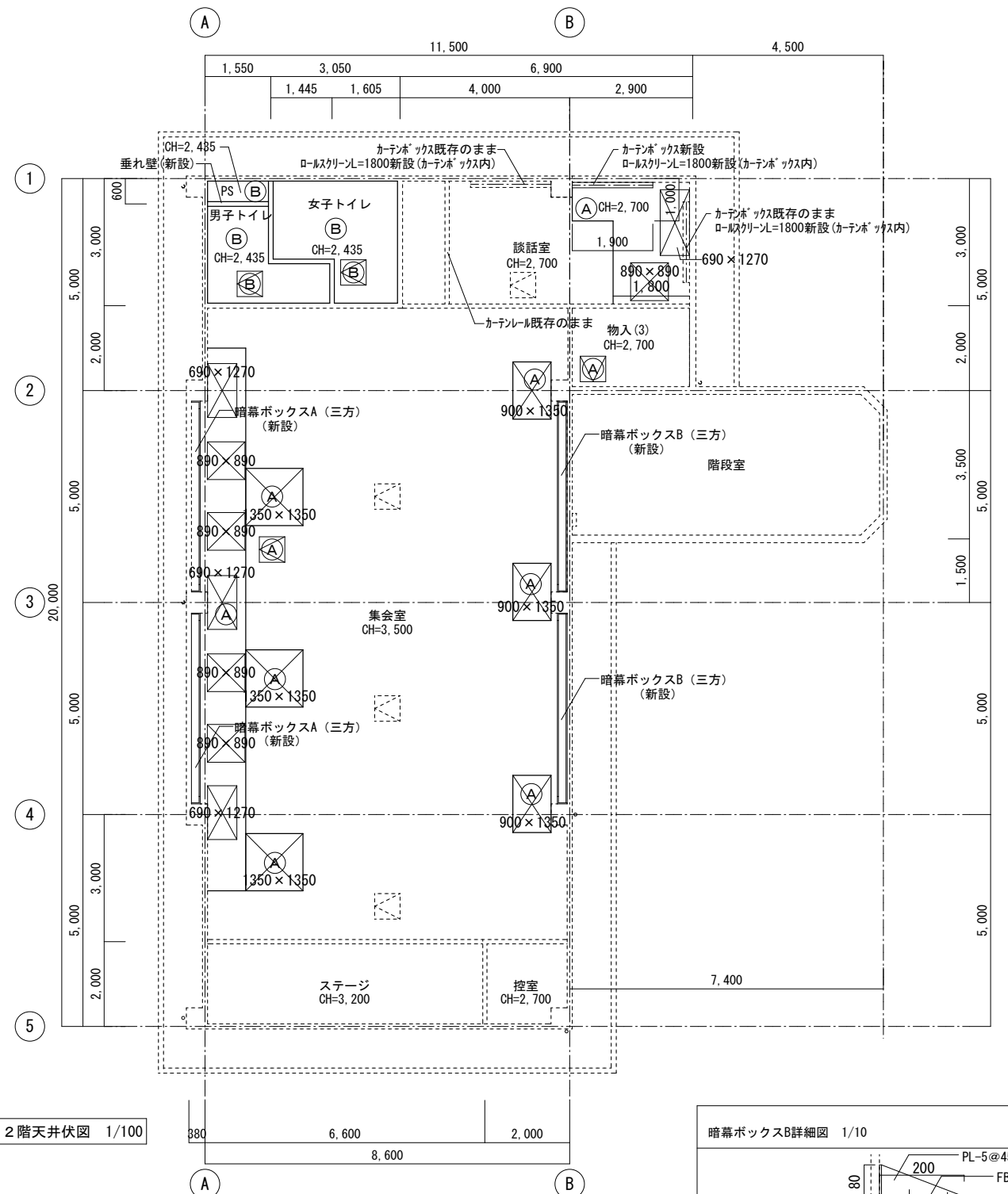
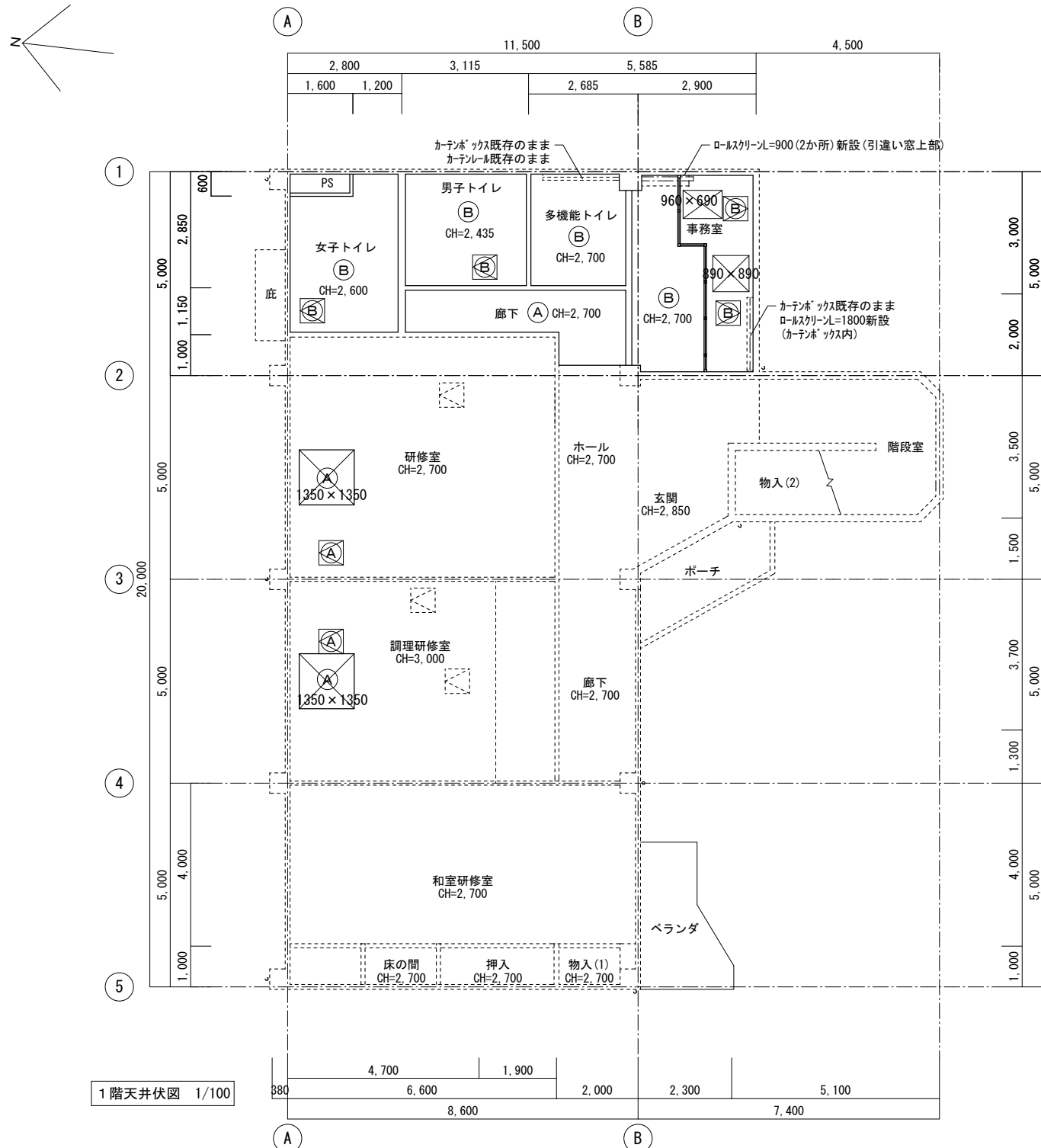
1階天井伏図 1/100



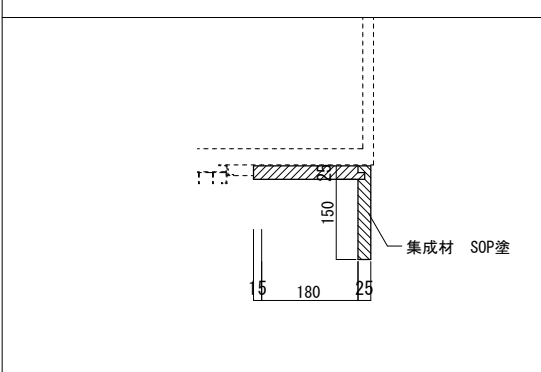
2階天井伏図 1/100

記号	天井仕上
(A)	GB-D(ジブト) t=9.0 455×910張り(LGS天井下地共) (撤去)
(B)	石綿大平板(7スチ含有材レⅡ3) t=5.0張りの上, AEP塗(木下地共) (撤去)
(C)	吸音テックス(7スチ含有みなし材レⅡ3) t=9.0 300×300張り(LGS天井下地共) (撤去)
	撤去範囲を示す
	天井点検口600角(撤去)

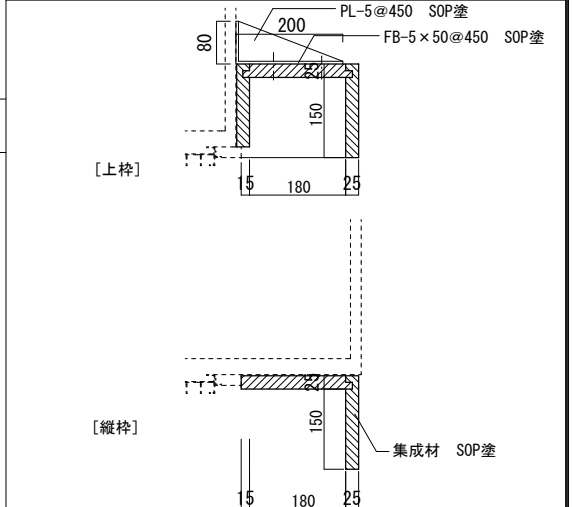
事業年度	4年度	設計	令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	建築	工事名	明神会館耐震改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺	S=1/100	(A3版-71%縮小)	図番	A-26
------	-----	----	--------	-----------	---	---	---	----	----	----	----	-----	------------	-----------------	--	---------	---------	-------------	----	------



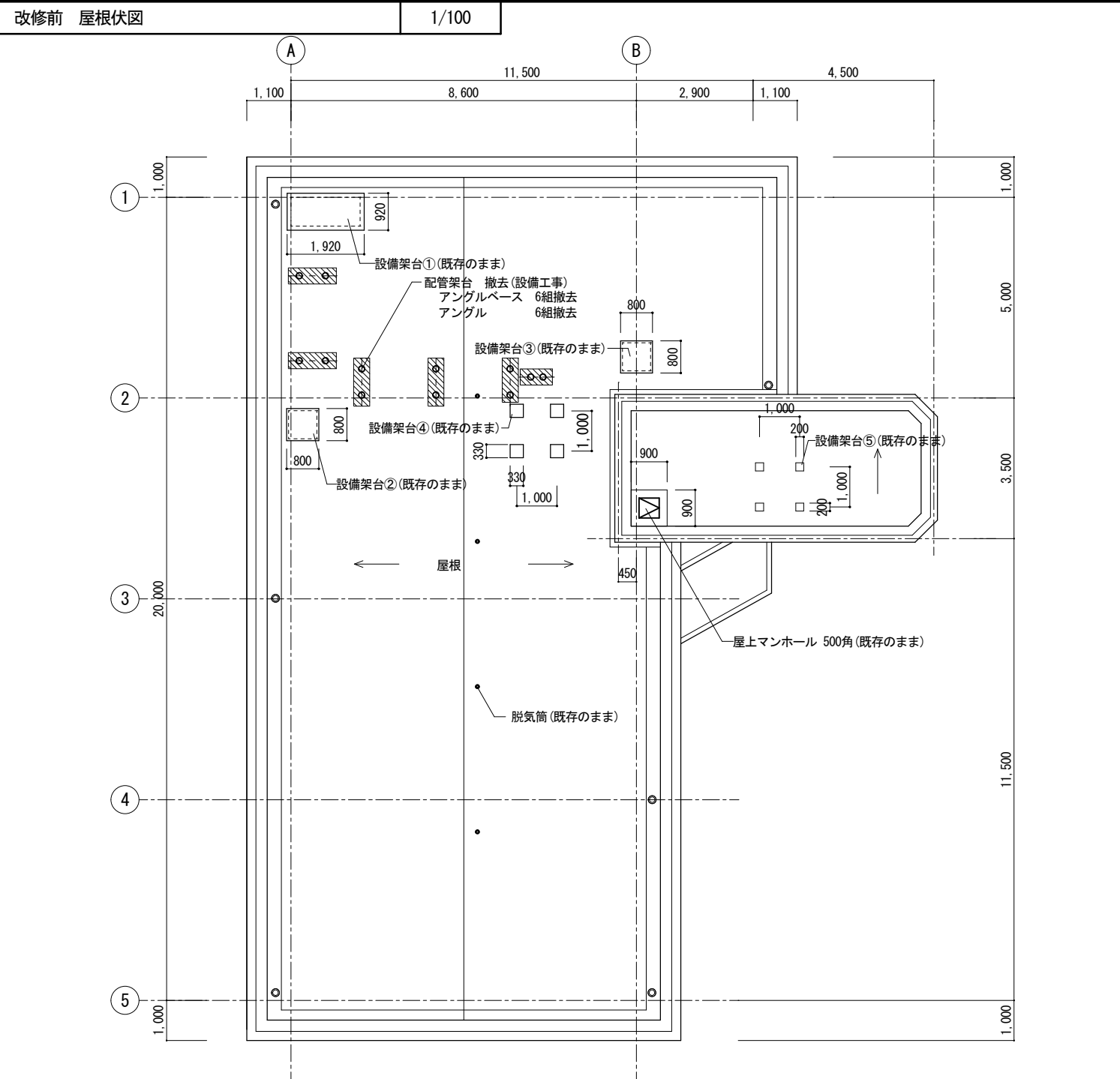
暗幕ボックスA詳細図 1/10 [三方枠]



暗幕ボックスB詳細図 1/10



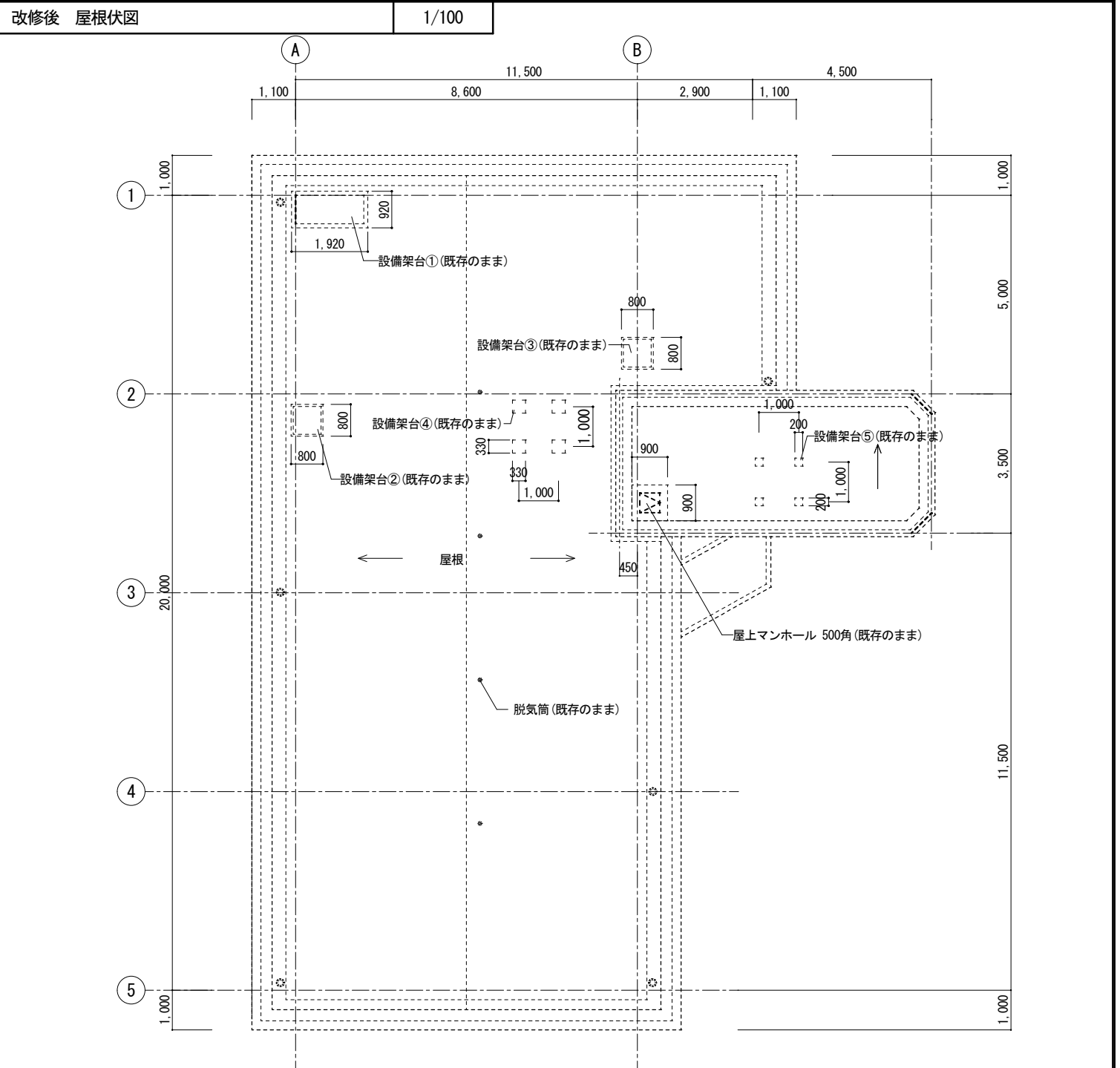
記号	天井仕上
(A)	GB-D t=9.5 455×910張り (LGS天井下地共) (新設)
(B)	GB-P t=9.5張り (LGS天井下地共) (新設)
☒	天井点検口+LGS天井下地開口補強 (新設)
☒	LGS天井開口補強 (新設) 位置を示す



凡例

	改修範囲を示す。
	脱気筒

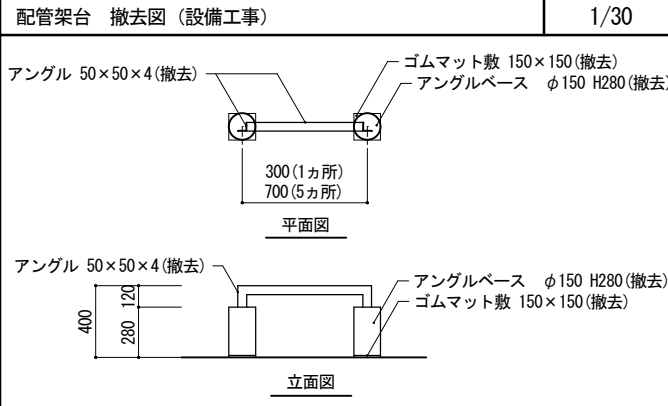
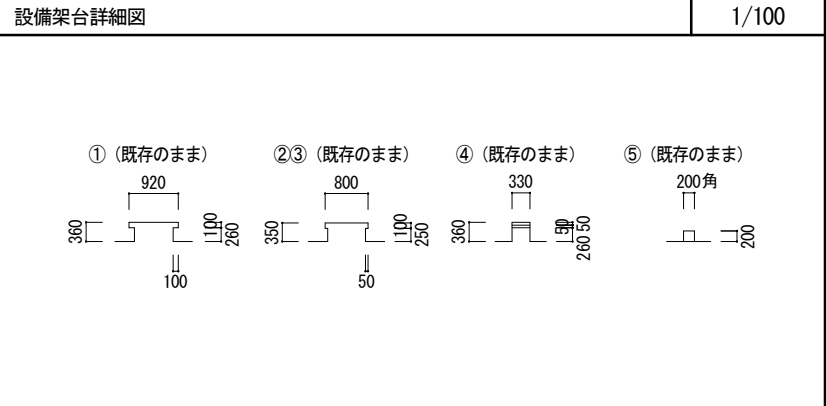
屋根伏図 1/100



凡例

	既存を示す。
	脱気筒

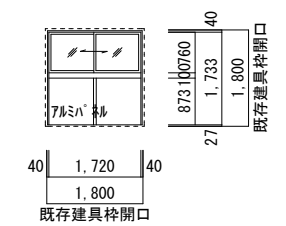
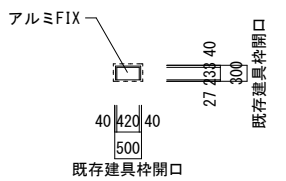
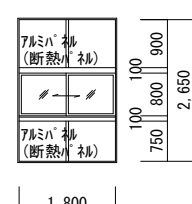
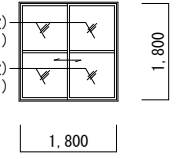
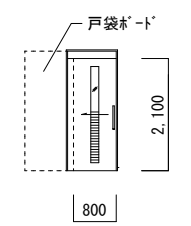
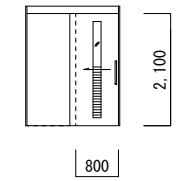
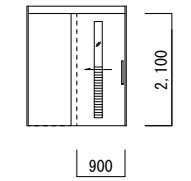
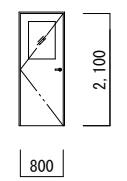
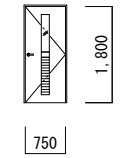
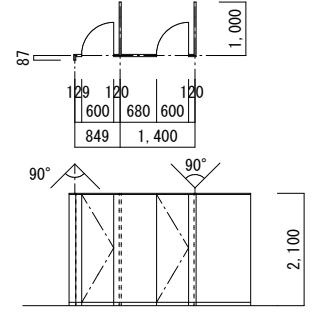
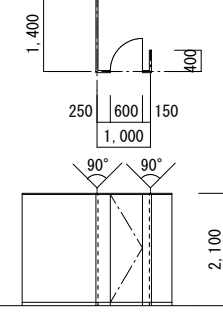
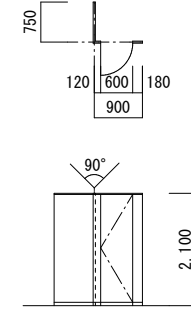
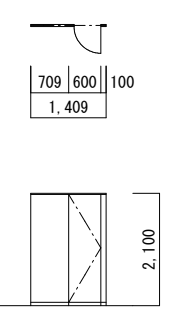
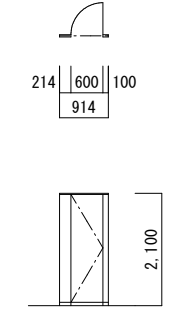
屋根伏図 1/100



事業年度 4年度	設計 令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 S=1/30・1/100 (A3版-71%縮小)	図番 A-28
----------	-----------	-----------	---	---	---	----	----	-------	----------------	--	----------------------------------	---------



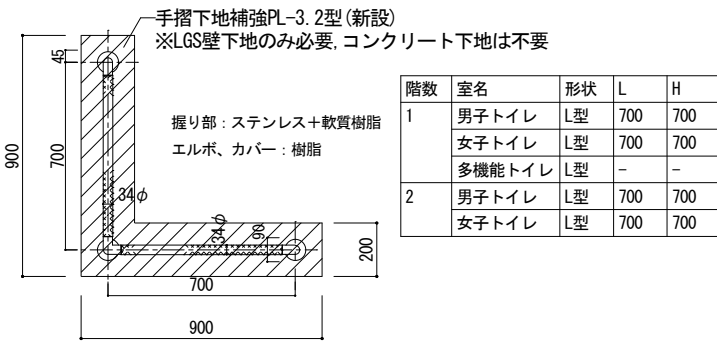
符号・数量	(AD) 1	両開きドア	1	(AD) 2	片開きドア	1	(AW) 1	引違い窓	4	(AW) 2	引違い窓	1	(AW) 3	引違い窓	2	(AW) 4	引違い窓	1
工事内容	撤去(三方枠, 吝摺は既存のまま)			撤去(三方枠, 吝摺共)			1ヶ所(1階事務室) 撤去(四方枠共)、3ヶ所 既存のまま			既存のまま			既存のまま			既存のまま		
場所	1階 機械室			1階 機械室			1階 事務室 2階 談話室			2階 談話室			1階・2階 便所			2階 シャワー室・脱衣所		
姿 図 寸 法																		
材種・仕上	アルミ			アルミ			アルミ			アルミ			アルミ			アルミ		
見込額	70 木製			70 木製			70 木製			70 木製			70 木製			70		
ガラス	FW-6.8			FW-6.8			FL-5			FL-5			F-4			FL-3		
錠	ユニロック			ユニロック			クレセント			クレセント			クレセント			クレセント		
金物	附属金物一式、ドアチェック、フランス落とし アングルピース、水切板			附属金物一式、ドアチェック、アングルピース 水切板			附属金物一式、アングルピース、水切板			附属金物一式、アングルピース、水切板			附属金物一式、アングルピース、水切板			附属金物一式、水切板		
備考																		
符号・数量	(AW) 5	引違い窓	2	(AG) 1	ガラリ	2	(SD) 1	片開きドア	2	(WD) 1	片開きドア	2	(WD) 2	引違いドア	1	(WD) 3	片開きドア	3
工事内容	既存のまま			撤去(四方枠は既存のまま)			撤去(四方枠共)			1ヶ所 撤去(三方枠共)、1ヶ所 既存のまま			既存のまま			撤去(三方枠共)		
場所	1階 事務室 2階 物入(3)			1階 機械室			1階 機械室 PS 2階 シャワー室 PS			1階 事務室			2階 物入			1階 便所 2階 便所・シャワー室		
姿 図 寸 法																		
材種・仕上	アルミ			アルミ			鋼製 OP			プリント合板			プリント合板			プリント合板		
見込額	70 木製			70			86			33 木製			33 木製			33 木製		
ガラス	F-4									F-4						F-4		
錠	クレセント						錠			ユニロック			差込錠			ユニロック		
金物	附属金物一式、アングルピース、水切板			附属金物一式、水切板			附属金物一式、引手、丁番			附属金物一式、丁番、ドアチェック			附属金物一式、舟底引手			附属金物一式、丁番、ドアチェック		
備考																		
符号・数量	(WW) 1	引違い窓	1	(MWD) 1	引違い窓付片開きドア	1	(PT) 1	トイレブース	1	(PT) 2	トイレブース	1	凡例					
工事内容	既存のまま			既存のまま			撤去			撤去			AD アルミ製ドア AW アルミ製マド SD 鋼製ドア SW 鋼製マド WD 木製ドア WW 木製マド LD 軽量鋼製ドア SS 鋼製重量シャッター FL フロート板ガラス F 型板ガラス PW 網入り磨き板ガラス FW 網入り型板ガラス PT パーティション 口共通事項 1. ガラリの開口率は35%とする。(断面A型)					
場所	1階 事務室			2階 談話室			2階 便所			1階 便所								
姿 図 寸 法																		
材種・仕上	木製			ドア: プリント合板 窓: OP			耐水ベニヤ OP			耐水ベニヤ OP								
見込額	33 木製			33 木製			36			36								
ガラス	F-4			F-4														
錠	差込錠			ドア: ユニロック、窓: 差込錠			表示器付ラッチ			表示器付ラッチ								
金物	舟底引手			附属金物一式、丁番、ドアチェック、舟底引手			附属金物一式、丁番、把手、金物 頭: ステンレス			附属金物一式、丁番、把手、金物 頭: ステンレス								
備考																		

符号・数量	AW 11	引違い窓+下部アルミFIX	1	AW 12	アルミFIX	2	AW 13	引違い窓+上部7mmFIX+下部7mmFIX	1	AW 14	引違い窓	1			
工事内容	新設(カバー工法)			新設(カバー工法)			新設(四方枠共)			新設					
場所	1階 女子トイレ			1階 女子トイレ			1階 事務室			1階 多機能トイレ					
姿 図 寸 法	※カバー工法 			※カバー工法 											
材種・仕上	アルミ			アルミ			アルミ			アルミ					
見込額	70			70			70			70					
ガラス	F-4、アルミパネルt=16			アルミパネルt=16			FL-5、アルミパネル(断熱付) t=16			FL-5					
錠	クレセント			-			クレセント			クレセント					
金物	附属金物一式			附属金物一式			附属金物一式、アングルピース、水切板			附属金物一式、アングルピース、水切板					
備考															
符号・数量	LD 11	片引きハンガー戸	1	LD 12	片引きハンガー戸	1	LD 13	片引きハンガー戸	1	LD 14	片開き戸	1	LD 15	片開き戸	2
工事内容	新設(三方枠共)			新設(三方枠共)			新設(三方枠共)			新設(三方枠共)			新設(三方枠共)		
場所	1階 女子トイレ			1階 男子トイレ			1階 多機能トイレ			1階 事務室			2階 男子トイレ・女子トイレ		
姿 図 寸 法	※工場塗装 														
材種・仕上	スチール・扉：焼付塗装(枠共)			スチール・扉：焼付塗装(枠共)			スチール・扉：焼付塗装(枠共)			スチール・扉：焼付塗装(枠共)			スチール・扉：焼付塗装(枠共)		
見込額	40			40			40			40			40		
ガラス	F-4			F-4			F-4			F-4			F-4		
錠	-			-			-			レバーハンドル錠			レバーハンドル		
金物	附属金物一式、ハンガー装置、自閉式装置			附属金物一式、ハンガー装置、自閉式装置			附属金物一式、ハンガー装置、自閉式装置			附属金物一式、丁番、ドアチェック			附属金物一式、丁番、ドアチェック		
備考	ガラリ			ガラリ			ガラリ								
符号・数量	PT 11	トイレブース	1	PT 12	トイレブース	1	PT 13	トイレブース	1	PT 14	トイレブース	1	PT 15	トイレブース	1
工事内容	新設			新設			新設			新設			新設		
場所	1階 女子トイレ			1階 男子トイレ			1階 男子トイレ			2階 男子トイレ			2階 男子トイレ		
姿 図 寸 法															
材種・仕上	硬質メラミン(木目調)			硬質メラミン(木目調)			硬質メラミン(木目調)			硬質メラミン(木目調)			硬質メラミン(木目調)		
見込額	40			40			40			40			40		
ガラス	-			-			-			-			-		
錠	表示器付ラッチ			表示器付ラッチ			表示器付ラッチ			表示器付ラッチ			表示器付ラッチ		
金物	附属金物一式、丁番、把手、金物			附属金物一式、丁番、把手、金物			附属金物一式、丁番、把手、金物			附属金物一式、丁番、把手、金物			附属金物一式、丁番、把手、金物		
備考	頭：ステンレス			頭：ステンレス			頭：ステンレス			頭：ステンレス			頭：ステンレス		

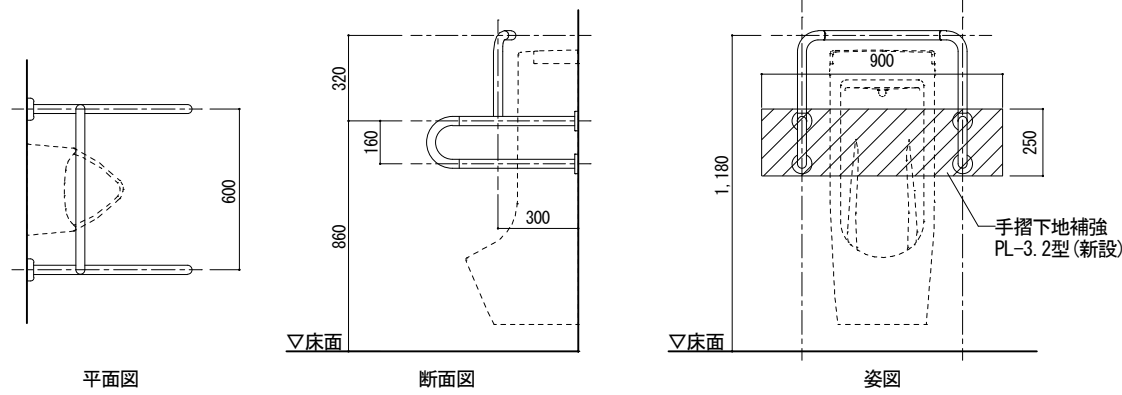
- AD アルミ製ドア
- AW アルミ製マド
- SD 鋼製ドア
- SW 鋼製マド
- WD 木製ドア
- WW 木製マド
- LD 軽量鋼製ドア
- SS 鋼製重量シャッター
- FL フロート板ガラス
- F 型板ガラス
- PW 網入り磨き板ガラス
- FW 網入り型板ガラス
- PT パーティション
- 共通事項
- 1. ガラリの開口率は35%とする。(断面A型)

符号・数量	PT 16	トイレブース	1	PT 17	トイレブース	1	PT 18	アルミパーティション	1	PT 19	トイレブース	1
工事内容	新設		新設		新設		新設		新設		新設	
場所	2階 男子トイレ		2階 女子トイレ		1階 事務室		1階 男子トイレ		1階 男子トイレ		1階 男子トイレ	
姿 図 寸 法												
材種・仕上	硬質メラミン (木目調)		硬質メラミン (木目調)		アルミ		アルミ		硬質メラミン (木目調)		硬質メラミン (木目調)	
見込額縁	40		40		40		40		40		40	
ガラス							パネル、上部オープン					
錠			表示器付ラッチ									
金物	附属金物一式 頭：ステンレス		附属金物一式、丁番、把手、金物 頭：ステンレス		附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式 頭：ステンレス		附属金物一式 頭：ステンレス	
備考												
符号・数量	SD 11	片開きPSドア	1									
工事内容	新設(四方枠共)											
場所	1階 PS (女子便所内)											
姿 図 寸 法												
材種・仕上	鋼製・SOP塗(枠共)											
見込額縁	90											
ガラス												
錠												
金物	附属金物一式、引手、丁番											
備考												
符号・数量											凡例	
工事内容											AD アルミ製ドア	
場所											AW アルミ製マド	
姿 図 寸 法											SD 鋼製ドア	
材種・仕上											SW 鋼製マド	
見込額縁											WD 木製ドア	
ガラス											WW 木製マド	
錠											LD 軽量鋼製ドア	
金物											SS 鋼製重量シャッター	
備考											FL フロート板ガラス	
											F 型板ガラス	
											PW 網入り磨き板ガラス	
											FW 網入り型板ガラス	
											PT パーティション	
											□共通事項	
											1. ガラリの開口率は35%とする。(断面A型)	

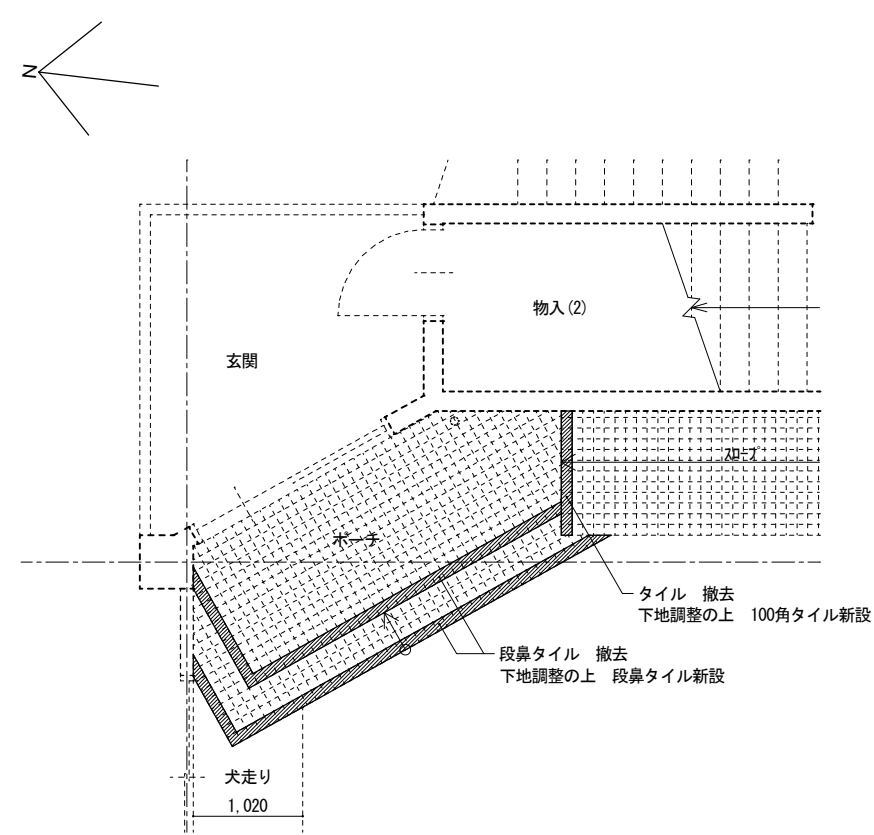
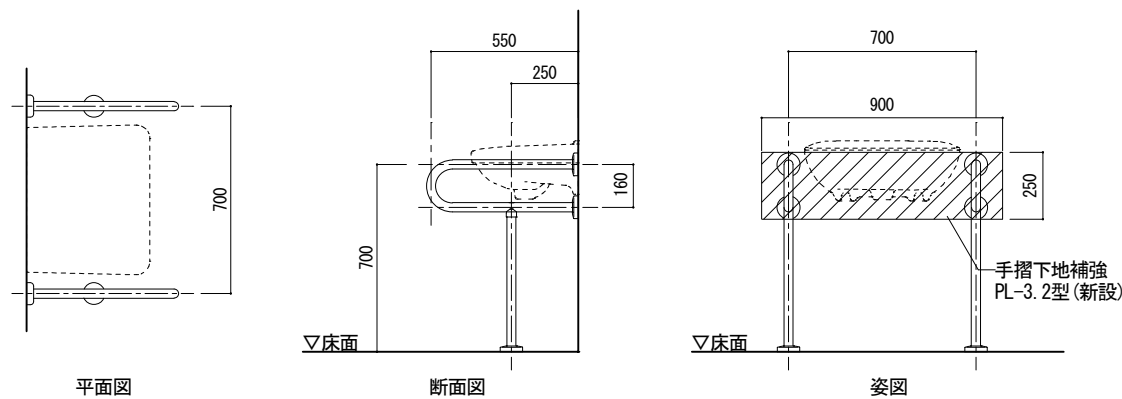
【樹脂被覆SUS製小便器手摺】



【樹脂被覆SUS製小便器手摺】



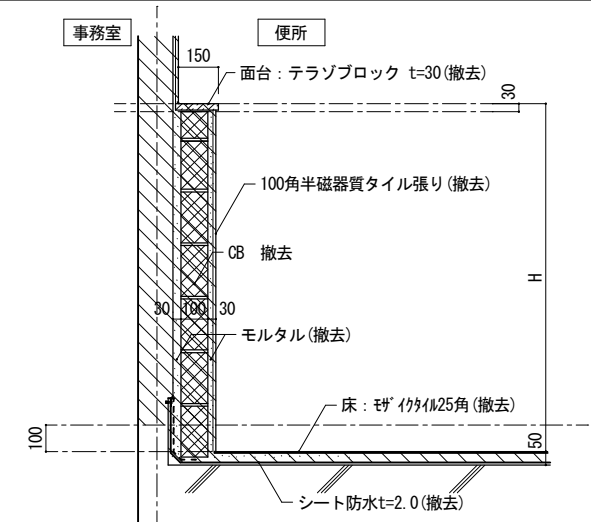
【樹脂被覆SUS製手洗器手摺】



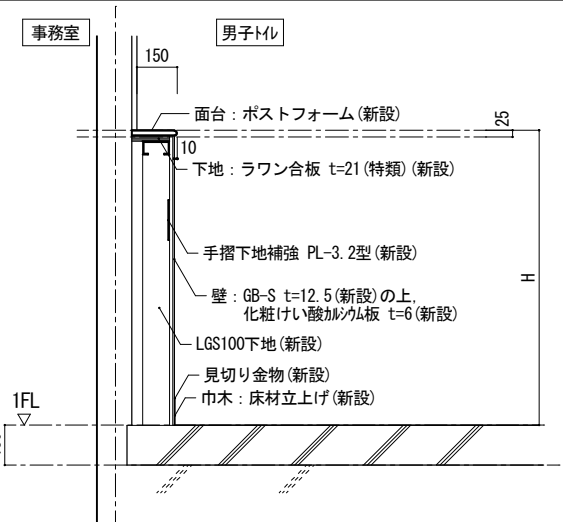
改修前 面台詳細図

改修後 面台詳細図

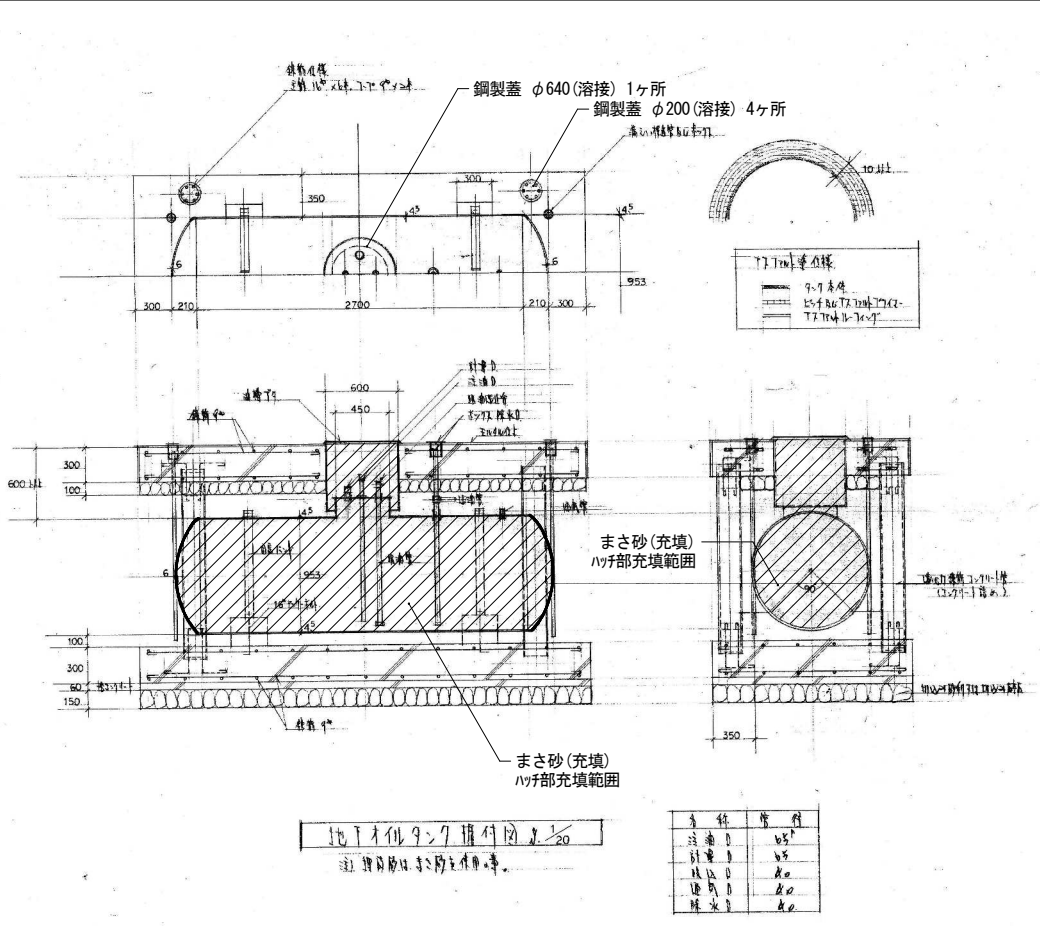
改修後 重油タンク詳細図



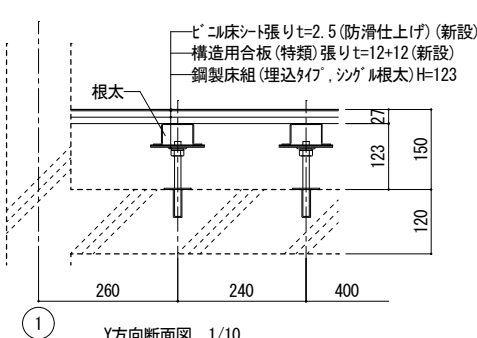
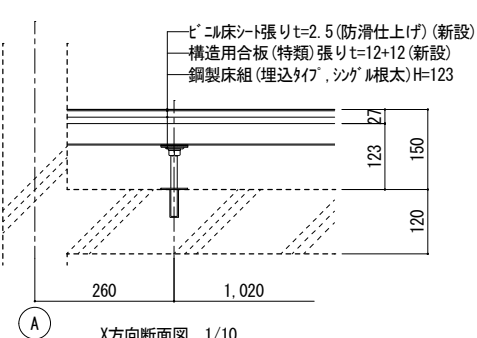
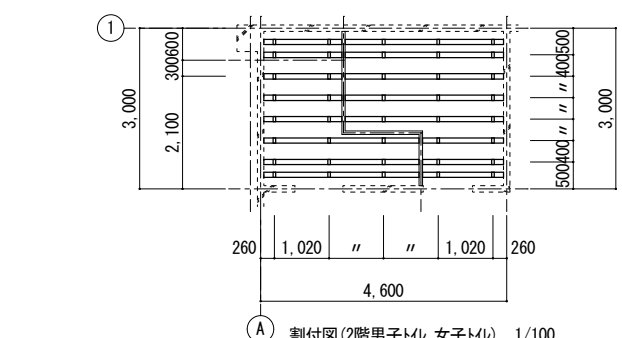
階数	室名	面台高さ(H)
1	便所	1300
2	便所	1300
	シャワー・脱衣室	1300



階数	室名	面台高さ(H)
1	男子トイレ	900, 1300
1	女子トイレ	900
1	多機能トイレ	-
2	男子トイレ	900, 1300
	女子トイレ	900

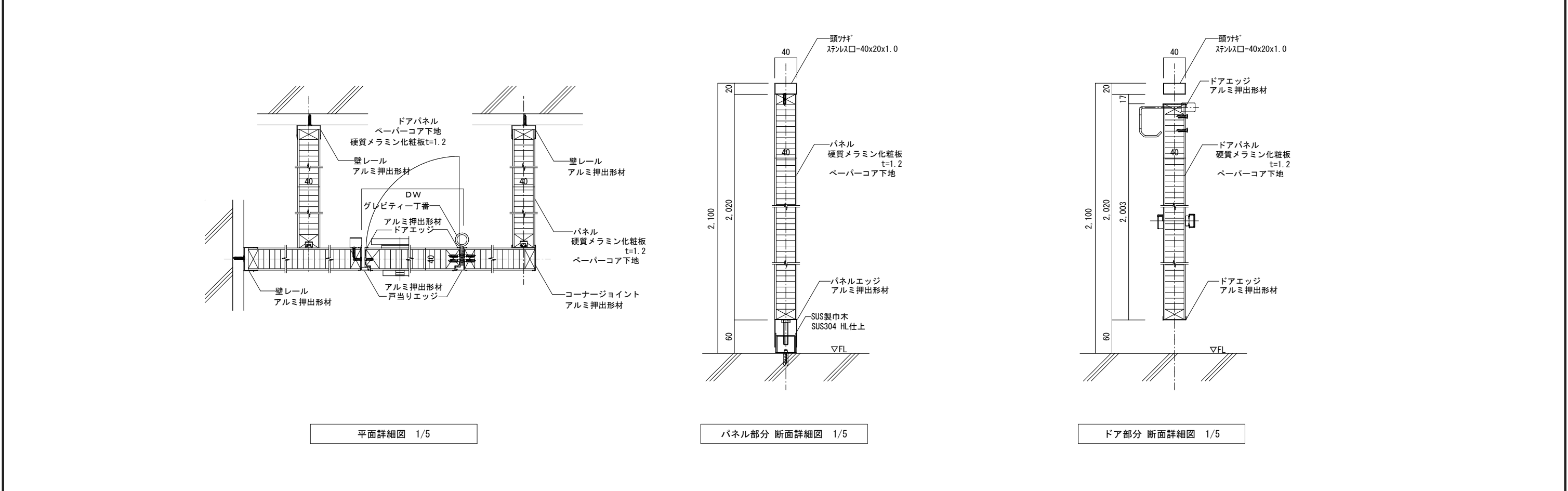


改修後 鋼製床組詳細図

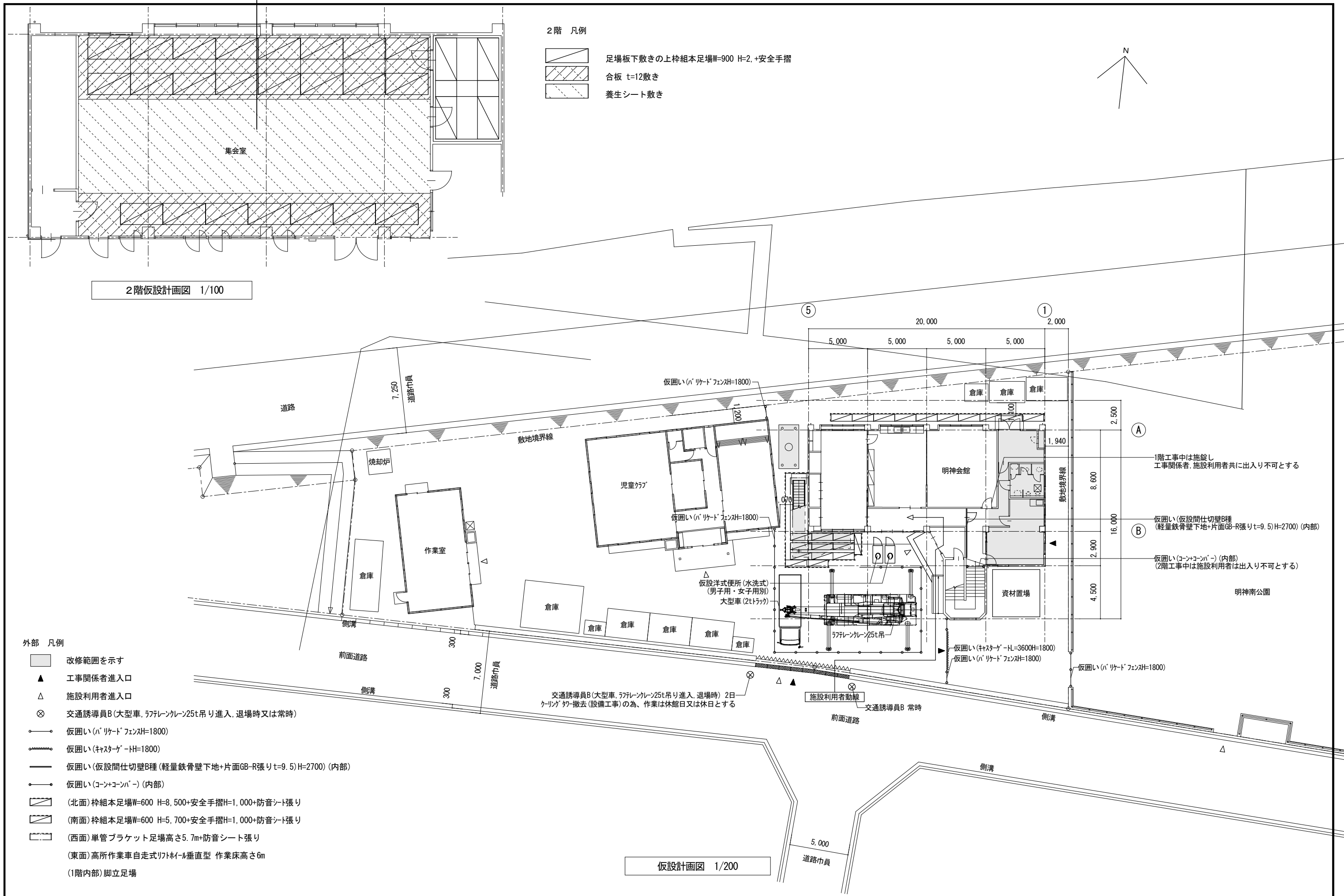


<p>改修前 1階便所 大便器詳細図 1/10</p>	<p>改修後 1階男子便所 大便器詳細図 1/10</p>	<p>改修前 2階便所 大便器詳細図 1/10</p>	<p>改修後 2階女子便所 大便器詳細図 1/10</p>
-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	-------------------------------

改修後 トイレブース詳細図 1/5



事業年度 4年度	設計 令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 S=1/10・1/20・1/50 (A3版-71%縮小) 1/100 明神会館 部分詳細図(2)	図番 A-33
----------	-----------	-----------	---	---	---	----	----	----	-----	---	---	------------



2階仮設計画図 1/100

仮設計画図 1/200

事業年度	4年度	設計		大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺	S=1/100, 1/200	(A3版-71%縮小)	図番
工事完成	5年度	令和5年2月	三原市都市部建築課						建築	明神会館耐震改修工事	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	明神会館 仮設計画図			A-34

特記仕様書(構造関係)

8-0 耐震改修工事 共通事項

1	適用範囲	※改修標準仕様書 8 章 耐震改修工事 改修標準仕様書において 8 章耐震改修工事以外の改修工事で 8 章を引用している部分
2	既存部分の処理等	既存構造体の撤去 [8. 21. 2][8. 22. 2][8. 23. 2][8. 24. 4][8. 25. 2] 撤去範囲 ※構造図による はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置 ※露出部分は、錆止め塗料塗りをを行う 既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲 [8. 21. 3][8. 22. 3][8. 23. 3] 既存柱、床面 ※打継ぎ面の15~30%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。 ・構造図による 既存壁 ※打継ぎ面の10~15%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。 ・構造図による 既存杭の撤去等 [8. 28. 2] ・撤去範囲及び撤去方法 ※構造図による ・杭頭部の処理 ※構造図による ・既存杭の補強 ※構造図による ・既存杭の健全性を確認する試験 ※構造図による

8-1 鉄筋工事

1	鉄筋	鉄筋の種類等 [8. 2. 1] 種類記号 呼び名 備考 ※ SD295 ※ D16以下 ※ SD345 ※ D19以上 ・ ・
2	溶接金網	鉄線の形状等 [8. 2. 2] 種類 種類記号 網目寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 ※ 溶接金網 ・ 鉄筋椅子
3	鉄筋の継手及び定着	鉄筋の継手の方法等 [8. 3. 4][8. 4. 2. 3] 部位 継手方法 呼び名 柱、梁の主筋 ※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 耐力壁の鉄筋 ※ 重ね継手 ・ D10 その他の鉄筋 ・ 重ね継手 ・ 継手位置 ※構造図による ・柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ ※構造図による 耐力壁の重ね継手の長さ [8. 3. 4] ※改修標準仕様書 8. 3. 4(3) (7) による ・改修標準仕様書 8. 3. 2 [8. 3. 4] 鉄筋の定着長さ [8. 3. 4] ※改修標準仕様書 8. 3. 4(5)、(6) による ・構造図による 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 [8. 3. 5] (溶接金網を含む) 最小かぶり厚さ ※改修標準仕様書 表8. 3. 6による ・ ・軽量コンクリートを適用する場合 適用箇所( ) ・最小かぶり厚さに加える厚さ ( )mm ・耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けるおそれのある部分等) 適用箇所( ) ・最小かぶり厚さに加える厚さ ( )mm

8-2 コンクリート工事

1	コンクリートの種類	コンクリートの類別 [8. 1. 3] ※ I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)
2	コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	※普通コンクリート [8. 1. 3. 4][8. 2. 5] 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> ) 適用箇所 ○24 ・改修標準仕様書表8. 1. 2による 2. 3程度 構造図による ○21 ○18cm 構造体強度補正值 ※改修標準仕様書表8. 2. 4による ・構造図による [8. 1. 3. 4][8. 2. 5][8. 9. 2] 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> ) 種類 適用箇所 ・ ※21 ・ ・ ・1種 ・2種 構造図による ・ ・
3	セメント	種類 [8. 2. 5] ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする ・高炉セメントB種 適用箇所( ) ・フライアッシュセメントB種 適用箇所( )
4	骨材	アルカリシリカ反応性による区分 [8. 2. 5] ※A ・B
5	混和材料	・混和剤 混和剤の種類 ※改修標準仕様書 8. 2. 5(4) (a) による ・構造図による [8. 2. 5] ・混和材 混和材の種類 ※改修標準仕様書 8. 2. 5(4) (b) による ・構造図による [8. 2. 5]
6	構造体用モルタル	圧縮強度( ) フロー値( ) [8. 2. 6]
7	暑中コンクリート	構造体強度補正值 ※9N/mm <sup>2</sup> ・構造図による [8. 10. 2]
8	マスコンクリート	適用箇所 [8. 13. 1] ※構造図による セメントの種類 [8. 13. 2] ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント ・ ( ) 混和材料 [8. 13. 2] ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6. 13. 2(2) (7) による ・構造図による [8. 13. 2] ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書6. 13. 2(2) (4) による ・構造図による [8. 13. 2] スランプ [8. 13. 2] ※15cm ・ ( ) cm 構造体強度補正值 ※標準仕様書表6. 13. 11による ・構造図による [8. 13. 2]

9	無筋コンクリート	コンクリートの種類 [8. 11. 1] ※普通コンクリート ・ ( ) 設計基準強度 [8. 11. 1] ※18N/mm <sup>2</sup> ・ ( ) N/mm <sup>2</sup> スランプ ※15cm又は18cm ・ ( ) cm セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※構造図による
10	流動化コンクリート	適用箇所 [8. 15. 1] ※構造図による
11	構造化コンクリートの仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの仕上り [8. 1. 4] ※意匠図による コンクリートの仕上りの平たんさ [8. 1. 4] ※意匠図による
12	打増し厚さ(打放し仕上げ部)	・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) [8. 7. 8] ・20mm ・ ( ) mm ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・ ( ) mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm ・床型枠用鋼製デッキプレート梁側面部の打増し処理 プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う ・10mm ・20mm ・ ( ) mm
13	型枠	せき板の材料及び厚さ [8. 2. 7] ※合板 厚さ ※12mm ・ ( ) mm ・メッシュ型枠 (使用部位 ※構造図による) ・床型枠用鋼製デッキプレート (施工範囲 ※構造図による) ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 [8. 8. 2] ※構造図による ・MCR工法用シート [8. 8. 2] 適用箇所 ※構造図による 打増し厚さ ○20mm ・ ( ) mm 打増し範囲 ※意匠図による
14	型枠の加工及び組立	シアコネクタをセパレーターとして使用 [8. 7. 8] 使用箇所 ※構造図による
15	コンクリートの打込み工法等	コンクリートの打設工法の種類 [8. 21. 8][8. 23. 5] 補強工法 打設工法 部位 ・現場打ちコンクリート →壁の増設工事 ○流込み工法 8. 21. 8(1)(7)、(2) ・全ての増設壁 ・構造図による ・圧入工法 8. 21. 8(1)(4)、(3) ・全ての増設壁 ・構造図による ・ ・ ・柱補強工事(溶接) ・流込み工法 8. 21. 8(1)(7)、(2) ・全ての柱補強部分 ・構造図による 金網巻き及び溶接 ・圧入工法 8. 21. 8(1)(4)、(3) ・全ての柱補強部分 ・構造図による ・閉鎖フープ巻き 工法) ・ ・ ・流込み工法 8. 21. 8(1)(7)、(2) ・ ・圧入工法 8. 21. 8(1)(4)、(3) ・ ・ ・
		鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 [8. 23. 6] 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ※構造図による 柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・発泡プラスチック保温材等を埋込む ・構造図による 既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ※構造図による 補強後の仕上げ [8. 23. 7] ※構造図による

8-3 鉄骨工事

1	鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 [8. 1. 5] ※建築基準法 第68条の2に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している 鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ( ) グレード以上 ・監督職員の承諾する工場
2	鉄骨製作工場における施工管理技術者	・適用する [8. 1. 6] ・適用しない
3	鋼材	種類等 [8. 2. 8] 種類の記号 適用箇所(主要な部分) 規格 SS400 方杖・鋼板 ※JIS規格による ・ ※JIS規格による ・ ※JIS規格による ・ ※JIS規格による ・ ※JIS規格による ・ ※JIS規格による ・
4	高力ボルト	高力ボルトの種類 [8. 2. 9] ※トルシヤ形高力ボルト 2種 (S10T) ○JIS形高力ボルト 2種 (F10T) ・ ( ) ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8. 13. 2] ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による 摩擦面の処理方法 [8. 14. 2] ※自然発錆 (風皮等を除去した後) に自然放置して表面に赤さびが発生した状態) ・プラスト処理 (表面粗度50µmRz以上) ・すべり試験の種類 ※すべり係数試験 ・すべり耐力試験 試験方法等 ※構造図による
5	溶融亜鉛めっき高力ボルト	セットの種類 [8. 13. 2] ※1種 (F8T) 相当 ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による 摩擦面の処理方法等 [8. 20. 5] ※プラスト処理 (表面粗度50µmRz以上) 又はりん酸塩処理 ・構造図による
6	普通ボルト	ボルト及びナットの材料 [7. 2. 3] ※標準仕様書 表7. 2. 3 (JIS附属書) 又は次による ボルトの種類は、JIS B 1182とする。ボルトの種類を呼び名六角ボルト又はねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4. 6又は4. 8とする。なお、呼び名六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の2倍以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナットとし、材料は鋼とする。
		産 金 [7. 2. 3] ※JIS B 1256による ・構造図による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8. 13. 2] ※構造関係共通事項 (鉄骨標準図) 1-1 繰端距離及びボルト間隔 ・構造図による 母屋又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径 [7. 3. 8] ※ねじの呼び径+1. 0mm ・構造図による
7	アンカーボルト	・構造用アンカーボルト [7. 2. 4)(7. 3. 2) セットの種類 (JIS B1220) ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ( ) ・建方用アンカーボルト 種類 ・ SS400 ・ ( ) アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7. 2. 3による ・構造図による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [7. 3. 2] ※意匠図による
8	溶接材料	溶接材料 [8. 2. 10] ・改修標準仕様書 8. 2. 10(1) (2) による ・構造図による

8-3 鉄骨工事	1	スタッド	[8.2.11]	種類等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22 JIS B1198 (頭付きスタッド)	8	耐火被覆	種類、材料、工法等 [8.18.2~8] 種 類 材料・工法 性能(耐火時間) 適用箇所(部位・部分) ・耐火材吹付け ・耐火材巻き付け ・耐火材張り ・耐火材巻付け ・ラス張りモルタル塗り ・耐火塗料	8-5 グラウト工事	①	柱底均しモルタル及びグラウト材 [8.2.12] [8.2.11] 無収縮グラウト材の材質等 混和材 砂 セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等)によって膨張する性質を利用するものとする。 セメント JIS R 5210(ポルトランドセメント)に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。 無収縮グラウト材の品質及び試験方法 コンシステンシー Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 : 8±2秒 プリージング 練り混ぜ2時間後のプリージング率 : 2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 : 1時間以上 終結時間 : 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0 N/mm <sup>2</sup> 以上 材齢 28日 40.0 N/mm <sup>2</sup> 以上 塩化物量 0.30kg/m <sup>3</sup> 以下 試験方法 1) NEXCO試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。	8-8 土工事及び地業工事	1	埋戻し及び盛土 [8.28.3] ※改修標準仕様書 8.28.3(2)(イ) (b)表8.28.11による ・A種 適用箇所( ) ・B種 適用箇所( ) ・C種 適用箇所( ) 土質( ) 受渡場所( ) ・D種 適用箇所( ) ・材料( ) 工法( )
	2	製作精度	[8.13.3]	鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ・H12建造第1464号第二号イ(2)による ・構造図による アンダーカットの寸法 ・H12建造第1464号第二号イ(3)による ・構造図による 食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・構造図による	9	アンカーボルト等の設置等 [7.10.3] 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ※構造図による 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ※構造図による 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 ※構造図による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ・A種 ・B種 柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別 厚さ ( ) 種別 ※A種 ・B種		2	山留めの撤去 [8.28.3] 鋼矢板等の抜き跡の処理 ※直ちに砂で充填する ・意匠図による 山留めの存置 ・行う 存置範囲 ※現場説明書の施工条件明示による				
	3	溶接技能者の技量付加試験	[8.15.3]	試験の要領 ※構造図による	10	鉄骨ブレース設置後の仕上げ [8.22.9]		3	杭地業 [8.28.4] 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端位置含む) ※構造図による 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 [8.2.14][8.28.4] ※構造図による ・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 [8.28.4] ※構造図による ・杭の継手の箇所数、材料、工法等 [8.2.14] ※構造図による ・杭の溶接継手 技能資格者の技量 ※構造図による 溶接部の確認 ※構造図による ・杭頭を処理する [8.28.4] 処理方法(切断ともなう補強方法含む) ※構造図による ・杭頭の中詰め材料 ※構造図による ・基礎のコンクリートと同調合のもの ※構造図による 杭の精度 水平方法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ※構造図による 杭の傾斜 ・1/100以内 ※構造図による 記録する施工状況等 ※構造図による				
	④	溶接接合	[8.15.4]	開先の形状 ※構造関係共通事項(鉄骨標準図) 1-2 ・エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ※構造図による 切断する範囲 ・構造図による ・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する 切断面の仕上げ ※改修標準仕様書8.15.7(1)(a)(b)②による ・構造図による	①	あと施工アンカー [8.2.4]	材料等 ①接着系アンカー アンカーの種類 ※カプセル方式回転・打撃式 ( ) 接着剤の品質 ②有機系 ・無機系 アンカー筋の径及び埋込み長さ ※構造図による アンカー筋の種類 ( ) アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ※意匠図による ・性能確認試験 試験方法及び試験数 ※構造図による	8-6 連続繊維補強工事	1	連続繊維シート [8.2.13] 連続繊維の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・ ( ) 引張強度(含浸硬化後) ・ ( ) N/mm <sup>2</sup> ヤング係数(含浸硬化後) ・ ( ) N/mm <sup>2</sup> ・下地処理 ・ひび割れ部改修 範囲 ※構造図による 種類 ※構造図による ・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ [8.24.6] ※構造図による 連続繊維補強材の強度試験 ・引張強度試験 ※JIS A 1191(コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法)による ・試験数量 ※構造図による ・付着強度試験 ※JIS A 6909(建築用仕上塗材)による ・構造図による 試験数量 ※構造図による	4	砂利地業 [8.2.15] 材料 ・再生クラッシャー ・切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※60mm ( ) mm [8.28.4]	
	⑤	入熱、バス開温度の溶接条件	[8.15.7]	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※構造関係共通事項(鉄骨標準図) 1-4 ・構造図による 適用箇所 ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 ・構造図による	②	穿孔 [8.12.4]	埋込み配管等の探索方法 ※鉄筋探知器(金属探知器)により探索し、鉄筋、配管等の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる ・ ( )		2	仕上げ [8.24.7]	補強工事後の仕上げ ※構造図による	5	捨コンクリート地業 [8.28.4] 捨コンクリートの厚さ ※50mm ( ) mm コンクリートの種類 ※普通コンクリート ( ) 設計基準強度 ※18N/mm <sup>2</sup> ( ) N/mm <sup>2</sup> スラブ ※15cm又は18cm ( ) cm [8.11.1]
	⑥	溶接部の試験	[8.15.12]	平12建造第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 6 10.4 [受入検査]e:溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶け込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の抜き取り箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 ※全数 ・工場現場溶接の場合 ※全数	③	施工確認試験 [8.12.7]	試験方法 ※引張試験機による引張試験 確認強度 ※構造図による	8-7 耐震スリット新設工事	1	スリットの方式、幅及び深さ [8.25.2]	方式 ・完全 ・部分 幅及び深さ ※構造図による 設置箇所 ※構造図による		
	⑦	錆止め塗装	[8.17.2]	塗料の範囲 ・耐火被覆材の接着する面の塗装 範囲 ※構造図による ・耐火被覆材の接着する面以外の塗装 範囲 ※標準仕様書 8.17.2 (7)~(9)以外 ・構造図による 塗料種別 [8.17.4] 下記以外の鉄鋼面は、18章「塗装工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別 ※A種 ・B種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別 ( )	④	施工管理技術者 [8.12.1]	(社)日本建築あと施工アンカー協会が定める「あと施工アンカー技術管理士」の資格以上の能力を有する者とする。		2	スリットの施工前の埋め込み配管等の探査 [8.12.4]	既存撤去部の埋め込み配管等の探索方法 ※鉄筋探知器(金属探知器)により探索し、鉄筋、配管等の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる		



既存建築物耐震改修工事仕様書 (1)

§ 1 一般事項

Table with 2 columns: Section (1-1 to 1-11) and Content. Covers general items like applicable scope, dimensions, materials, construction sequence, fire protection, repair, seismic reinforcement, etc.

§ 2 使用材料

Table with 2 columns: Item (2-1 to 2-5) and Specification. Lists materials such as concrete, reinforcement, metal mesh, etc., with design strengths and standards.

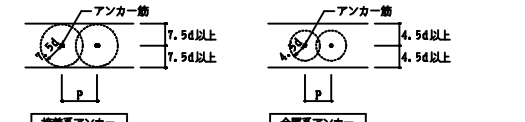
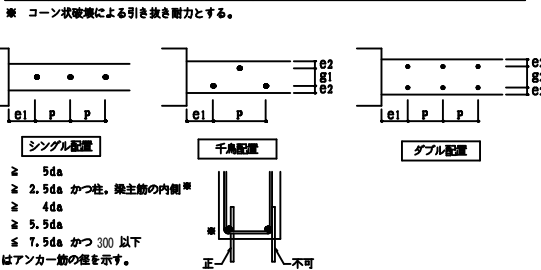


Table of anchor bolt specifications. Columns: Anchor diameter, Length (La), Length (L), Pitch, Design strength (Ft), etc.

Table of metal mesh specifications. Columns: Mesh size (La), Length (L), Pitch, Design strength (Ft).



アンカー固着力試験 (Anchor pull-out test) description and procedure. Also includes a table of pull-out forces for different anchor diameters.

Table of anchor bolt specifications. Columns: Anchor diameter, Material, Existing concrete strength (σB), Design pull strength (Ta), Verified pull strength (Tax2/3).

Table of material specifications. Columns: Material name, Material name, Remarks. Lists various types of reinforcement and mesh.

炭素繊維補強の工法 (Carbon fiber reinforcement method) description. Includes design strength, weight, and material type.

§ 3 耐震壁補強要領

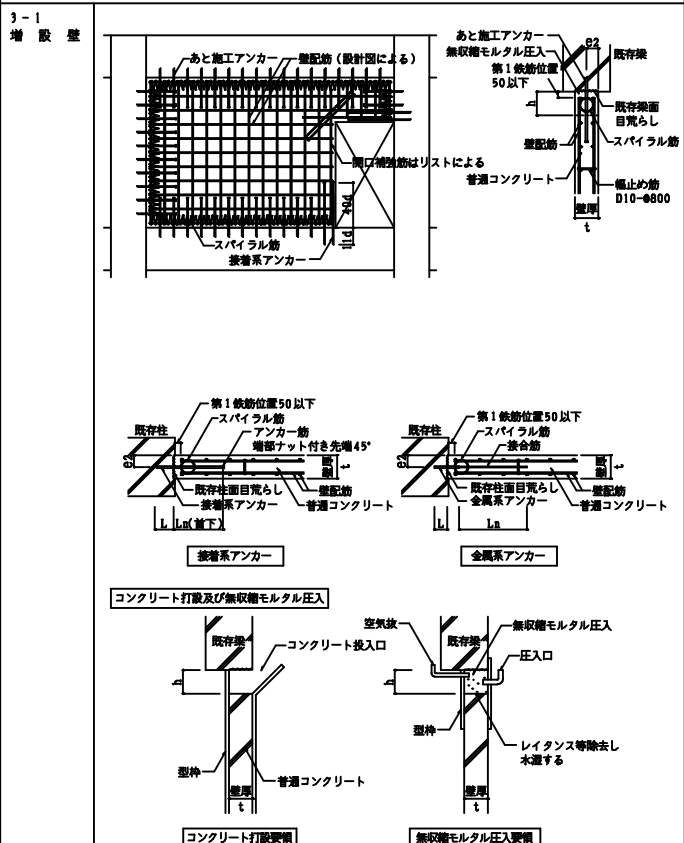
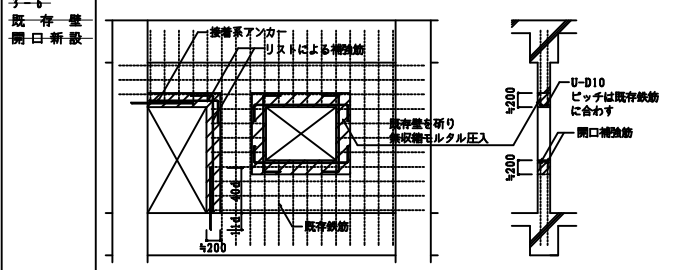
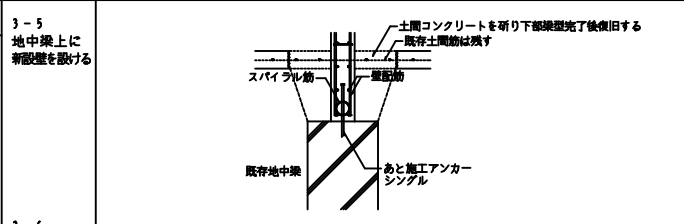
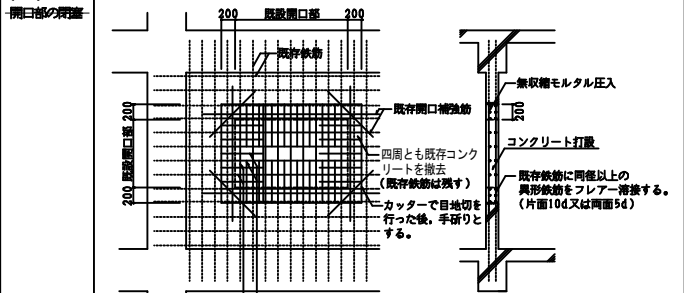
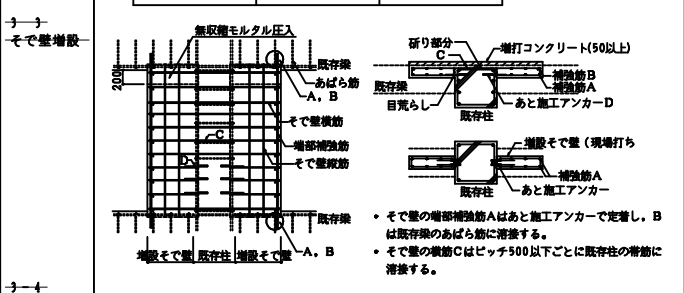


Table of concrete repair specifications. Columns: Thickness (h), Distance from surface (t). Rows for different repair methods.

鉄筋コンクリート壁を増打する (Reinforced concrete wall repair) description and details of the repair process.

Table of repair specifications. Columns: Material, Specifications. Lists repair materials like concrete and metal mesh.



3-5 地中梁上に新設壁を設ける (New wall on ground beam) description. Includes details on reinforcement, joints, and construction methods.

Table of reinforcement specifications. Columns: Item, Repair location, Reinforcement details. Lists various reinforcement methods for different parts of the building.

ディスクシアキー工法特記仕様書 1

(増設耐震壁補強工法)

1. 一般事項

- (1) 適用図書
・本工法は(一社)建築研究振興協会 技術(性能)評価書 「ディスクシアキーを用いた補強接合部の設計施工指針(BRP-R1703021-OST)(2018年2月28日)」(以下、ディスクシアキー設計施工マニュアル)による。
(2) 準拠図書
・本工法は、次の優先順位によること。
1) 本特記仕様書
2) 設計図書
3) (一財)日本建築防災協会：2009年改訂版 既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説
4) (一財)日本建築防災協会：2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説
5) (一財)建築保全センター：建築改修工事監理指針(平成28年版)
6) (一財)建築保全センター：建築工事監理指針(平成28年版)
(3) 施工計画
・本工事の施工計画書を作成し、監理者に提出すること。

2. 使用材料

- (1) 増設壁用ディスクシアキー(拡張タイプ)
a. 増設壁用ディスクシアキータイプ
Table with columns: タイプ, ディスク直径, アンカーボルトねじの呼び径, 高ナットねじの呼び径, 接続ボルトねじの呼び径, 形状
b. 接着剤
有機系接着剤 ・ARケミカルセッターEX-350 ・ARケミカルセッターEA-350・EA-500・EA500W
無機系接着剤 ・セメフォースミルク500
c. ポリマーセメント
リフレフリート(プライマー)
リフレモルセットSP(ポリマーセメントモルタル)
d. 圧入グラウト材
・ブレミックスタイブの早強型特殊セメント系無収縮グラウト材または同等品以上とする。設計基準強度：30N/mm²

- (2) 引張力負担用ディスクシアキー(ボルトタイプ)
a. 引張力負担用ディスクシアキータイプ
Table with columns: タイプ, ディスク直径, アンカーボルトねじの呼び径, 高ナットねじの呼び径, 接続ボルトねじの呼び径, 形状
b. 接着剤
有機系接着剤 ・ARケミカルセッターEX-350 ・ARケミカルセッターEA-500・EA500W
無機系接着剤 ・セメフォースミルク500

- (3) 引張力負担用アンカー(あと施工アンカー)
a. 工法
注入型(カートリッジ式) カプセル型
b. 接着剤
1) 注入型
有機系接着剤 ・ARケミカルセッターEX-350 ・ARケミカルセッターEA-500・EA500W
無機系接着剤 ・セメフォースミルク500
2) カプセル型(JCAA認証製品)
エポキシ系
エポキシアクリレート系

Table with columns: 種類, 径, 使用箇所, 先端形状. Includes items like SD295A, SD295B, SD345, SD390.

Table for 異形鉄筋 with columns: 種類, 径, 使用箇所, 継手工法. Includes items like SD295A, SD295B, SD345, SD390.

3. 保管等

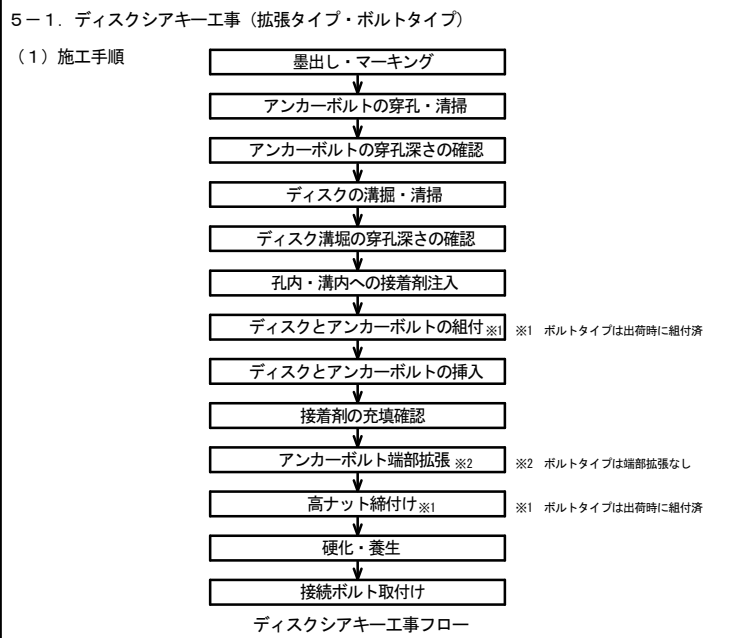
- (1) ディスク、アンカーボルト、高ナット、接続ボルト、引張力負担用アンカーの保管場所は、湿気の少ないところとし、直射日光の当たる場所に長時間保管しないこと。
(2) 接着剤の保管場所は、高温・多湿の場所を避け、直射日光の当たらない冷暗所に保管する。
(3) 接着剤の有効期限は、製造メーカーが定める有効期限内とする。なお、使用中のカートリッジを保管する場合は、専用キャップをして保管し、ミキシングノズルを必ず取り外すこと。
(4) リフレフリートは雨の当たらない水、湿気の少ない場所で保管する。保管時に3℃以下、40℃以上にならないように保管する。また、開封した材料は早めに使い切る。
(5) リフレモルセットSPは雨の当たらない水、湿気の少ない場所で保管する。夏場は直射日光を避ける。また、開封した材料は早めに使い切る。

4. 施工事前調査及び準備工事

- (1) 施工事前調査
ディスクシアキー工事に先立ち、施工者はディスクシアキーの施工場所における既存躯体の調査を行う。以下に主な調査項目を示す。
①モルタル等仕上げ材の有無の調査を行う。
②躯体開口部寸法の計測を行う。
③鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨かぶり深さの計測を行う。
④主筋、せん断補強筋の位置及びかぶり深さの計測を行う。
⑤豆板等躯体不具合、埋設配管・埋設物等の有無の調査を行う。
(2) 準備工事の計画
施工者は事前調査の結果により、必要に応じて以下に示す準備工事の計画を行い、監理者の承認を得る。
また、調査の結果によりディスクシアキー工事ができないと判断した場合、監理者と協議の上他の工法を検討する。
①モルタル等仕上げ材がある場合、撤去の計画を行う。
②間接接合部部材寸法の計画を行う。
③鉄骨までのかぶり深さによるアンカーボルトの有効埋め込み深さの計画を行う。
④主筋及びせん断補強筋の配筋位置、かぶり深さの調査結果及び埋設物の調査結果により、ディスクシアキーの配置位置の計画を行う。
⑤ディスクシアキー工事を行う面の補修範囲、補修方法及び使用する補修材料の計画を行う。
⑥ディスクシアキー工事を行う場所の環境温度により、適切な接着剤を選定する。

- (3) 準備工事
施工者は監理者の承認を受けた準備工事の計画に従い、ディスクシアキー工事の準備工事を行う。

5. ディスクシアキー工事



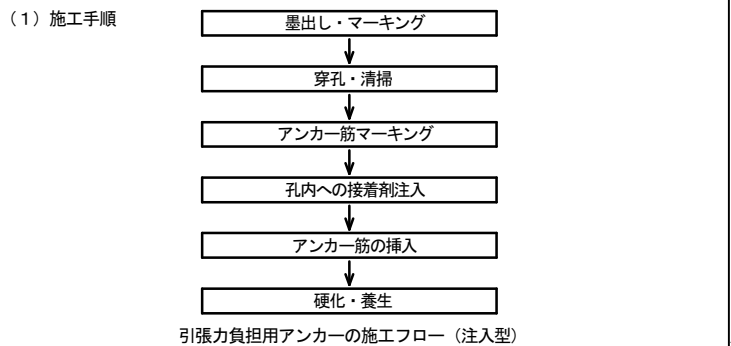
- (2) 施工資格者
①ディスクシアキー工事の施工管理者は、ディスクシアキーの技術性能取得会社が実施する「施工管理者講習」を修了し、修了証を有した者とする。
②ディスクシアキー工事の施工担当者は、ディスクシアキーの技術性能取得会社が実施する「施工担当者講習」を修了し、修了証を有した者とする。
(3) アンカーボルトの穿孔作業及び清掃作業等
・穿孔工具は、湿式コアドリルを用い、穿孔深さおよび穿孔ドリルのビット径は以下による。
Table with columns: ディスクシアキータイプ, アンカーボルト径, 穿孔深さ, ドリルビット径.

- ・穿孔深さが所定の深さ以上であることを全数確認する。穿孔深さが所定の深さ未満であった場合は、同じ位置に穿孔し、所定の深さ以上を確保する。
・アンカーボルト穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。
・アンカーボルトの穿孔中に、埋設鉄筋や埋設配管等に干渉し、所定の穿孔深さが確保できない場合は穿孔を中止し、監理者と協議のうえ穿孔位置を変更すること。
(4) ディスクの溝掘り作業及び清掃作業等
・ディスクの溝掘り作業は、専用工具(溝掘ドリル)を用いて行い、溝の深さは2.2mm以上とする。
・ディスクの溝内の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて清掃を行う。
・ディスクの溝掘中に、埋設鉄筋や埋設配管等に干渉し、既定の穿孔深さが確保できない場合は穿孔を中止し、監理者と協議のうえ穿孔位置を変更すること。
(5) アンカーボルトの孔内及びディスクの溝内への接着剤注入作業等
・使用する接着剤の種類は、施工する環境温度により決定する。なお、施工する環境温度が-15度を下回る場合、もしくは40度を上回る場合は、接着剤注入作業を行わない。
・ディスク挿入後充填した接着剤がディスク部の周辺部からあふれたことを確認する。あふれた接着剤は除去する。
(6) 接着剤の硬化養生時間は、2.4時間以上とすること。

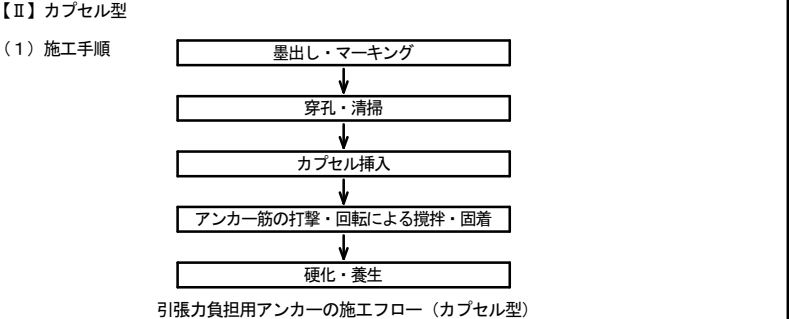
- (7) ディスクシアキー施工管理者は、アンカーボルト穿孔深さ及びディスク溝掘深さの計測記録を施工者に提出し、施工者は記録内容を確認した上で監理者に提出する。
(8) (1)~(7)に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

5-2. 引張力負担用アンカー工事

【I】注入型(カートリッジ式)



- (2) 施工資格者
・引張力負担用アンカーの施工は、(社)日本建築あと施工協会(以下「JCAA」)が規定した有資格者が行う。
(3) 品質
・引張力負担用アンカーの品質基準は、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」が規定する品質基準とする。
(4) 穿孔作業及び清掃作業等
・穿孔工具は、湿式コアドリルを用いる。
・穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。
(5) アンカー筋の挿入等
・アンカー筋の先端形状は、寸切りとする。
(6) 接着剤の硬化養生時間は、2.4時間以上とすること。
(7) (1)~(6)に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

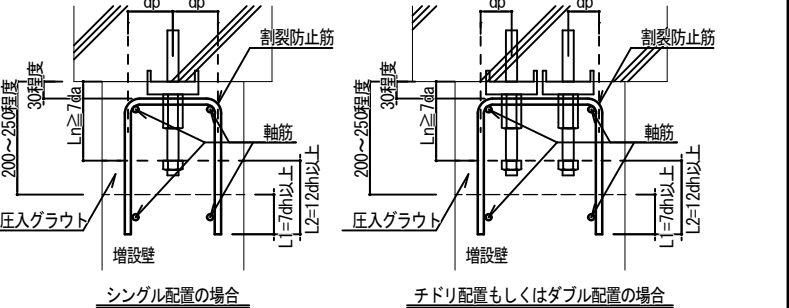


- (2) 施工資格者
・引張力負担用アンカーの施工は、(社)日本建築あと施工協会(以下「JCAA」)が規定した有資格者が行う。
(3) 品質
・引張力負担用アンカーの品質基準は、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」が規定する品質基準もしくはJCAAが規定する品質基準とする。
(4) 穿孔作業及び清掃作業等
・穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。
・穿孔工具 □湿式コアドリル □ハンマードリル
(5) アンカー筋の先端の形状は、片側斜め45°カット、V型カット、もしくはW型カットとする。
(6) 接着剤の硬化養生時間は、2.4時間以上とすること。
(7) (1)~(6)に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

5-3. 増設壁

下記に示す項目は、ディスクシアキーを用いた補強接合部の施工にあたり、特に留意すること。

- (1) 鉄筋工事
・鉄筋は、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に規定する規格品とする。
・割れ防止筋の形状は、コの字型とする。
・割れ防止筋と既存躯体間の距離は、30mm程度とする。
・圧入グラウトを用いた場合の割れ防止筋の増設壁内への定着長さL1は、7dh以上とする。
・ディスクシアキーのナット下から割れ防止筋先端部までの定着長さL2は、1.2dh以上とする。
・軸筋は、4本以上配置する。なお、圧入グラウトを用いた場合の軸筋の配置は、2本以上を圧入グラウト内に配置し、2本以上を補強壁内に配置する。
・増設壁の最外部の鉄筋は、既存躯体から壁筋のピッチの1/2以下かつ100mm以下に配置する。
・その他記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。



割れ防止筋の配筋方法
(dp: ディスクシアキーの中心から割れ防止筋の芯までの距離
割れ防止筋 D10 dp<=Ln-70
D13 dp<=Ln-100
dh: 割れ防止筋の径)

- (2) コンクリート工事
・増設壁と圧入グラウトの打ち継ぎ面は、レイトンス、脆弱なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打設する無収縮グラウトと一体になるように処置する。
・その他記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。
(3) その他
・増設壁が増し打ち壁の場合は、特記なき限り以下とする。
①既存壁に目荒しを行う必要はない。
②既存壁にシアコネクターを@500程度に配置する。



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

## § 1 一般共通事項

### 1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A D16以下	SD295B D19~D38	SD390 D19~D38	
180°					柱・梁の主筋及び杭基礎のベース筋並びにD16以上の鉄筋
135°					あばら筋、帯筋、スパイラル筋、D13以下の鉄筋
90°		3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°					幅止め筋
90°以下		4d以上(5d以上)	6d以上(6d以上)	8d以上(8d以上)	その他の鉄筋

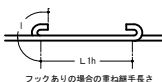
(注) 1. Dは、曲げ内法直径  
2. dは、呼び名に用いた数値  
3. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端部の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。  
4. 5d, 3d, 6dは、( ) 内を適用する。

### 1. 2 鉄筋の継手

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手(「鉄筋の継手の構造方法を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1463号)に適合する機械式継手)とし、適用は特記による。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)7.6.5[部材の組立](d)及び7.6.7[溶接施工]格者]に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
- 重ね継手は、次による。  
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。  
1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、突起による。特記がなければ、4.0d(軽量コンクリートの場合は5.0d)と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。  
2) 1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L(フックなし)		Lh(フックあり)
		L1	L2	Lh
SD295A SD295B	1.8	4.5d	4.0d	3.5d
	2.1	4.0d	3.5d	3.0d
	2.4, 2.7	3.5d	3.0d	2.5d
	3.0, 3.3, 3.6	3.5d	3.0d	2.5d
SD345	1.8	5.0d	4.5d	3.5d
	2.1	4.5d	4.0d	3.0d
	2.4, 2.7	4.0d	3.5d	3.0d
	3.0, 3.3, 3.6	3.5d	3.0d	2.5d
SD390	2.1	5.0d	4.5d	3.5d
	2.4, 2.7	4.5d	4.0d	3.0d
	3.0, 3.3, 3.6	4.0d	3.5d	3.0d

(注) 1. L1, L2, Lh: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
2. フックありの場合のLhは、下記に示すようにフック部分Iを含まない。  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



### 1. 3 隣り合う継手の位置

- 隣り合う継手の位置は下記表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。  
なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に入れる場合は、特記による。

重ね継手	フックありの場合	
重ね継手	$a \geq 0.5Lh$ (左側) / $a \geq 0.5Lh$ (右側)	
	$a \geq 0.5L1$ (左側) / $a \geq 0.5L1$ (右側)	
圧接継手		
	$a \geq 400mm$	
機械式継手		
	$a$ は、400mm以上、かつ、 $b=40$ mm以上	

### 1. 4 鉄筋の定着

#### 1. 4. 1 鉄筋の定着の長さ

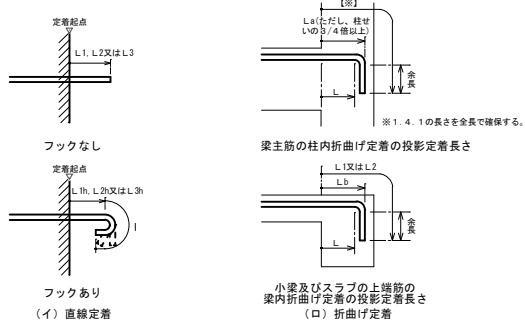
- 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、4.0d(軽量コンクリートの場合は5.0d)と下記表の定着長さのうち大きい値とする。
- (1)以外の鉄筋の定着の長さは、下記表による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし		L3		フックあり		L3h	
		L1	L2	小梁	スラブ	L1h	L2h		小梁
SD295A SD295B	1.8	4.5d	4.0d			3.5d	3.0d		
	2.1	4.0d	3.5d			3.0d	2.5d		
	2.4, 2.7	3.5d	3.0d			2.5d	2.0d		
	3.0, 3.3, 3.6	3.5d	3.0d			2.5d	2.0d		
SD345	1.8	5.0d	4.0d	2.0d	1.0d(かつ150mm以上)	3.5d	3.0d	1.0d	—
	2.1	4.5d	3.5d			3.0d	2.5d		
	2.4, 2.7	4.0d	3.5d			2.5d	2.0d		
	3.0, 3.3, 3.6	3.5d	3.0d			2.5d	2.0d		
SD390	2.1	5.0d	4.0d			3.5d	3.0d		
	2.4, 2.7	4.5d	4.0d			3.5d	3.0d		
	3.0, 3.3, 3.6	4.0d	3.5d			3.0d	2.5d		

(注) 1. L1, L2, Lh: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ  
2. L2, Lh: 引張り鉄筋のおそれない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ  
3. L3: 小梁及びスラブ下部筋の直線定着の長さ。ただし、基礎部分スラブ及びこれを支える小梁を除く。  
4. L3h: 小梁下部筋のフックあり定着の長さ  
5. フックあり定着の場合は、1.4.2に示すようにフック部分Iを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。  
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

#### 1. 4. 2 定着の方法

- 定着の方法は下図による。
- 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、1.4.1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を1.4.1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上)のみを込ませる。

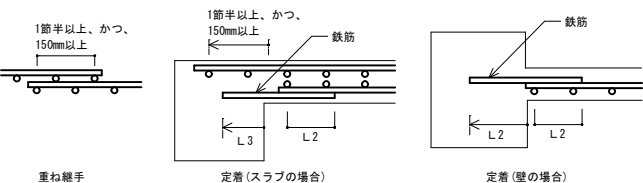


鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295A SD295B	1.8	2.0d	1.5d
	2.1	1.5d	1.5d
	2.4, 2.7	1.5d	1.5d
	3.0, 3.3, 3.6	1.5d	1.5d
SD345	1.8	2.0d	2.0d
	2.1	2.0d	2.0d
	2.4, 2.7	2.0d	1.5d
	3.0, 3.3, 3.6	1.5d	1.5d
SD390	2.1	2.0d	2.0d
	2.4, 2.7	2.0d	2.0d
	3.0, 3.3, 3.6	2.0d	1.5d

(注) 1. L<sub>a</sub>: 梁主筋の柱内折り定着の投影定着長さ(基礎、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)  
2. L<sub>b</sub>: 小梁及びスラブの上縁筋の梁内折り定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

#### 1. 4. 3 溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は下図による。なお、L2及びL3は、1.4.1の(注)による。



### 1. 5 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

#### 1. 5. 1 鉄筋の最小かぶり厚さ

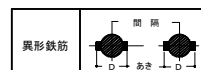
- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。
- 貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。
- 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

構造部分の種類	最小かぶり厚さ		
	仕上げあり	仕上げなし	
スラブ、耐力壁以外の壁	20	30	
	30	30	
柱	屋内	仕上げあり	30
	屋外	仕上げなし	30
		仕上げあり	30
		仕上げなし	40
擁壁、耐圧スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	*60	
煙突等高温を受ける部分		60	

- \*印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
- \*印は、仕上げありとし、モタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性に有効でない仕上げ(仕上材、塗装等)のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び地盤で直接土に接する部分のかぶり厚さには、滑コンクリートの厚さを含まない。
4. 基礎部分のかぶり厚さは、基礎部分とする。
5. 地盤を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

### 1. 5. 2 鉄筋の間隔

- 鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。
  - 粗骨材の最大寸法の1.25倍
  - 2.5mm
  - 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名に用いた数値)の1.5倍
- 鉄筋鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきは上記(1)~(3)のうち最大のもの以上とする。



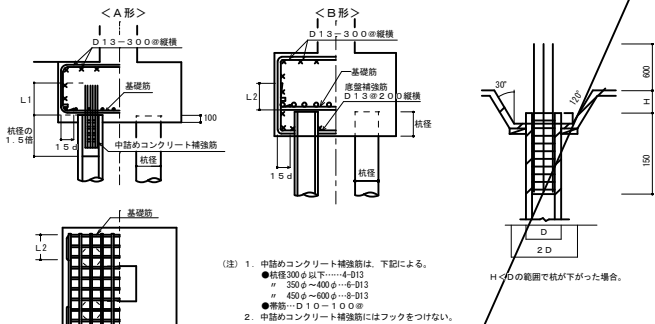
## § 2 基礎及び基礎梁の配筋

### 2. 1 基礎の配筋

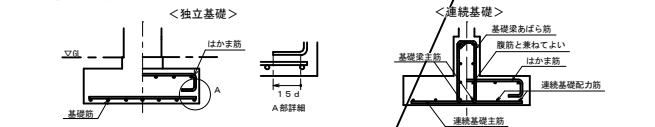
- 一般事項
- 杭基礎のはかま筋は縦筋、横筋ともD13~3.0D@を標準とする。
- 地盤の種類及び厚さは特記する。ただし滑コンクリート厚さ50mm、砂利地厚厚さ60mmを標準とする。

#### 2. 1. 2 基礎の配筋及び杭頭補強の方法

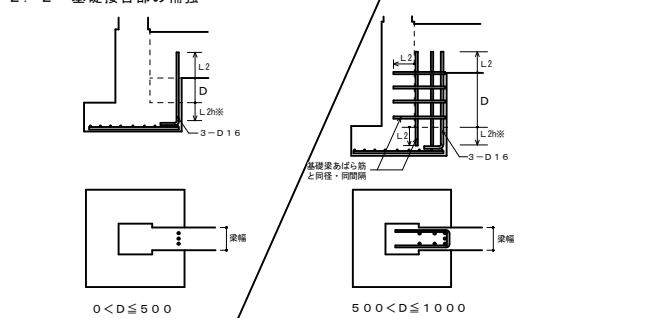
##### (1) 杭基礎の場合



##### (2) 直接基礎の場合

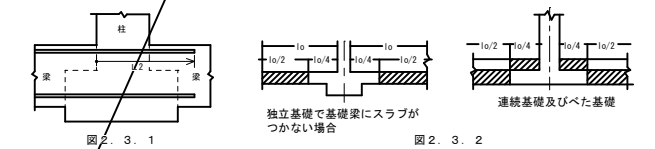


### 2. 2 基礎接合部の補強

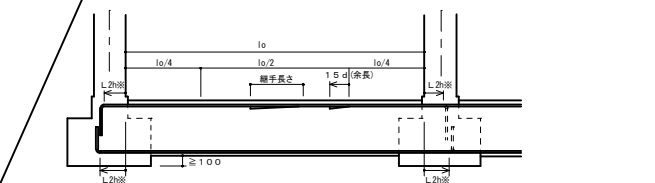


### 2. 3 基礎梁筋の継手、定着及び余長

- 一般事項
- 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図2.2.1による。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、4.1.1(3)による。
- 継手中心位置は図2.3.2の斜線部分とする。

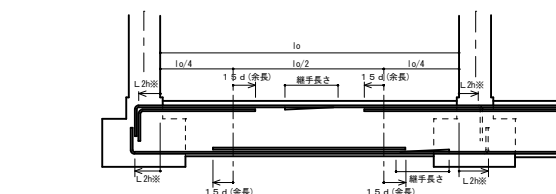


### 2. 3. 2 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



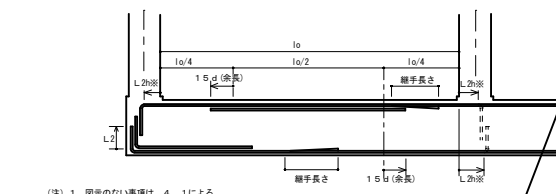
(注) 1. 図示しない事項は、4.1による。  
2. \*印は、印は、継手及び余長位置を示す。  
3. 縦筋は、柱内定着の場合を示す。  
※ L<sub>2</sub>hを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

### 2. 3. 3 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合(耐圧スラブが付く場合は、2.3.4による)



(注) 1. 図示しない事項は、4.1による。  
2. \*印は、印は、継手及び余長位置を示す。  
3. 縦筋は、柱内定着の場合を示す。  
※ L<sub>2</sub>hを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

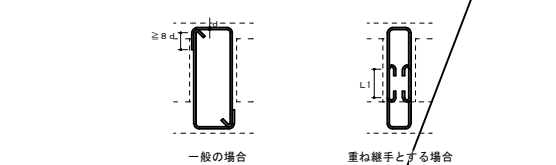
### 2. 3. 4 連続基礎及びべた基礎の場合



(注) 1. 図示しない事項は、4.1による。  
2. \*印は、印は、継手及び余長位置を示す。  
3. 縦筋は、柱内定着の場合を示す。  
※ L<sub>2</sub>hを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

### 2. 4 基礎梁のあばら筋

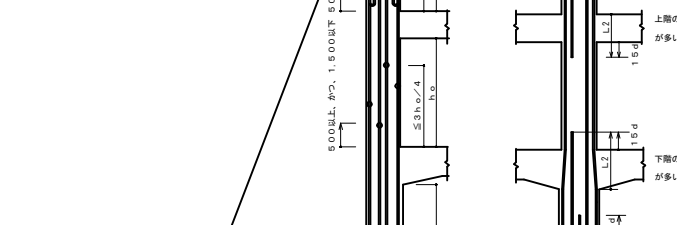
- あばら筋組立の形及びフックの位置は、4.2.2による。
- 梁の上側にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



## § 3 柱

### 3. 1 柱筋の継手及び定着

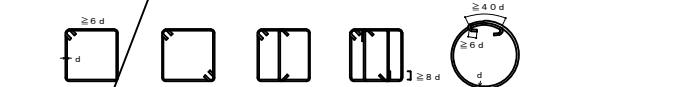
- 一般事項
- 継手中心位置は、梁上端から500mm以上  
1.500mm以下、かつ3h<sub>o</sub>/4(h<sub>o</sub>は柱の内法高さ)以下とする。
- 柱頭定着長さL2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
- 柱頭主筋については、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。



(注) 1. 隣り合う継手の位置は1.3の長による。  
2. 柱の頭端にある主筋で、重ね継手に適合し不上部筋の柱頭にある場合はフックを付ける。

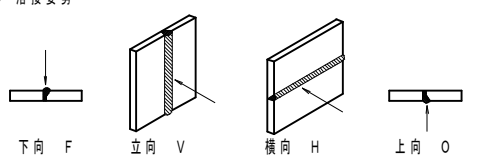
### 3. 2 帯筋

- 帯筋
- 帯筋の種類及び間隔は、特記による。
- 帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 上下の柱断面寸法が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。



# 鉄骨構造標準図(1)

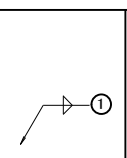
## 1. 一般事項

- (1) 材料及び検査  
 (a) 構造設計仕様による  
 (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする  
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般  
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る  
 (b) 鋼骨部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼骨自動切断機による  
 (c) 高強度鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合  
 (a) 本締めを使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合  
 (a) 溶接工  
 溶接工は施工する溶接に適用するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器  
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
 (ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
 (ハ) サーマリアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
- (c) 溶接方法  
 アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)  
 セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢  

- (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う  
 (イ) 仮付位置  
 仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- (f) 溶接施工  
 (イ) エンドダブ  
 1) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同形状のエンドダブを取り付ける  
 2) エンドダブの材質は、母材と同質とする  
 3) エンドダブの長さは、MC: 35mm以上、NGC, GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする  
 4) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金  
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカーラップ 半径は30~35mmとする
- (ニ) 裏はつり  
 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を痛めない様に、養生を行なう
- (5) 塗装  
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

## 2. 溶接規準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

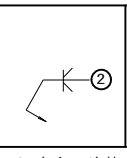
(1) スミ肉溶接



t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

○但し片面溶接の場合はS=tとする  
 ○tはt1, t2の小なる方とする  
 ○余盛は(1+0.1S)mm以下とする  
 ○耐力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

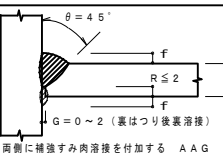


t	t < 4	4 ≤ t ≤ 10	t ≤ t1
t	t > 16		

溶接姿勢 F, V  
 ○両側に補強すみ肉溶接を付加する

(3) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

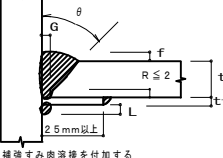
θ = 45° f = t/4



t	6 < t < 19	
溶接姿勢	F, V	

○両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

θ = 60° f = t/4



tmm	β	MC	NGC	GC	β	G	t1	L
6 ≤ t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t < 16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16 ≤ t	35°	9	9	8	35°	9	9	8

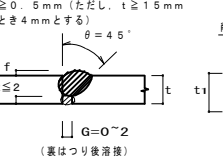
溶接姿勢 F, V  
 ○補強すみ肉溶接を付加する

θ = 45° (55°) f = t/4 T形突合せ継手余盛

のど厚 tmm	余盛の高さmm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
t > 19	4

○AAG(1)内はGCでF, Hの場合  
 ○両側に補強すみ肉溶接を付加する

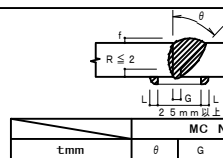
f ≥ 0.5mm (ただし、t ≥ 15mm のとき4mmとする) θ = 45°



t	6 < t < 19	
溶接姿勢	F, V	

○両側に補強すみ肉溶接を付加する

f = t/4

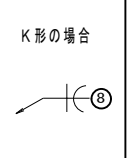


tmm	β	MC	NGC	GC	β	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	8	45°	6	9	8
t > 19	35°	9	9	8	35°	9	9	8

溶接姿勢 F, V

(4) フレア溶接

K形の場合

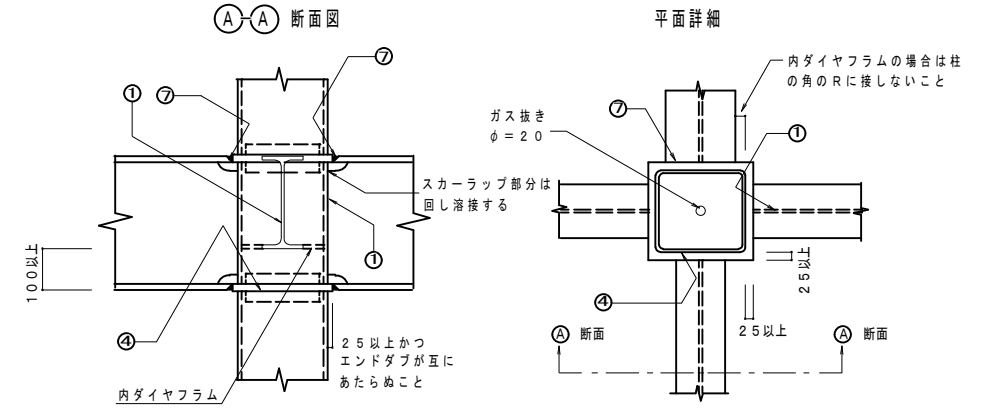
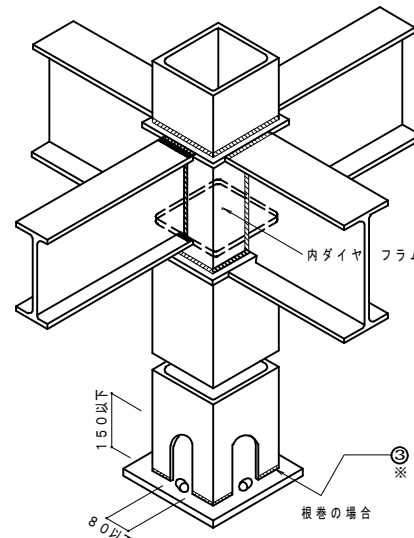


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

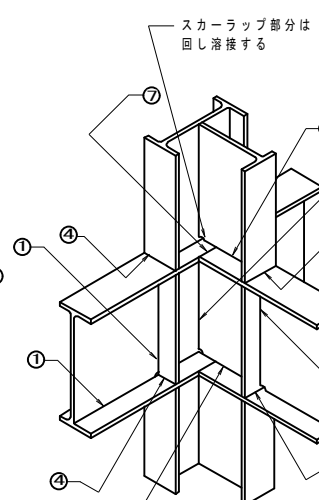
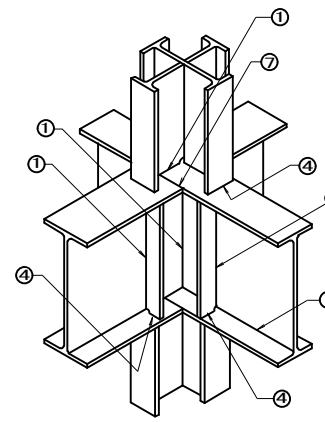
○フレア溶接長は、鋼板に接する全長とする  
 ○9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする  
 溶接角度θは30°~40°とする

○溶接記号番号を○中に記入のこと

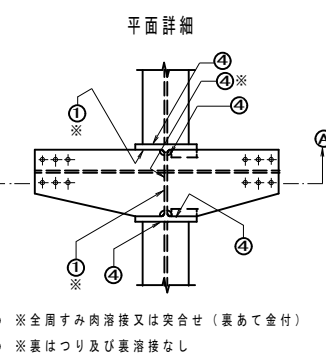
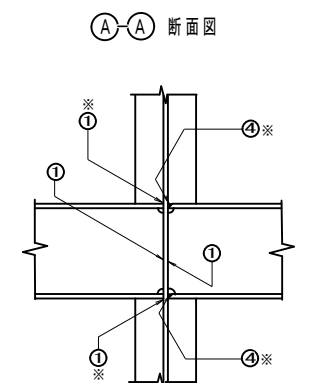
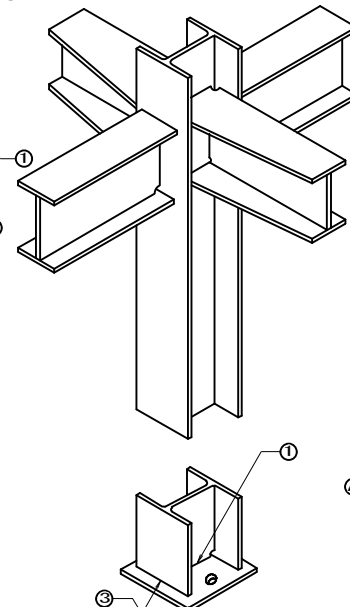
### ○BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



### ○H, H型



### ○B, H方式



- ① ※全周すみ肉溶接又は突合せ(裏あて金付)
- ② ※裏はつり及び裏溶接なし

# 鉄骨構造標準図 (2)

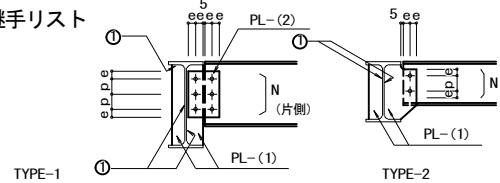
## 3. 継手標準図, その他

### (1) ボルトピッチ (P), ボルト穴径・最小線端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小線端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	2.(3)の標準	最小	標準
M16	17.0	40	28	22	40	40	60
M20	21.5	50	34	26	40	50	60
M22	23.5	55	38	28	40	55	60
M24	25.5	60	44	30	45	60	70

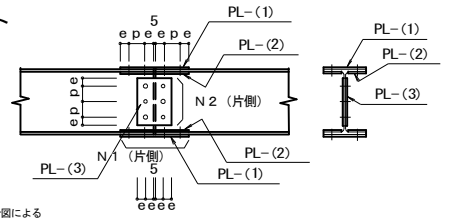
- 〔注〕 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の線端距離  
 (2) セン断線・手動ガス切断線の場合の線端距離  
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこぎ線・機械仕上線の場合の線端距離

### (2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径

### (3) 剛接合継手リスト

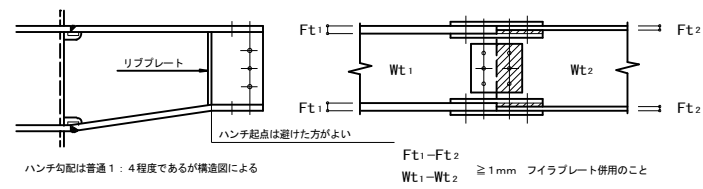


〔注〕 端部をBHとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

### (4) ハンチ部の継手

### フランジ及ウェブ厚の差がある場合

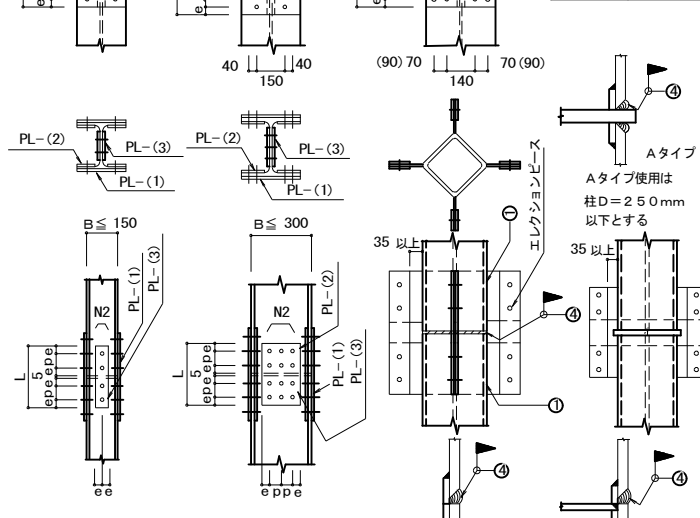
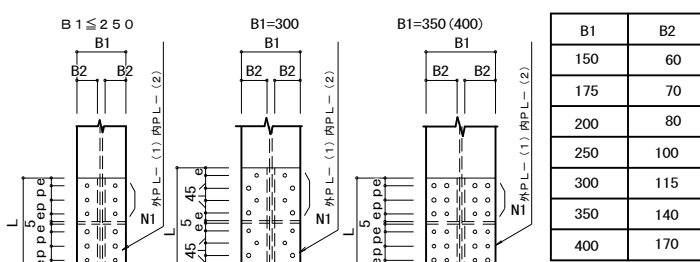


ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による

ハンチ起点は避けた方がよい

Ft1-Ft2  
Wt1-Wt2 ≥ 1mm フィラプレート使用のこと

### (5) 柱継手リスト



〔注〕 B=200~250のN2は2列並ぶとする  
 〔注〕 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

### (6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする…JISA5540~5542…1982)

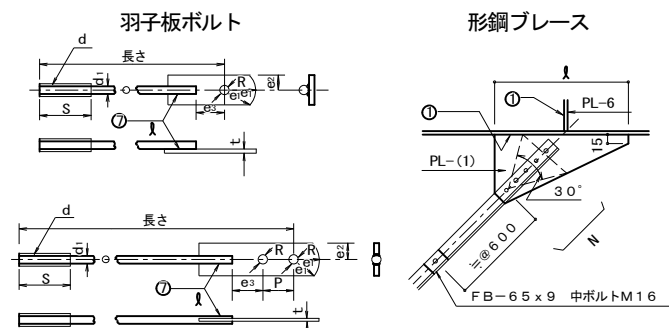
#### (a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0.0 -0.5mm R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小) (2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1) e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき (最小) e3		47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小) 1		40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中8g 10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数	1	1	1	1	1	1	2

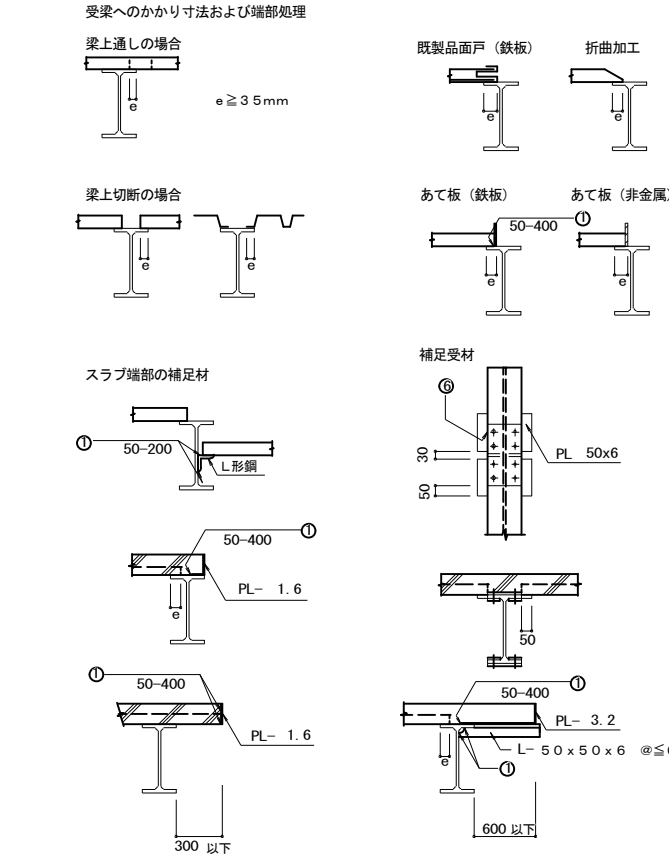
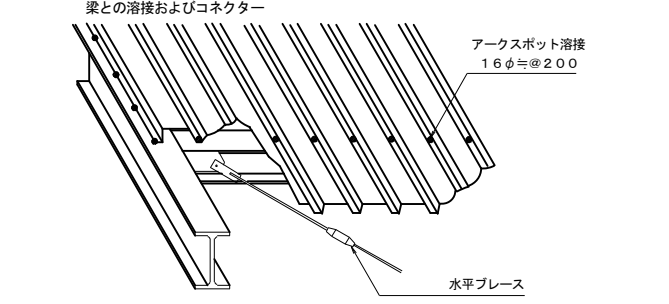
〔注〕 (1) e1, e2 が確保されない場合は形状は自由  
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

### (b) 形鋼ブレース

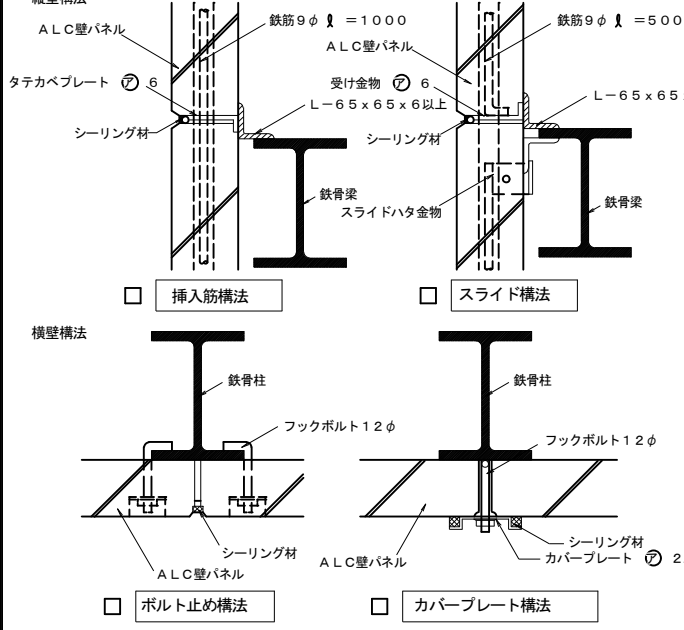
符号	部材	PL-(1)	N-径	1



### (7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成床のときは構造図参照)



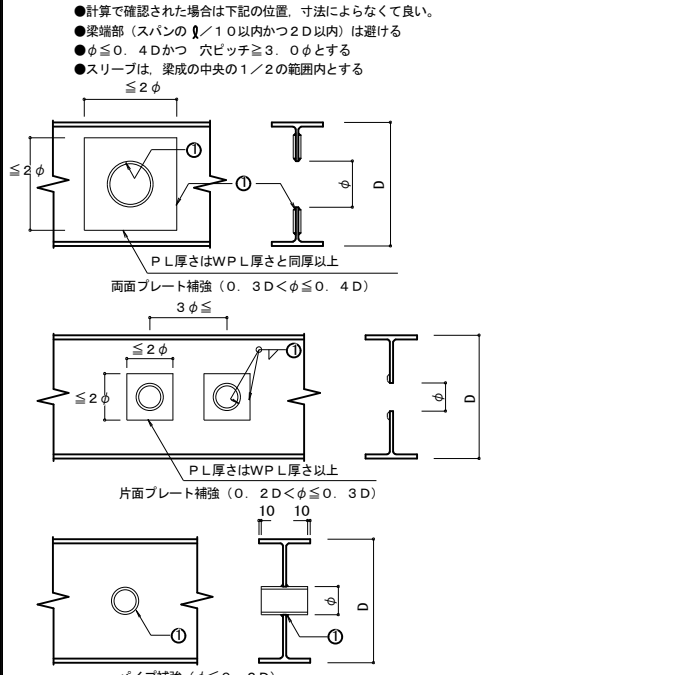
### (8) ALC板取付要領 ※ALC取付要領については、旭化成建材ベールのHDR工法同等とする。また、仕上材は目地をまたいで貼り付けないこと。



### (9) 頭付きスタッド (JIS 1198)

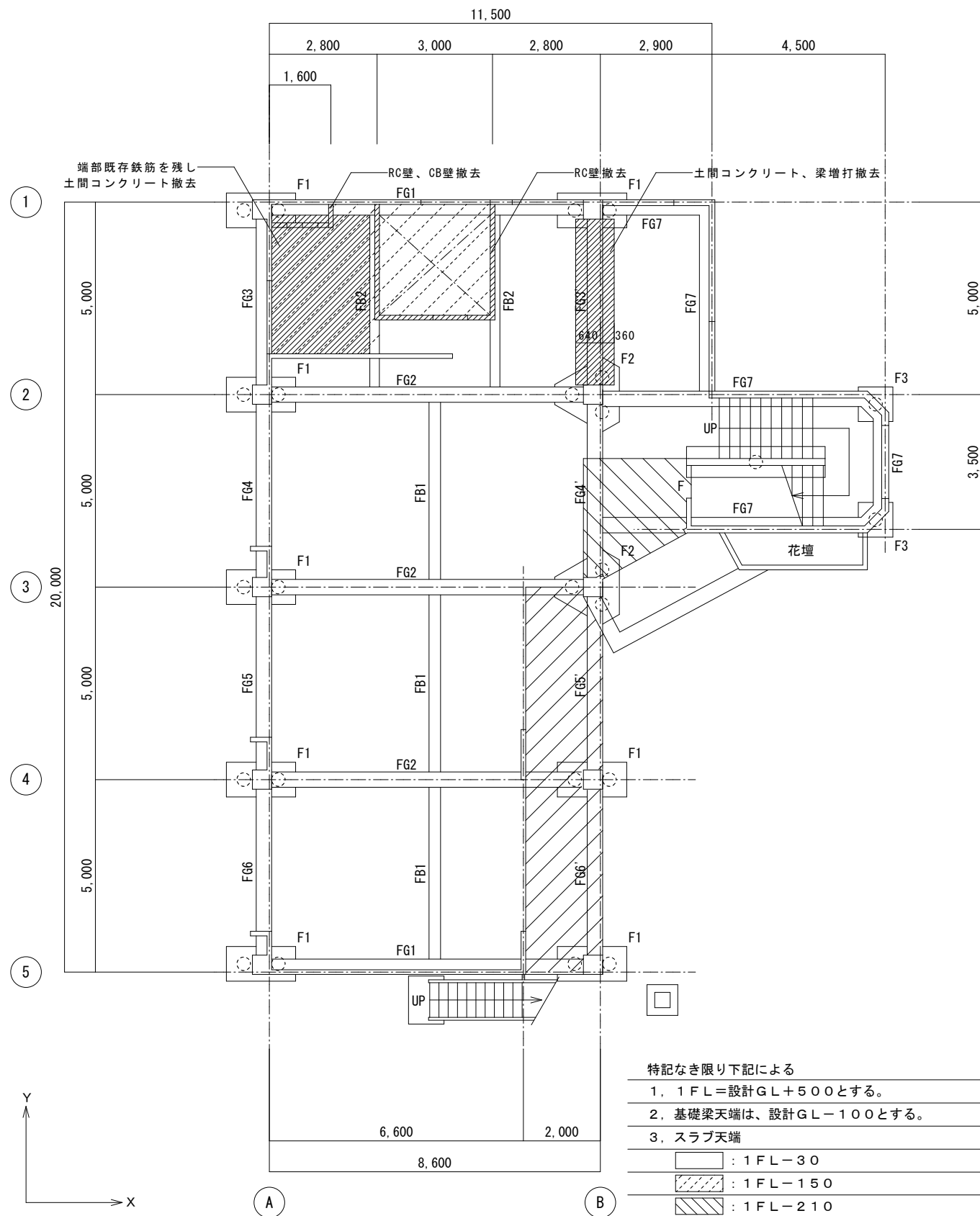
形状	スタッド材			
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm
φ 13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
	12.7	25.4	7.9	
φ 16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
	15.8	31.7	7.9	
φ 19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	19.0	31.7	9.5	
φ 22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
	22.2	34.9	9.5	

### (10) 梁貫通補強



### (11) その他

改修前

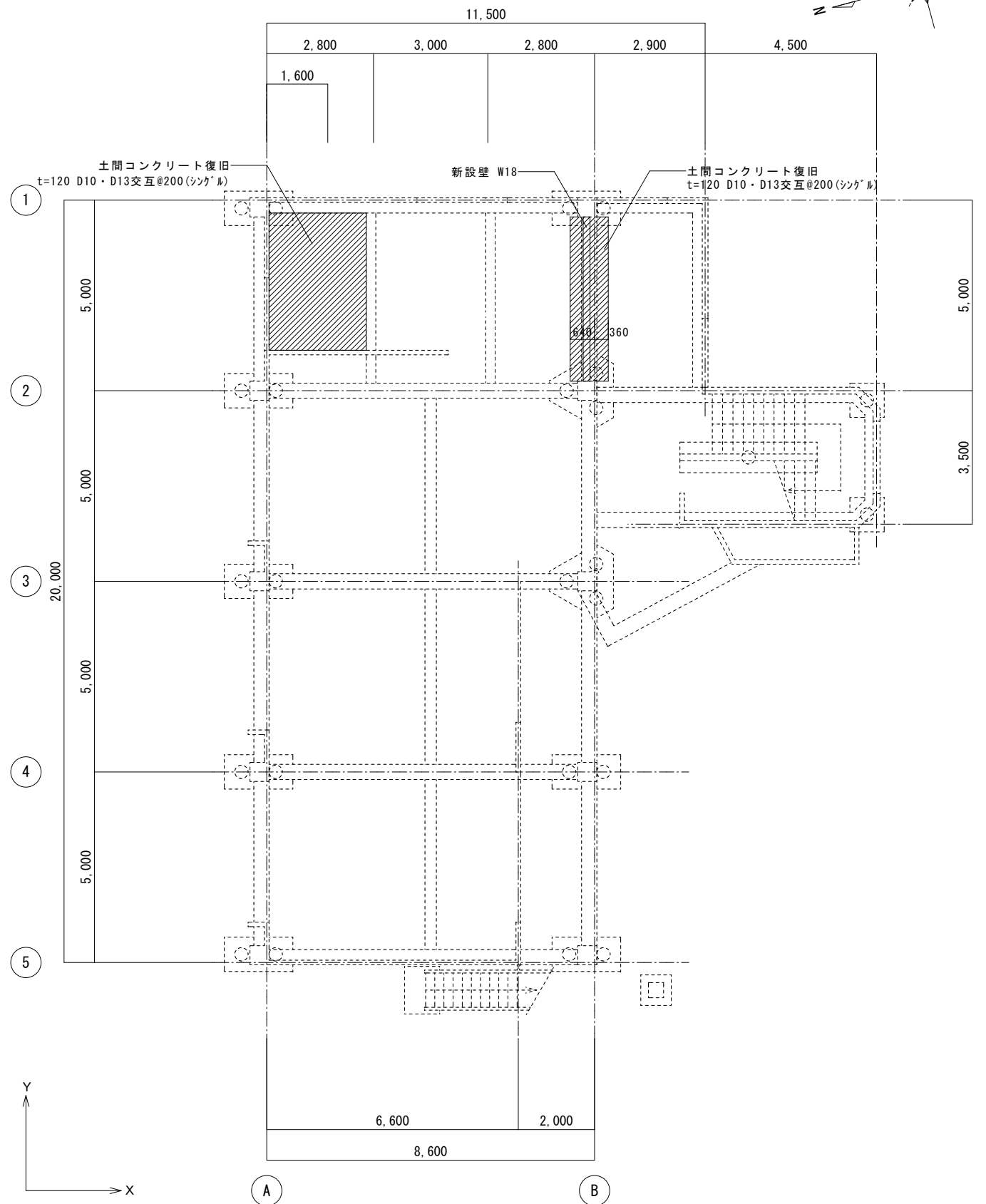


基礎伏図 1/100

特記なき限り下記による

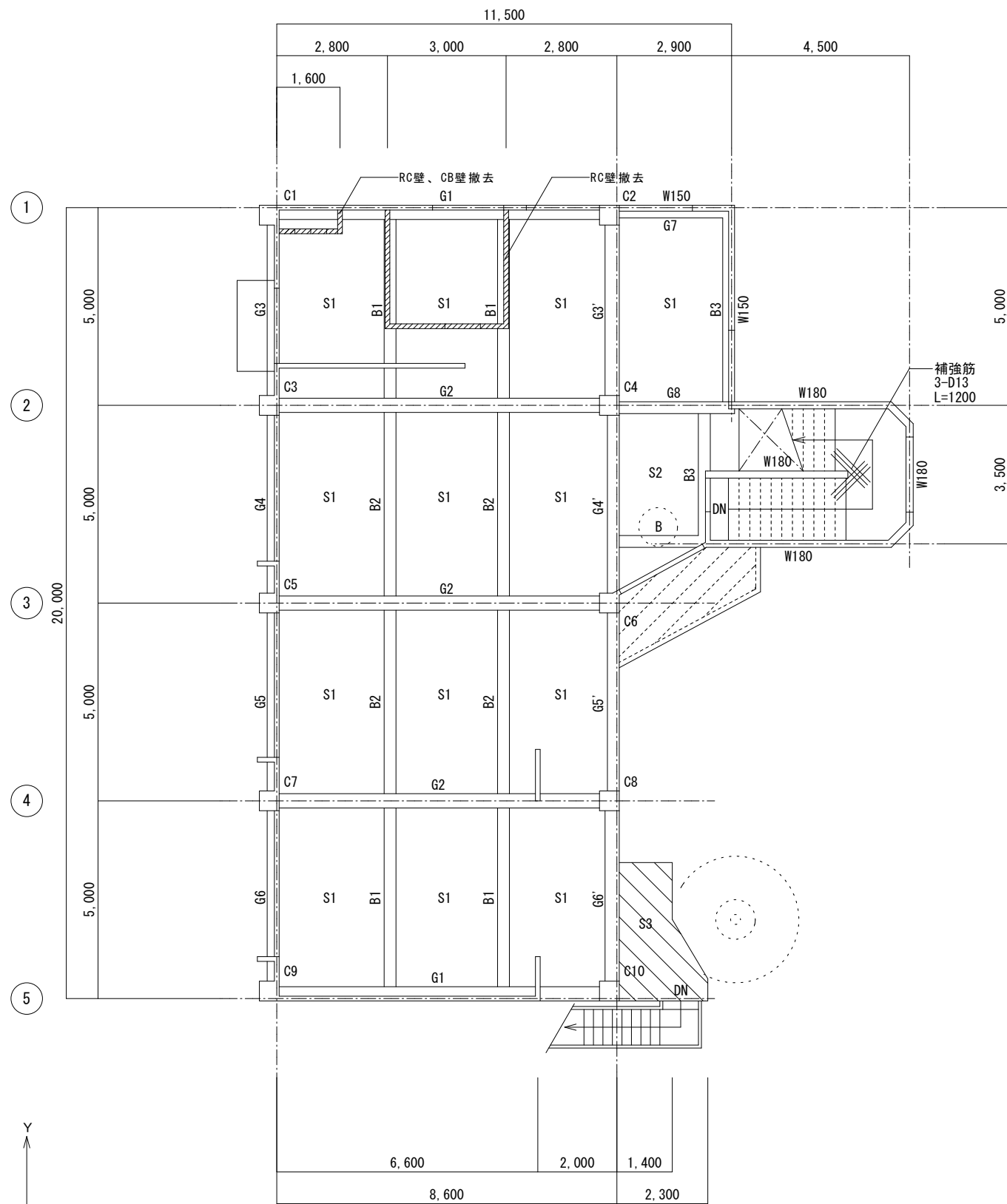
- 1FL=設計GL+500とする。
- 基礎梁天端は、設計GL-100とする。
- スラブ天端
  - : 1FL-30
  - ▨ : 1FL-150
  - ▩ : 1FL-210
  - ▧ : 1FL-330~380
  - 内数値は、1FLからのスラブ天端を示す。
- 1階床は、土間コンクリートとする。  
(t=120 9φ・13φ@200 タテヨコシングル)
- 基礎下端は、GL-1200とする。
- 杭は、PCパイル350φ、L=28mとする。

改修後



基礎伏図 1/100

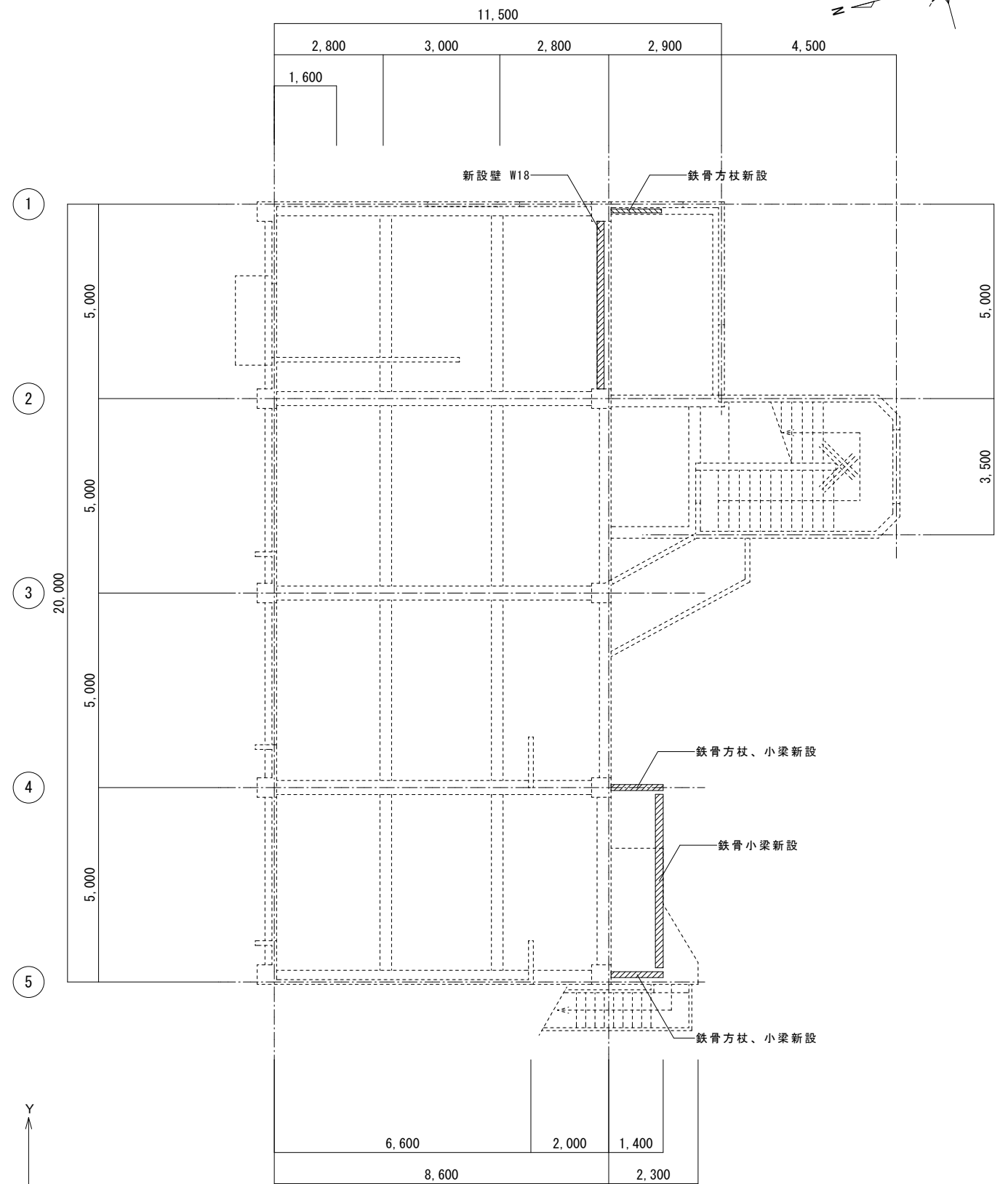
改修前



1階柱壁2階床梁伏図 1/100

- 特記なき限り下記による
- 壁は、W120とする。  
 は、コンクリートブロック (CB) を示す。
  - 梁天端は、2FL-30とする。
  - スラブ天端  
 : 2FL-30  
 : 2FL-800  
 : 2FL-170

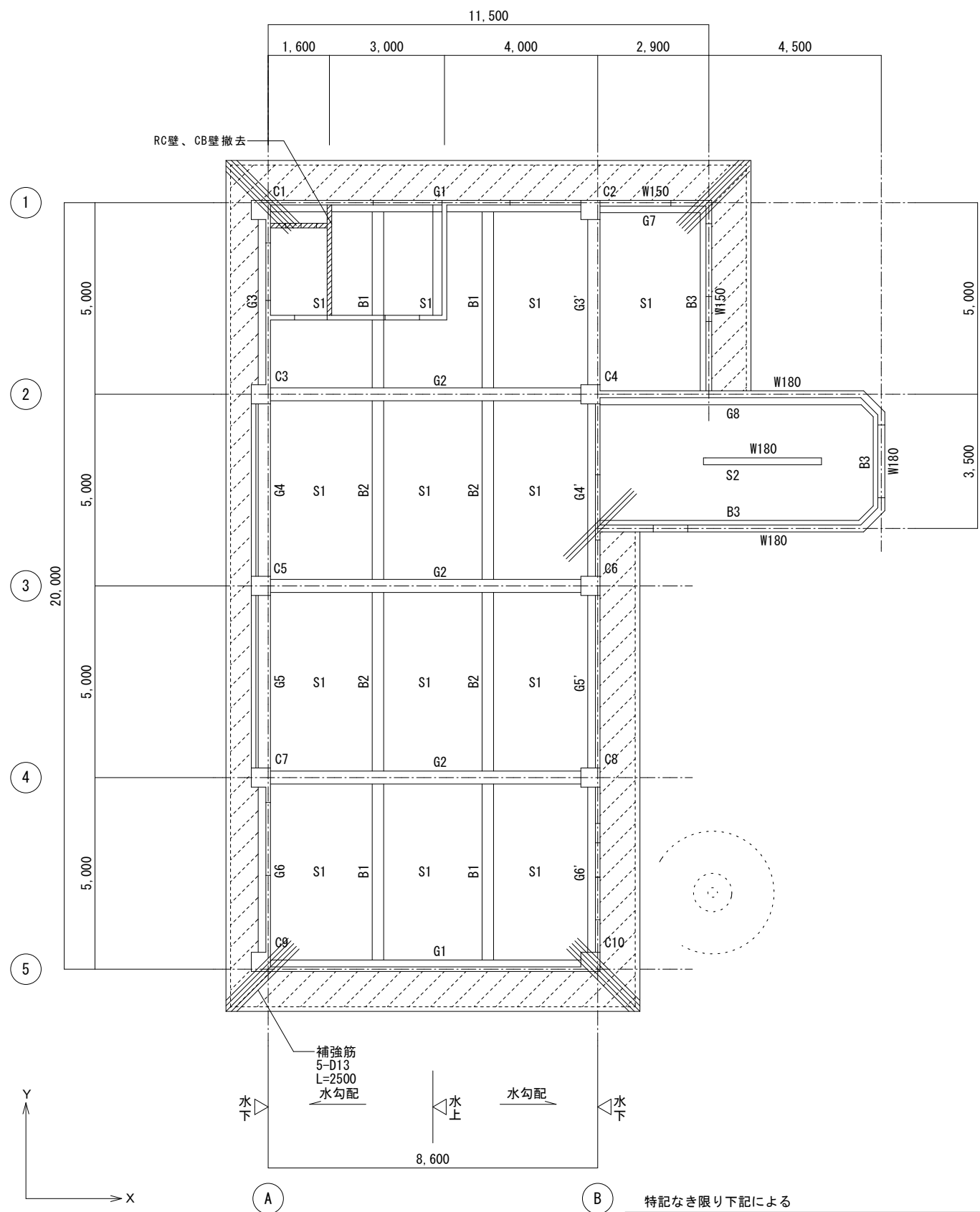
改修後



1階柱壁2階床梁伏図 1/100



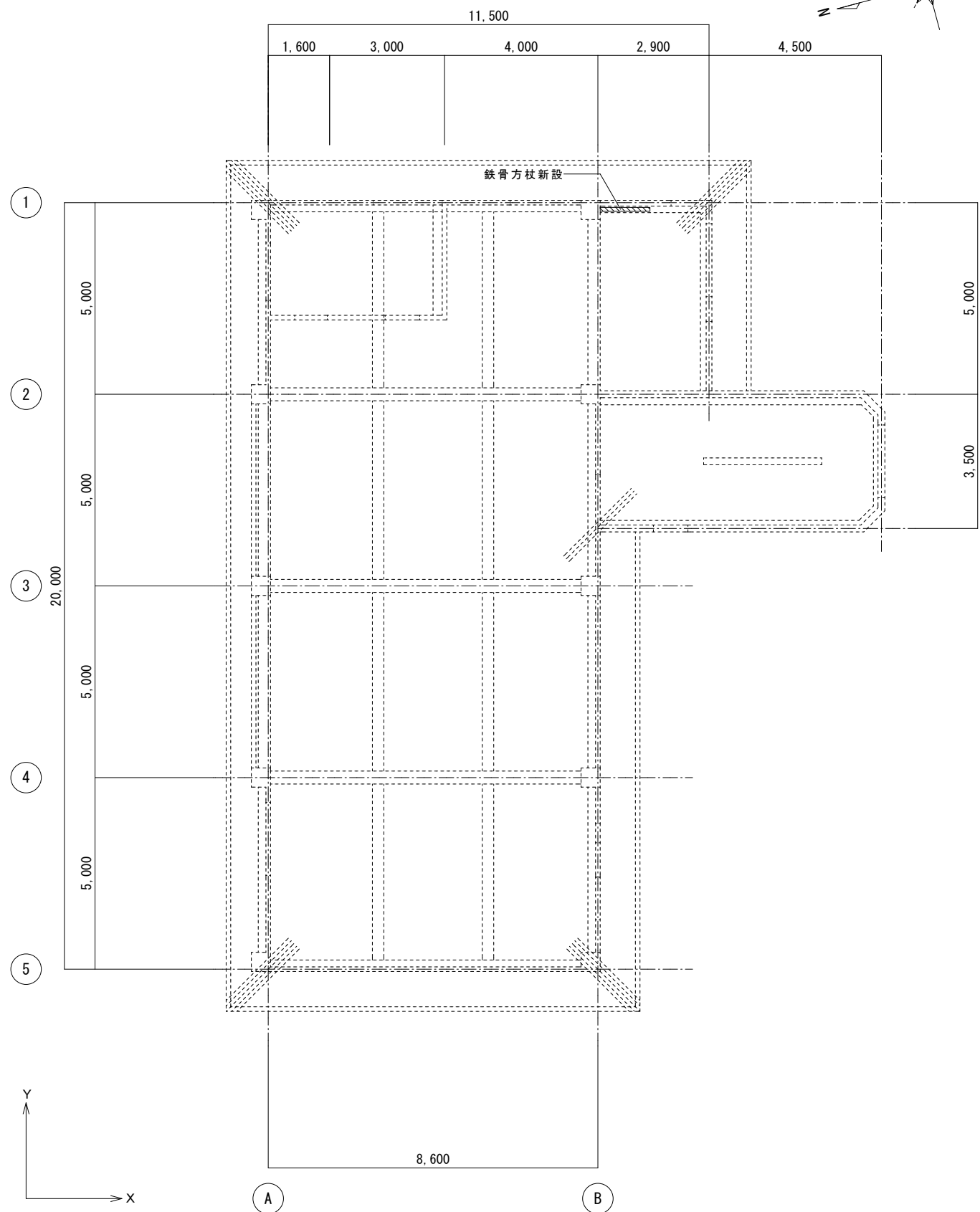
改修前



2階柱壁R階床梁伏図 1/100

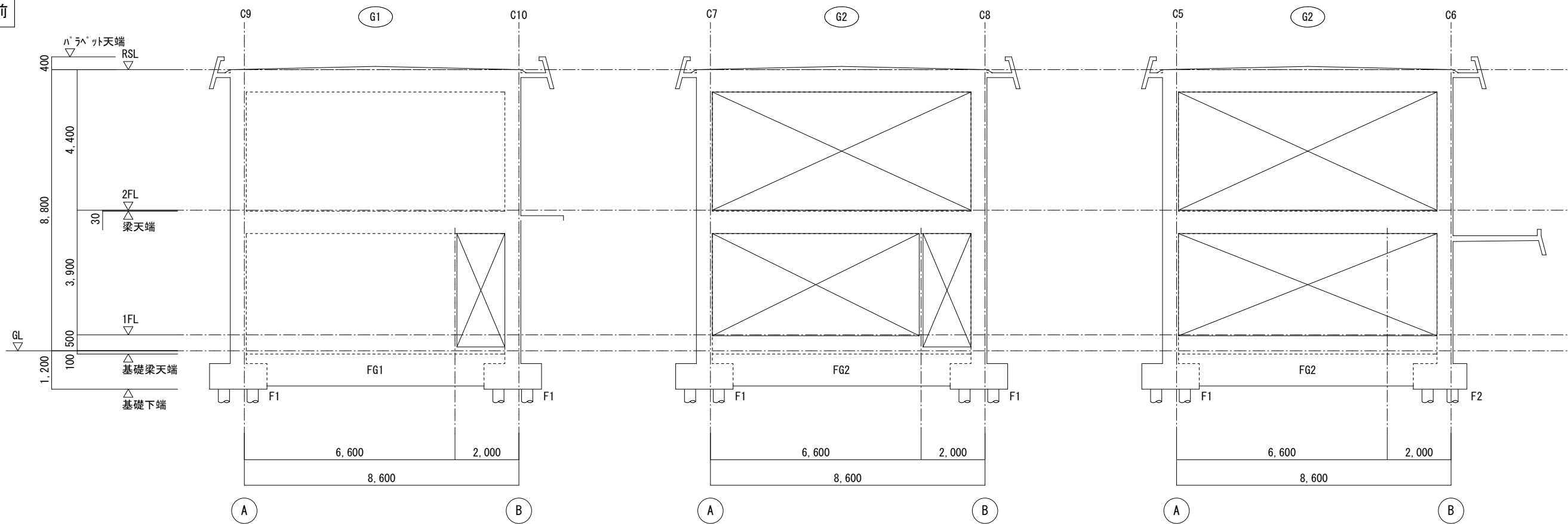
- 特記なき限り下記による
- 壁は、W120とする。
  - 梁天端は、RSL±0とする。
  - スラブ天端は、水勾配による。
- 水下：RSL±0、水上：RSL+100
- 印部スラブ天端は、RSL-100とする。

改修後



2階柱壁R階床梁伏図 1/100

改修前



特記なき限り下記による

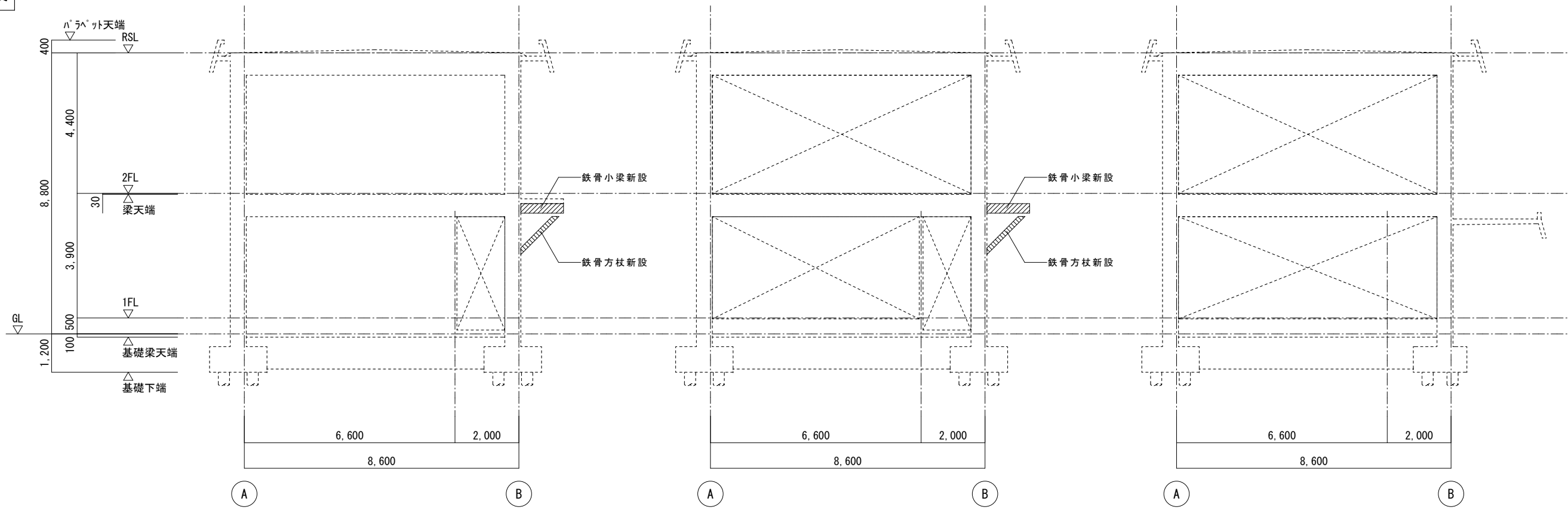
- 1. 壁は、W120とする。

5通り 軸組図 1/100

4通り 軸組図 1/100

3通り 軸組図 1/100

改修後



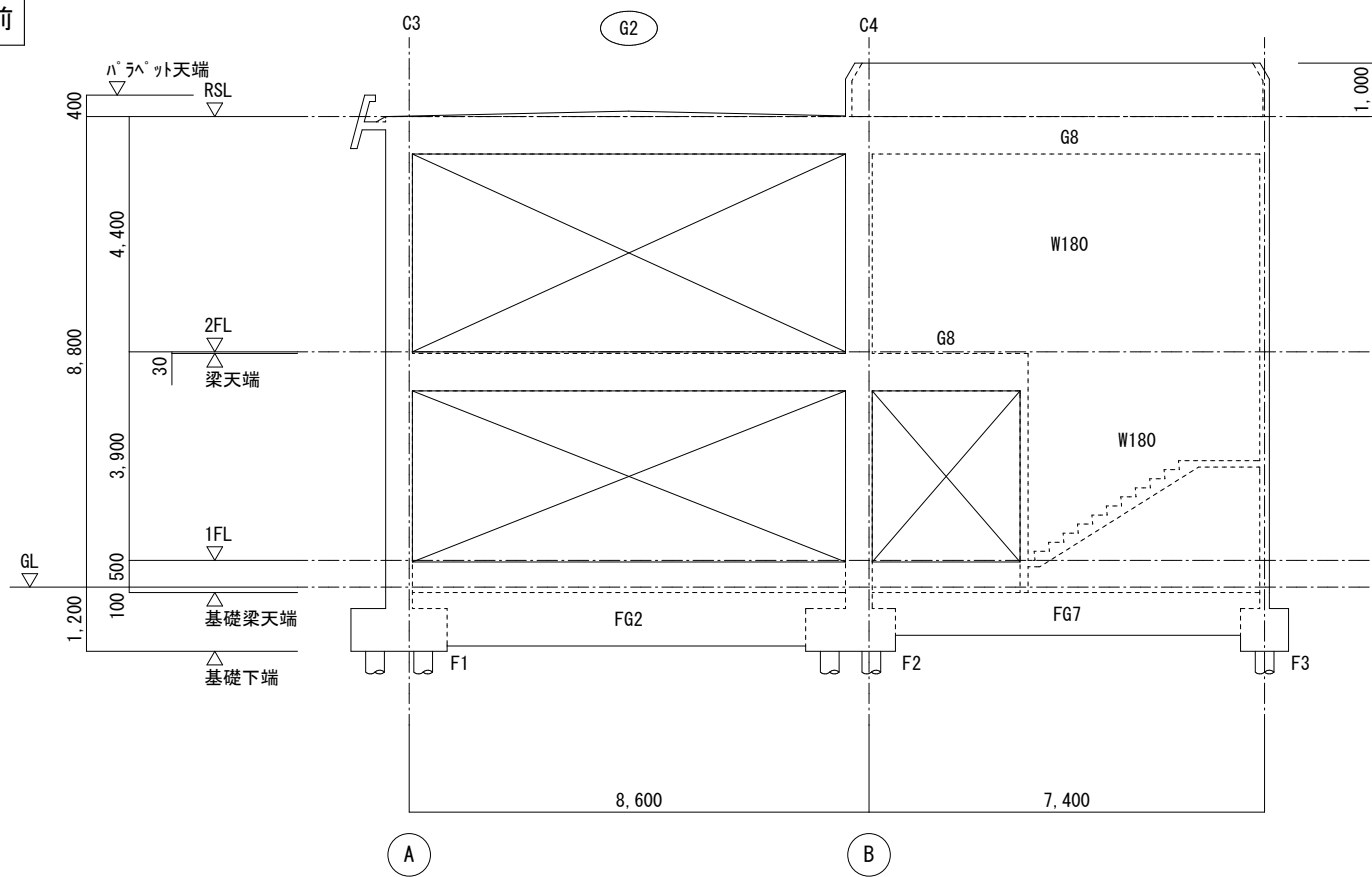
5通り 軸組図 1/100

4通り 軸組図 1/100

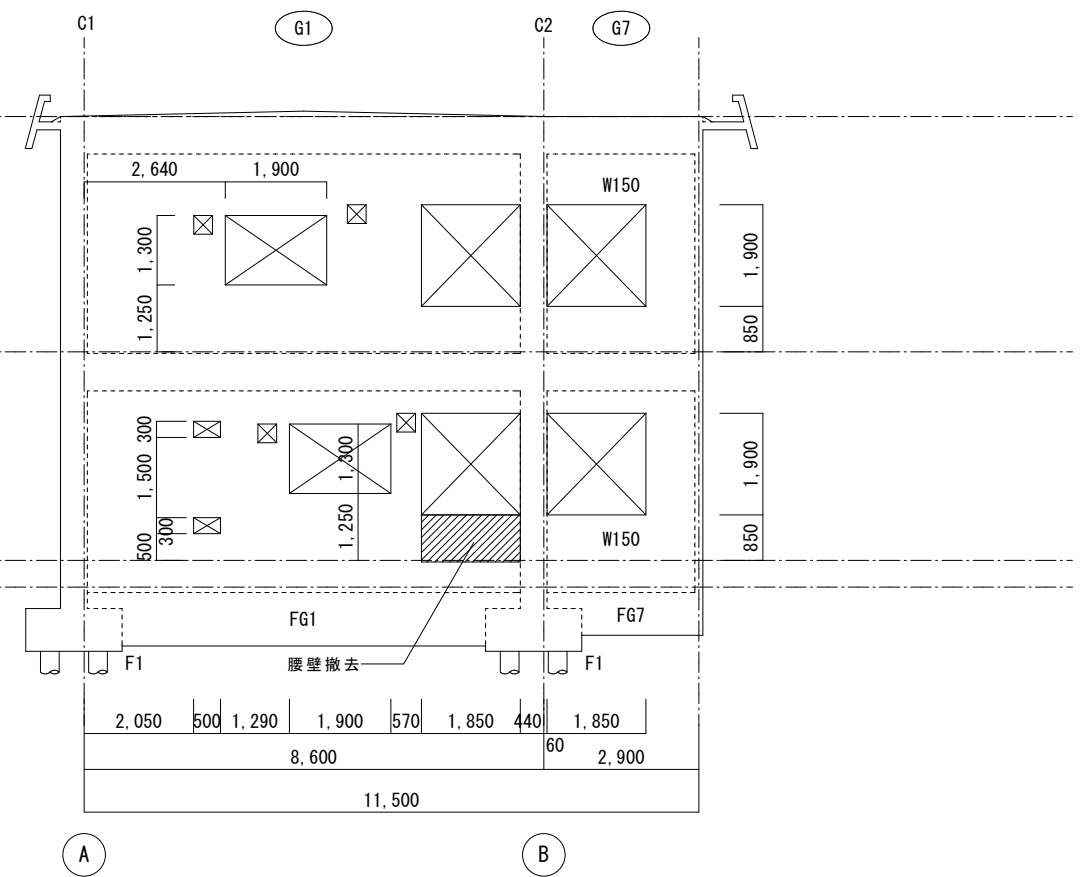
3通り 軸組図 1/100  
(改修無し)

事業年度 4年度	設計 令和4年7月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 明神会館 改修前後 軸組図(1)	(A3版-71%縮小) 図番 S-12
----------	-----------	-----------	---	---	---	----	----	-------	------------------------	---	--	---------------------

改修前



2通り 軸組図 1/100

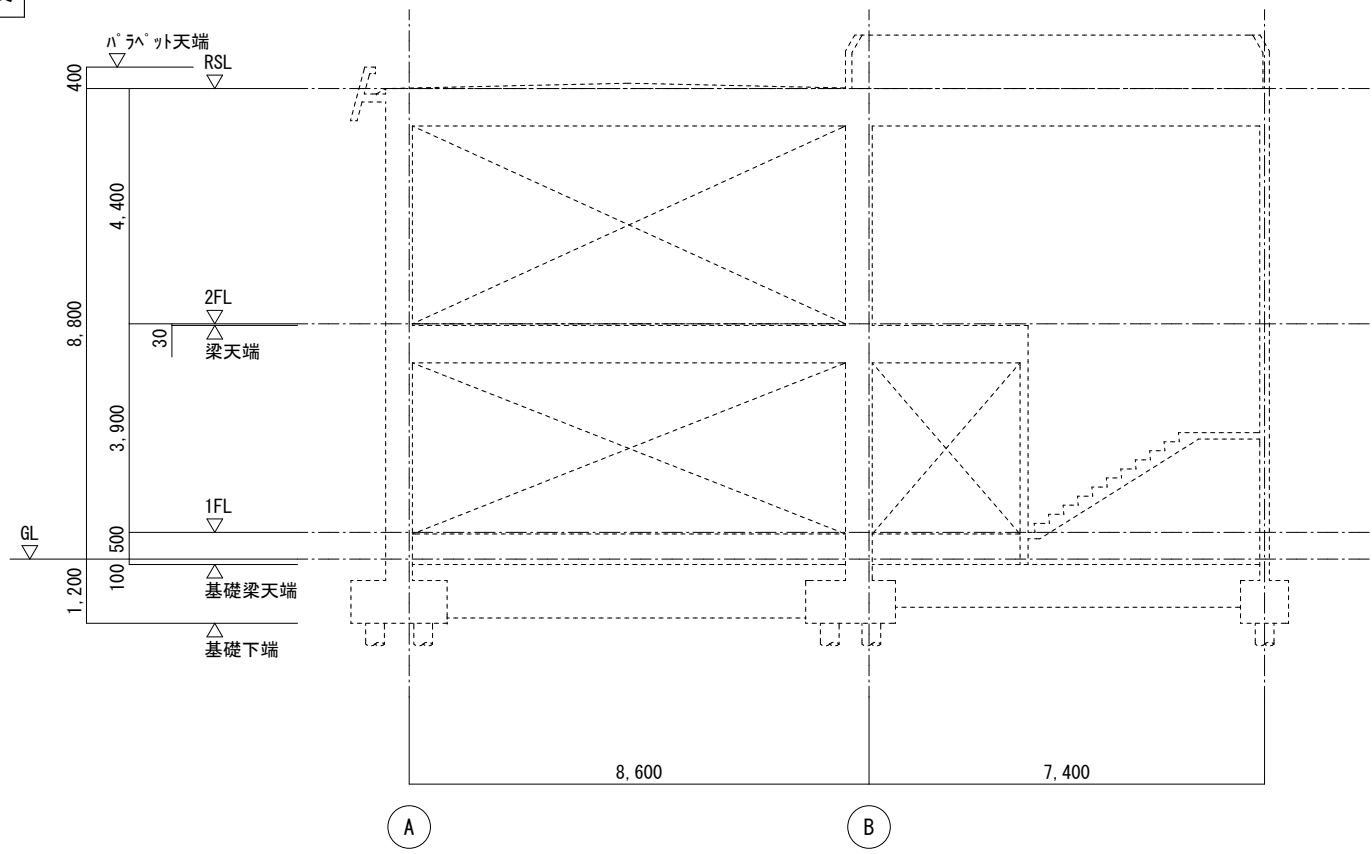


1通り 軸組図 1/100

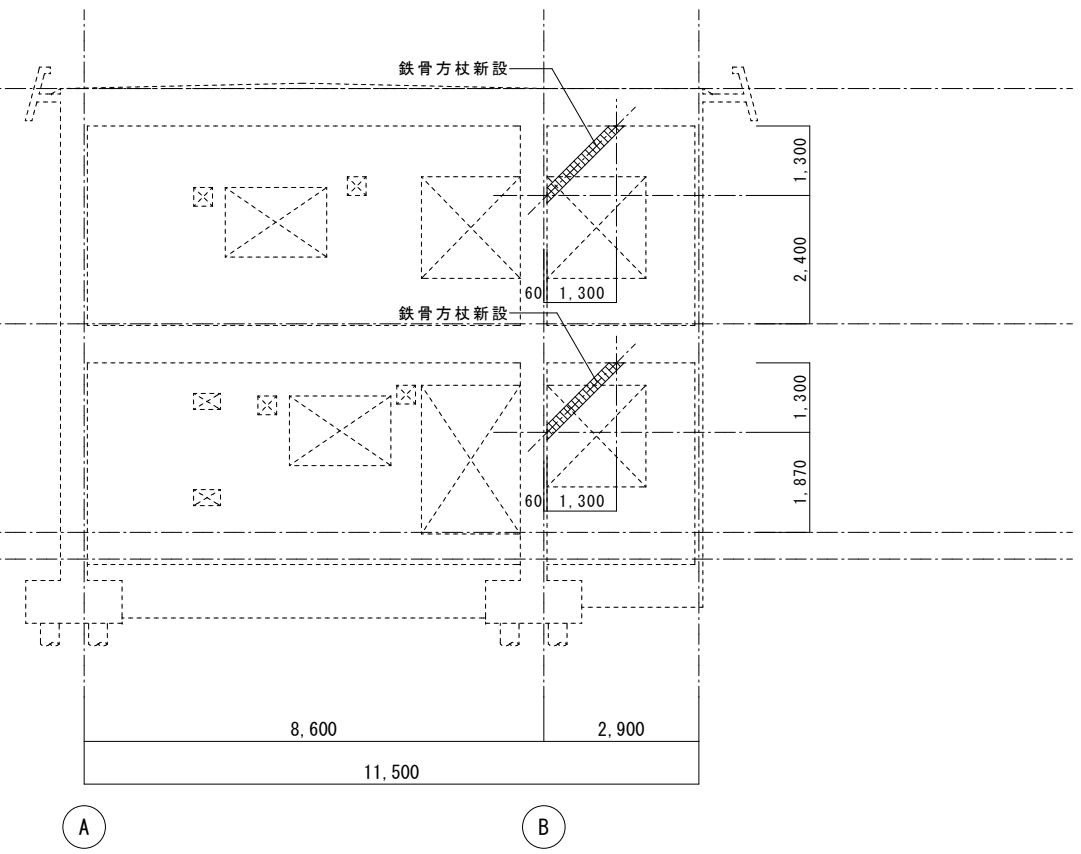
特記なき限り下記による

1. 壁は、W120とする。

改修後

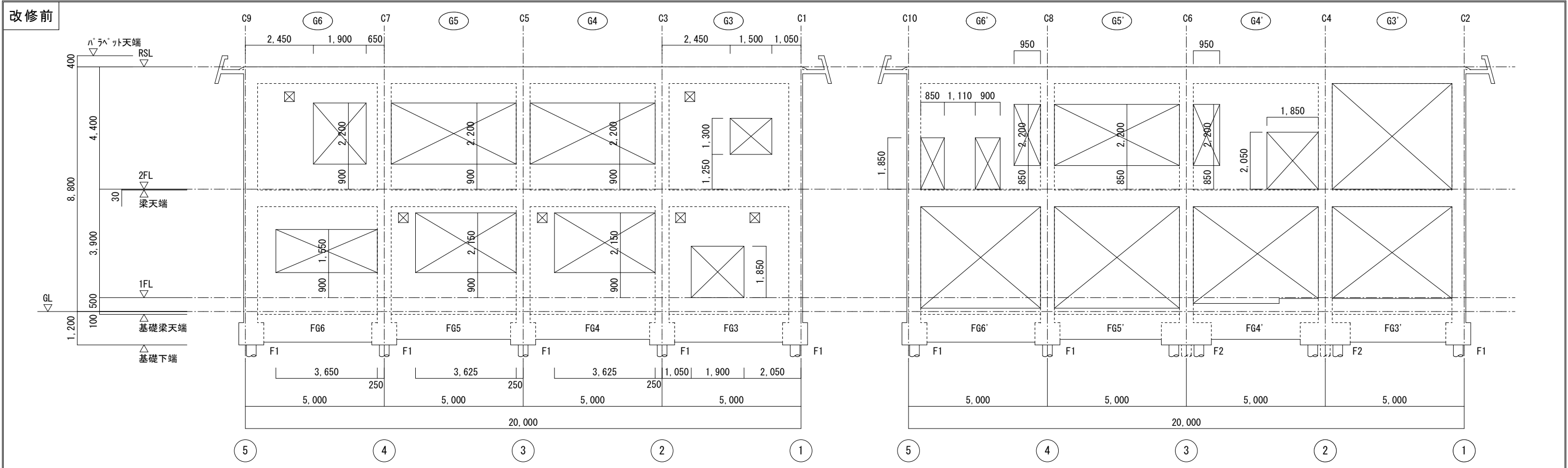


2通り 軸組図 1/100  
(改修無し)

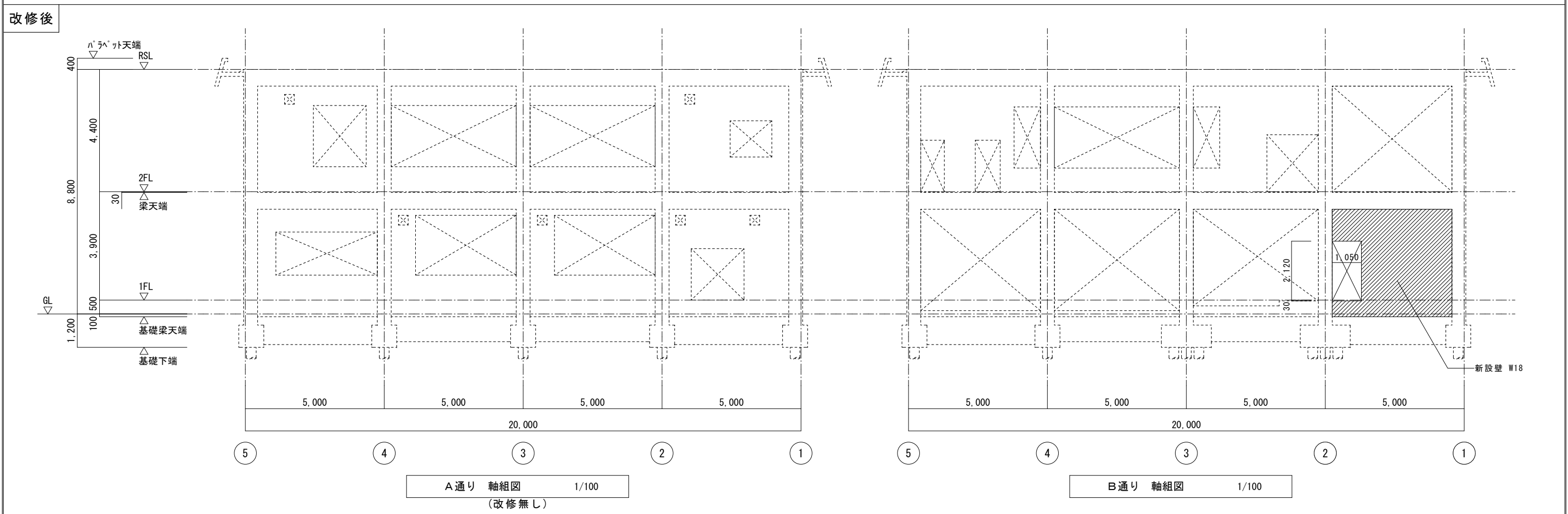


1通り 軸組図 1/100

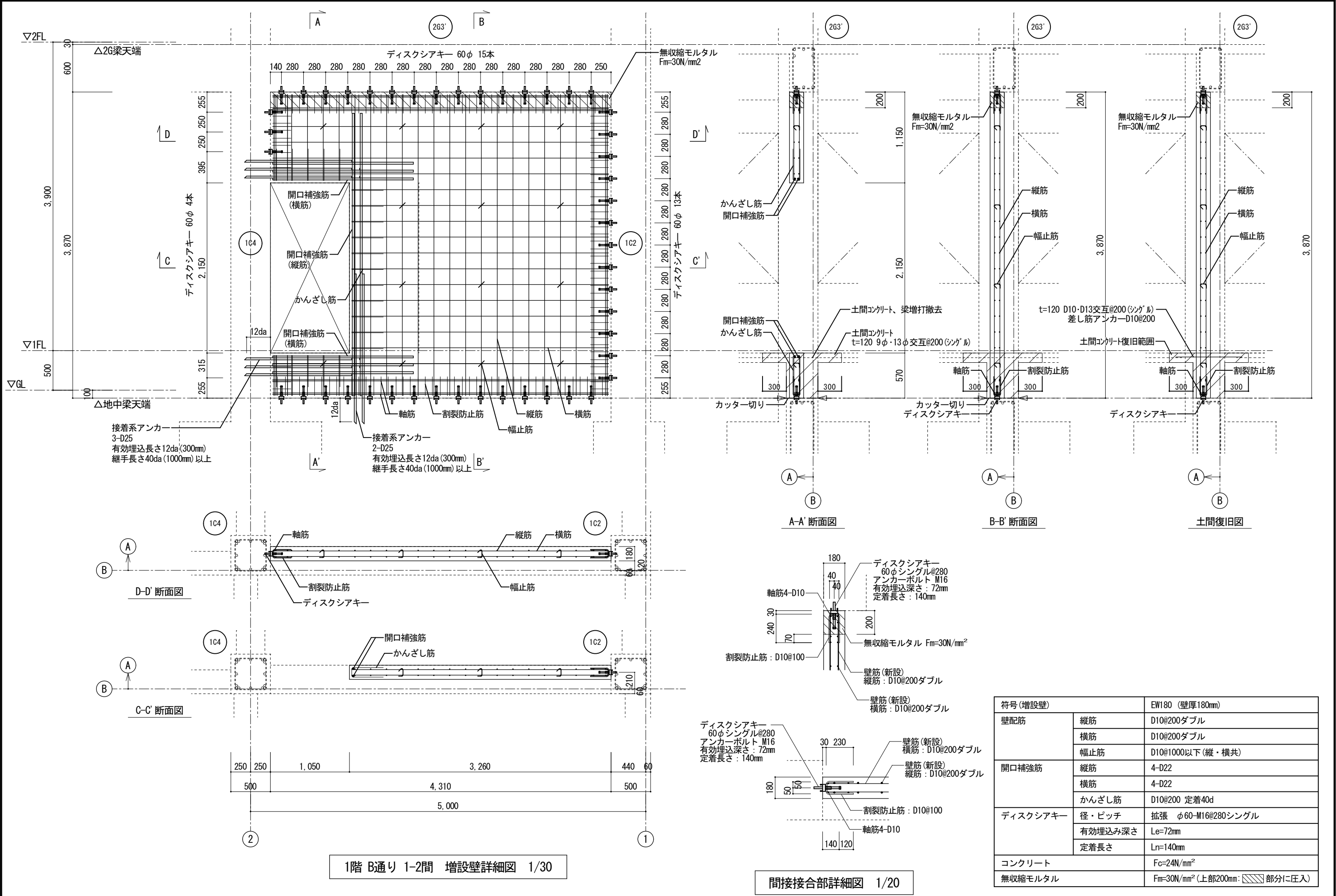
事業年度 4年度 工事完成 4年度	設計 令和4年7月	三原市都市部建築課	大 中 小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 明神会館 改修前後 軸組図(2)	(A3版-71%縮小) 図番 S-13
----------------------	--------------	-----------	-------------	----	----	----------	---------------------------	---	--	------------------------



特記なき限り下記による  
 1. 壁は、W120とする。



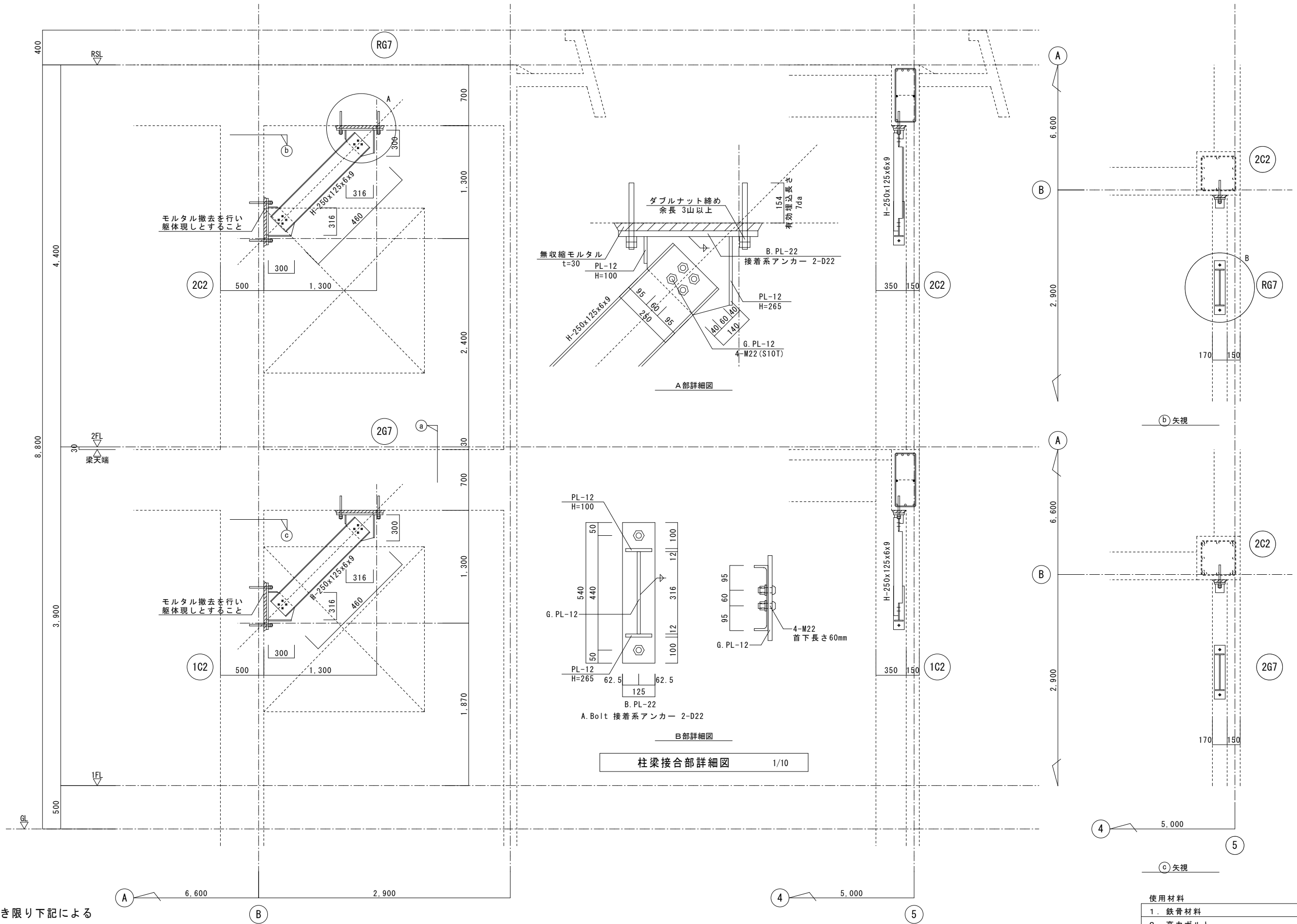
事業年度 4年度 工事完成 4年度	設計 令和4年7月	三原市都市部建築課	大 中 小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 明神会館 改修前後 軸組図(3)	(A3版-71%縮小)	図番 S-14
----------------------	--------------	-----------	-------------	----	----	----------	---------------------------	---	--	-------------	------------



1階 B通り 1-2間 増設壁詳細図 1/30

間接接合部詳細図 1/20

符号(増設壁)		EW180 (壁厚180mm)
壁配筋	縦筋	D10@200ダブル
	横筋	D10@200ダブル
	幅止筋	D10@1000以下(縦・横共)
開口補強筋	縦筋	4-D22
	横筋	4-D22
	かんざし筋	D10@200 定着40d
ディスクシアキー	径・ピッチ	拡張 φ60-M16@280シングル
	有効埋込み深さ	Le=72mm
	定着長さ	Lr=140mm
コンクリート		Fc=24N/mm <sup>2</sup>
無収縮モルタル		Fm=30N/mm <sup>2</sup> (上部200mm: 斜線部分に圧入)



1 通り片持梁補強詳細図 1/30

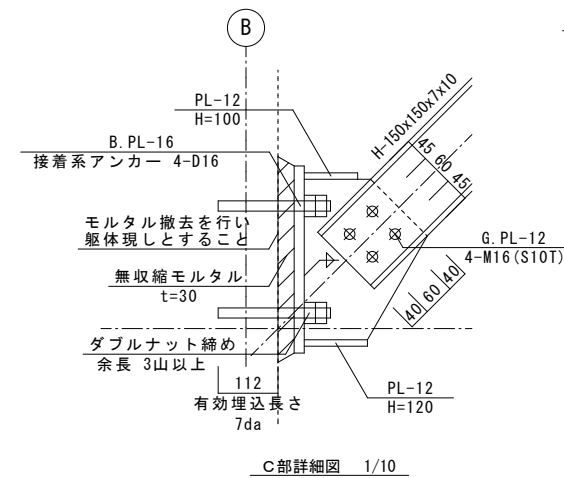
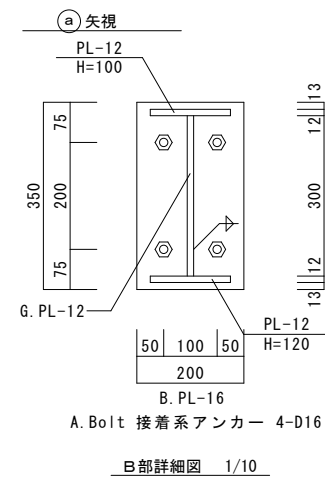
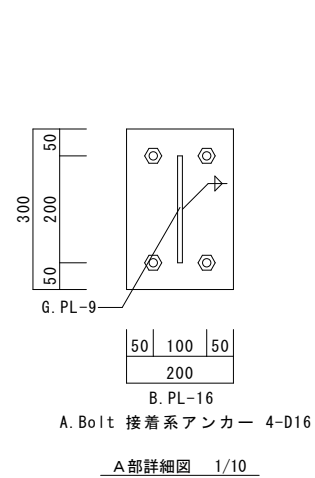
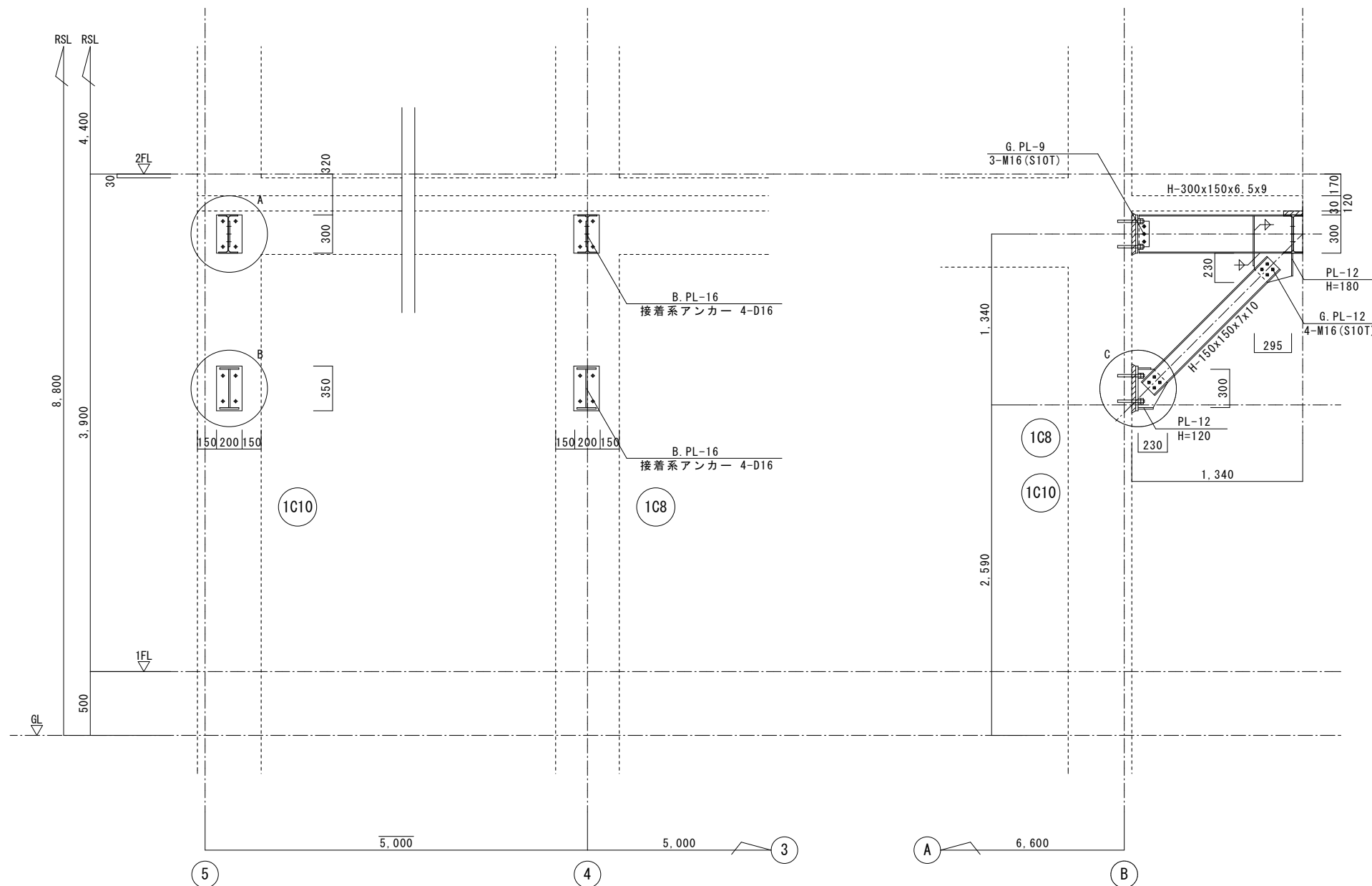
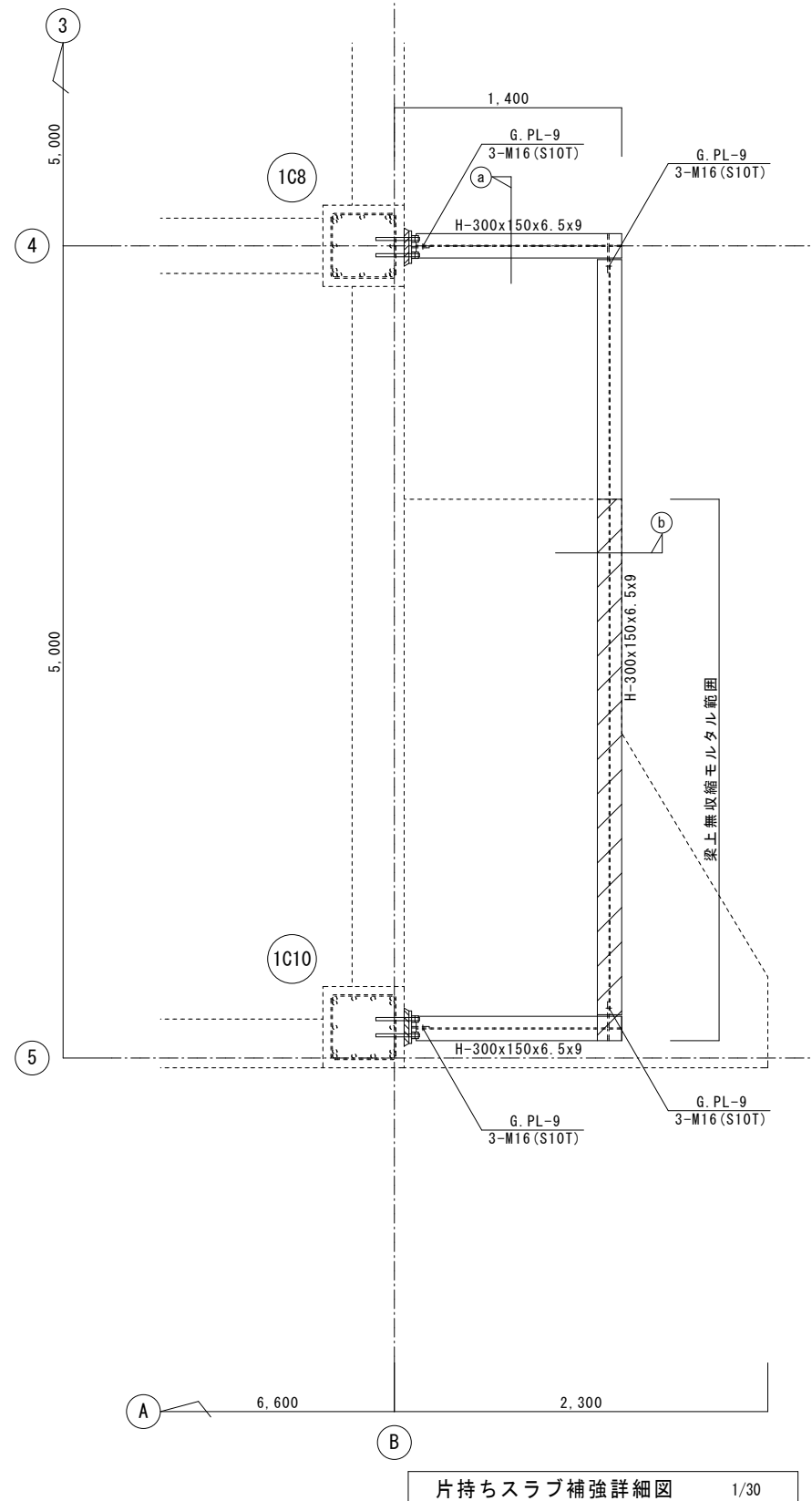
柱梁接合部詳細図 1/10

特記なき限り下記による

○ 鋼材種はSS400とする

使用材料	
1. 鉄骨材料	SS400
2. 高力ボルト	S10T
3. 無収縮モルタル	設計基準強度 $F_m = 30\text{N/mm}^2$
4. あと施工アンカー	接着系アンカー D22 (SD345)

事業年度 4年度	設計 令和4年7月	三原市都市部建築課	大 中 小	地域	施設	種類 建築	工事名 明神会館耐震改修工事 (建築主体工事)	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治	図面名称・縮尺 S=1/30, 1/10 (A3版-71%縮小)	図番 S-16
----------	-----------	-----------	-------	----	----	-------	-------------------------	---	----------------------------------	---------



特記なき限り下記による

○ 鋼材種はSS400とする

使用材料	
1. 鉄骨材料	SS400
2. 高力ボルト	S10T
3. 無収縮モルタル	設計基準強度 $F_m = 30N/mm^2$
4. あと施工アンカー	接合系アンカー D16(SD295)

事業年度 4年度	設計	大	中	小	地域	施設	種類	工事名	事務所名・建築士登録番号・氏名	図面名称・縮尺 S=1/30, 1/10 (A3版-71%縮小)	図番
工事完成 4年度	令和4年7月	三原市都市部建築課					建築	明神会館耐震改修工事(建築主体工事)	有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	明神会館 片持ちスラブ補強詳細図	S-17

# 参考数量書

工事名称 明神会館耐震改修工事（建築主体工事）

工事場所 三原市明神一丁目

[工事概要]

用途,構造,面積	鉄筋コンクリート造2階建て, 床面積406.3㎡	
工事範囲	改修工事	
別途工事	明神会館耐震改修工事（電気設備工事）, 明神会館耐震改修工事（機械設備工事）	
工期	契約締結日の翌日 ～ 令和6年2月29日	
一般事項		
《工事予算内訳》	合計金額	
〈内訳〉		
区分	金額	概要
設計金額		
消費税額		
合計金額		



工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		
調査基準価格	1	式		
調査基準価格の100/110	1	式		





建築工事 科目別内訳

明神会館									
名	称	数	量	単	位	金	額	備	考
直接仮設		1		式					
土工		1		式					
地業		1		式					
鉄筋		1		式					
コンクリート		1		式					
型枠		1		式					
鉄骨		1		式					
防水		1		式					
木工		1		式					
屋根及びとい		1		式					
金属		1		式					
左官		1		式					
建具		1		式					
塗装		1		式					
内外装		1		式					



建築工事 中科目別内訳

明神会館					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
鉄骨		1	式		
計					
防水		1	式		

建築工事 中科目別内訳

明神会館					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
木工		1	式		
計					
屋根及びとい		1	式		
計					
金属		1	式		
計					
左官		1	式		
計					
建具		1	式		
計					
塗装		1	式		
計					
内外装		1	式		
計					

建築工事 中科目別内訳

明神会館					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
エント及びその他		1	式		
計					
外構		1	式		
計					
躯体改修		1	式		
計					
解体		1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					



建築工事 細目別内訳

明神会館		直接仮設					
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
墨出し	一般 RC・SRC造 地上階	301	m <sup>2</sup>				
養生	一般 RC・SRC造 地上階	301	m <sup>2</sup>				
整理清掃 後片付け	一般 RC・SRC造 地上階	301	m <sup>2</sup>				
脚立足場		131	m <sup>2</sup>				
枠組本足場	W=600 3か月	153	m <sup>2</sup>				
防音シート張り	北面 3ヶ月	153	m <sup>2</sup>				
安全手摺 北面 2階集会室 2階トイレ		66.6	m				
高所作業車 作業床高さ6m	自走式リフトホイール垂直型	30	台・日				
ラフテレスクレーン (油圧伸縮シブ型)	25t吊り 標準 オペレータ付き 賃料	2	日				
枠組本足場 南面	W=600 2か月	123	m <sup>2</sup>				
防音シート張り 南面	2か月	110	m <sup>2</sup>				
安全手摺 南面	2か月	21.6	m				
ブラスケット足場 西面	2か月	52.6	m <sup>2</sup>				
枠組本足場 2階集会室 2階トイレ	W=900 3か月	87.5	m <sup>2</sup>				













明神会館		鉄骨					
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
H形鋼	H-250*125*6*9 SS400	0.1	t				
H形鋼	H-300*150*6.5*9 SS400	0.3	t				
H形鋼	H-150*150*7*10 SS400	0.1	t				
鉄骨運搬	6t車	0.7	t				
鉄骨現場建方	低層(標準) 建方機械別途	0.7	t				
鉄骨加工 ・組立	母屋. 胴縁の類 一般 普通ボルト締共	0.7	t				
鉄骨現場錆止め 塗料塗り	軽量 60m <sup>2</sup> /t程度 鉄鋼面 工程B種 鉛・クロム7リ-さび止め 1回目別途	0.7	t				
鋼板	PL-9 SS400	0.02	t				
鋼板	PL-12 SS400	0.1	t				
鋼板	PL-16 SS400	0.03	t				
鋼板	PL-22 SS400	0.1	t				
高力ボルト	M22*60 S10T	17	本				
高力ボルト	M16*40 S10T	12	本				
高力ボルト	M16*45 S10T	17	本				
JIS形 高力ボルト締付け	ビル鉄骨 1,000本未満 施工手間	44	本				











明神会館		金属				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり @450	66.7	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨壁下地	100形 下地張りあり @450	14.4	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 インサート別途	63.9	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井下地 振止め補強加算	ふところ高1.5~3.0m	12.6	m <sup>2</sup>			
LGS開口補強	壁 三方 950*2100	2	か所			
LGS開口補強	壁 三方 1050*2100	1	か所			
LGS開口補強	四方 500*900	1	か所			
LGS開口補強	600*600	10	か所			
SUS床見切		7	m			
壁見切縁	アルミ製 厚12	105.7	m			
鋼製床組	埋込タイプ シングル根太 H123	12.6	m <sup>2</sup>			
床下点検口	600*600 二重化粧蓋	1	か所			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 600角	10	個			
PL-3.2		10	か所			
アルミパネル	t=1.0	0.9	m <sup>2</sup>			

明神会館		金属				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
あと施工アンカーナット付き	接着系 D22 横向き L=280mm	4	本			
あと施工アンカーナット付き	接着系 D22 上向き L=280mm	4	本			
あと施工アンカーナット付き	接着系 D16 横向き L=210mm	16	本			
あと施工アンカー	接着系 D25 横向き L=1130mm	6	本			
あと施工アンカー	接着系 D25 下向き L=1130mm	2	本			
PL-5@450	18か所	13.6	kg			
FB-5*50@450	18か所 曲げ加工	11.9	kg			
LGS開口補強	1350*1350	2	か所			
LGS開口補強	900*1350	3	か所			
LGS開口補強	960*690	1	か所			
LGS開口補強	890*890	6	か所			
LGS開口補強	690*1270	4	か所			
計						



明神会館		建具				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
AW1	カー工法	1	か所			
AW2	カー工法	2	か所			
AW3		1	か所			
LD1		1	か所			
LD2		1	か所			
LD3		1	か所			
LD4		1	か所			
LD5		2	か所			
PT1		1	か所			
PT2		1	か所			
PT3		1	か所			
PT4		1	か所			
PT5		1	か所			
PT6		1	か所			
PT7		1	か所			







明神会館		内外装				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ビニル幅木張り	高さ100	37.9	m			
床ビニル床シート張り (無地)	厚2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法	83.6	m <sup>2</sup>			
床ビニル床シート張り (無地)	厚2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法	1.3	m <sup>2</sup>			
床ビニル床シート張り (無地)	厚2.0 複層ビニル床シートFS 一般床 熱溶接工法	3.2	m <sup>2</sup>			
構造用合板	t=12 特類	25.2	m <sup>2</sup>			
ポーストフォーム	t=25	12.5	m			
ラワン合板	t=21 特類	2	m <sup>2</sup>			
壁 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノンズ)0.8FK 厚 6 鋼製、木、ポースト下地 突付け -	105	m <sup>2</sup>			
天井 化粧 せっこうポースト 張り(GB-D)	厚 9.5 準不燃 トラバーチン 突付け	38.3	m <sup>2</sup>			
天井 吸音用 あなあきせっこう ポースト張り(GB-P)	厚 9.5 φ6-22 不燃紙裏打(準不燃) 突付け	51.3	m <sup>2</sup>			
壁 せっこうポースト 張り(GB-R)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 下地張り -	20.1	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうポースト 張り(GB-S)	厚 9.5 準不燃 鋼製、木、ポースト下地 下地張り -	112	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうポースト 張り(GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ポースト下地 下地張り -	134.3	m <sup>2</sup>			
GB-S	t=12.5 GL貼	56.4	m <sup>2</sup>			
ロックウール	t=50 敷込	56.2	m <sup>2</sup>			

明神会館		内外装					
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
ビニルクロス		83.3	m <sup>2</sup>				
壁紙素地ごしらえ	ボード面 工程B種 -	66.6	m <sup>2</sup>				
壁紙素地ごしらえ	コンクリート面 工程B種 -	16.7	m <sup>2</sup>				
コーナークラフト		0.6	m				
天井廻縁	塩化ビニル製	94	m				
木製廻り縁		5.6	m				
ロールスクリーン	L900 チェーン式	2	か所				
ロールスクリーン	L1800 チェーン式	4	か所				
開口塞ぎ	PL-3.2 片面400*400 4か所	0.1	t				
開口塞ぎ	PL-3.2 両側400*400 穴あけ加工 1か所	0.02	t				
開口塞ぎ	PL-3.2 両側450*450 穴あけ加工 1か所	0.03	t				
換気孔	アルミ製150φ 内外共	1	か所				
計							







明神会館		解体					
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
コンクリート撤去	コンクリートブレイカ 集積共	7	m <sup>3</sup>				
床組撤去	つか立て 集積共	13.7	m <sup>2</sup>				
長尺クッションフロア	t=2.7	7.1	m <sup>2</sup>				
ビニルタイル張り	t=2.0	40.8	m <sup>2</sup>				
モザイクタイル25角		7.64	m <sup>2</sup>				
既存防水層撤去	屋内防水層 シート防水層 集積共	7.64	m <sup>2</sup>				
ビニル幅木撤去	一般 集積共	76.1	m				
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20~30mm	97.4	m				
床モルタル・床人研ぎ撤去	集積共	46.64	m <sup>2</sup>				
壁モルタル・プラスター撤去	集積共	153.3	m <sup>2</sup>				
木下地		10.9	m <sup>2</sup>				
既設木製間仕切壁	H=2700	15.1	m <sup>2</sup>				
杓摺	テラゾブロック	3	本				
面台	テラゾブロック	1	m <sup>2</sup>				
CB撤去	コンクリートブレイカ 集積共	2.3	m <sup>3</sup>				



明神会館		解体				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
100角半磁器質タイル	H=1300, 1200	37.5	m <sup>2</sup>			
LGS天井下地		57.7	m <sup>2</sup>			
木天井下地		29.8	m <sup>2</sup>			
GB-D	t=9.5 天井	37.1	m <sup>2</sup>			
GB-R	t=12	19	m <sup>2</sup>			
石綿大平板	t=9.5(石綿含有 $\leq$ 3%)	29.8	m <sup>2</sup>			
吸音テックス	t=9.0(石綿含有 $\leq$ 3%)	20.6	m <sup>2</sup>			
塩ビ製廻り縁		65.7	m			
木製廻り縁		5.6	m			
床マンホール・点検口撤去	集積共	1	か所			
天井点検口撤去	集積共	5	か所			
カーテンボックス	180*150	3.7	m			
カーテンレール		8.9	m			
手摺	L=600	1	か所			
ガラス製隔て板	金属製枠	3.3	m <sup>2</sup>			

明神会館		解体					
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
鏡		0.3	m <sup>2</sup>				
換気孔	アルミ製150φ 内外共	1	か所				
ミニキッチン		1	か所				
木製棚		1	か所				
たてどい撤去	VP管 集積共	2.5	m				
段鼻タイル	100角 下地調整共	0.3	m <sup>2</sup>				
磁器質タイル	100角 下地調整共	0.1	m <sup>2</sup>				
AD1既設, AG1既設	扉のみ	3.5	m <sup>2</sup>				
AW1既設	枠共	3.2	m <sup>2</sup>				
AD2既設, SD1既設	枠共	1.9	m <sup>2</sup>				
WD1既設, WD3既設	枠共	5.7	m <sup>2</sup>				
PT1既設, PT2既設	扉のみ	16.8	m <sup>2</sup>				
カッター入れ	モルタル面 厚さ20~30mm	14.4	m				
壁モルタル・プラスター撤去	集積共	1.4	m <sup>2</sup>				
計							







